静岡県看護協会講習・研修報告

ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ＝ｵﾝﾗｲﾝと会場参加、受講者=全日程を受講したもの

研修名		開催日	日数	定員	受講者	担当
看護実践能力の育成	事例から学ぶ！生活者として捉えた糖尿病看護のポイント	11/2	1	60	42	教育委員会
	「ふたりにひとり」の時代に生きるを支えるがん看護	11/7	1	70	43	
	明日から私もできる！食べるを支える看護ケア	12/13	1	70	68	
	地域と共に支える心不全患者の看護	7/3	1	70	76	
	その人らしい人生の実現に向けた意思決定支援	9/29	1	80	86	
	みんなで考え、実践に活かそう看護倫理	11/5,11/6	2	60	51	
	臨床判断を OJT で活かして組織の看護力を高めよう	7/9,10/20	2	60	55	
	地域で暮らす高齢者を支える看護職・多職種連携【JNA ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ研修 110】	R7/2/4PM	0.5	80	39	教育研修部
組織的役割遂行能力の育成	ぐんぐん伸びる教え方・育て方	6/7	1	100	121	教育委員会
	今、求められる外来看護-病棟・地域と共に取り組む在宅療養支援推進のための組織づくり-	8/17	1	70	49	
	最新の感染予防 -リンクナースの役割と実践-	8/23,8/24	2	80	83	
	最新の感染予防 -在宅･施設における感染予防対策の実際-	9/2 ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄ	1	40	44	
	対話からやる気を引き出すコーチングスキル	10/6	1	80	89	
	看護職の成長につなげる看護実践能力評価者育成研修	12/16	1	70	62	
	組織づくりに活かす看護倫理	12/17	1	70	73	
	糖尿病重症化予防フットケア研修	R7/2/3,2/6,2/12	3	40	28	教育研修部
	≪実技が学べる≫感染予防の基本と誤嚥を予防する食事介助の基本【JNA ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ研修 128】	R7/1/28	1	50	10	
	〔JNA 収録 DVD 研修〕 認知症高齢者の看護実践に必要な知識	11/13,11/14	2	100	95	
		12/4,12/5	2	100	90	
		12/24,12/25	2	100	90	
	〔JNA 主催 e ﾗｰﾆﾝｸﾞ＋集合研修〕 医療安全管理者養成	10/7	1	40	49	
		10/30	1	40	37	
	〔JNA ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ＋集合研修〕半日ｵﾝﾗｲﾝ＋半日集合 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	7/30,8/2 (計 2 回)	1	120	227	
	〔e ﾗｰﾆﾝｸﾞ＋集合研修〕 外来における在宅療養支援能力向上のための研修	12/1AM	0.5	40	36	
	訪問看護師養成講習会 「訪問看護 e ラーニング」を活用した訪問看護師人材育成	8/7～ R7/1/16		40	25	事業部
	労働環境に関する研修会 「健康でいきいき働きつづけられるために」～フェムケアについて理解を深めよう～	12/8	1	80	65	
自己教育の推進	相手に伝わる文章の書き方を学ぼう	R7/2/18PM	0.5	80	34	教育研修部
特別研修	これからの時代で活躍する看護職を支える生涯学習～組織で行う生涯学習支援～【JNA ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ研修 132】	12/12	1	80	35	
	【公開講座】 認定看護管理者教育課程セカンドレベル	8/20	1	5	6	
	【公開講座】 認定看護管理者教育課程セカンドレベル	9/9	1	5	7	
	〔e ﾗｰﾆﾝｸﾞ＋集合研修〕 看護補助者標準研修-看護補助体制充実加算該当パッケージ-	12/21AM	0.5	50	33	

＊修了者=全日程を受講したもの者

研修名			開催日	日数	定員	修了者	担当
資格認定教育	認定看護管理者教育課程	ファーストレベル	5/13～7/23	24	50	55	教育研修部
		ファーストレベル	10/1～12/6	24	50	55	
		セカンドレベル	7/4～10/29	34	30	34	
		セカンドレベル フォローアップ実践報告	R7/3/4	1	30	33	
		小論文・レポートの書き方	6/10,6/24	2	30	31	
	感染管理認定看護師教育Ｂ課程		4/5～3/6	12ヶ月	16	11	

ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ＝ｵﾝﾗｲﾝと会場参加、受講者=全日程を受講したもの者

研修名			開催日	日数	定員	受講者	担当
研究能力の育成	はじめての看護研究 －研究テーマを見つけよう！－		8/4,8/17,10/19	3	50	30	学術研究推進委員会
	効果的なプレゼンテーション技法		7/20	1	60	38	
学会	第13回　静岡県看護学会		R7/1/11 ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ	1	300	359	
災害看護研修	災害看護一般研修Ⅰ		6/19PM	0.5	70	75	総務部
			10/23PM	0.5	70	95	
	災害看護一般研修Ⅱ		7/29	1	70	63	
			R7/1/30	1	70	55	
	災害支援ナース養成研修 （eﾗｰﾆﾝｸﾞ＋集合研修）		11/25,11/26	2	150	149	
			R7/2/20,2/21				
	災害支援ナース登録者研修		R7/1/10PM	0.5	145	102	
職能研修	会員研修	新入会員研修 －看護職として果たすべき役割を考える－【JNAｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ研修101】	6/27	1	100	42	教育研修部
			6/20	1	100	110	
			7/26	1	100	113	
			6/12	1	100	96	
			7/10	1	100	93	
			7/31	1	100	99	

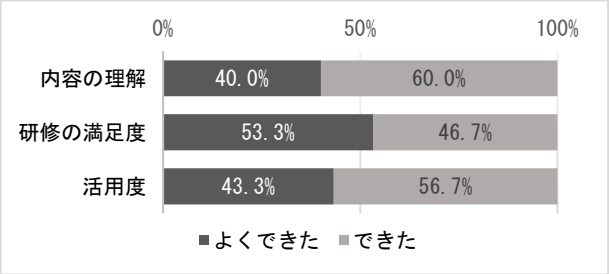
研修名			開催日	日数	定員	受講者	担当
静岡県受託研修	新人看護職員研修 多施設合同	看護職員としての自覚と責任、コミュニケーションの基礎	5/23	1	40	22	教育研修部
		感染管理の基礎、医療安全の基礎	6/17	1		22	
		新人のためのメンタルヘルスケア	6/26	1		22	
		救命救急処置技術	9/26	1		14	
			9/13	1		6	
		フィジカルアセスメント1	11/12	1		11	
			11/13	1		10	
		フィジカルアセスメント2、自分の課題を捉えよう	R7/1/21	1		20	
		新任期フォローアップ研修	8/7	1	25	22	
	新人看護職員指導者研修	研修責任者研修	11/19,11/20,12/3,12/4,12/10	5	20	19	
		教育担当者研修	11/19,11/20,11/24,11/25,R7/2/25	5	40	43	
		実地指導者研修	11/19,11/20,11/24,11/29,12/18	5	40	42	
	看護職員実習指導者等講習会		7/19～9/30 ＊一部eﾗｰﾆﾝｸﾞ	27	80	79	
	看護職員実習指導者等講習会 〈特定分野〉		10/17,10/23,10/31,11/7,11/14,11/21,11/28	7	30	10	

＊ｵﾝﾗｲﾝ＝zoomによるｵﾝﾗｲﾝ研修、受講者=全日程を受講したもの

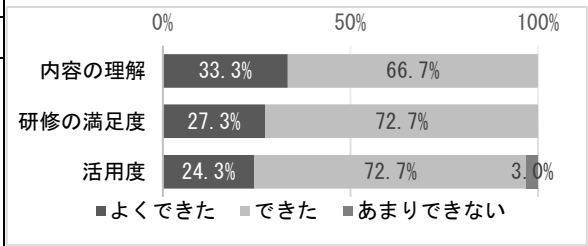
	研修名	開催日	日数	定員	受講者	担当
静岡県受託研修	看護教員継続研修(教員経験5年以上)	8/5,8/19,8/23	3	40	28	教育研修部
	看護教員継続研修（トピックス研修）	7/28	1	80	95	
	看護教員継続研修（新任期ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ研修）	8/20,R7/2/5	2	30	23	
	医療的ケア児等コーディネーター養成研修	11/27,12/9, R7/1/14,R7/1/29	4	80	85	事業部
	医療従事者向け障害福祉事業研修	10/14	1	80	74	
	重症心身障害児(者)対応看護従事者養成研修	8/3, 8-10月実習	2	80	72	
	高齢者権利擁護等推進事業看護実務者研修	11/29,11/30	2	45	50	
	看護の質向上促進研修(1日コース) 「医療安全対策・フィジカルエグザミネーション・意思決定支援・褥瘡予防対策」	8/13	1	70	43	
		10/17	1	70	68	
		9/28	1	40	49	
		7/25	1	70	53	
		11/1	1	60	62	
	看護の質向上促進研修(半日コース) 「感染予防対策・褥瘡予防対策・バイタルサイン」	10/3PM	0.5	70	48	
		8/28PM	0.5	70	51	
		9/7PM	0.5	40	15	
		8/1PM	0.5	70	64	
		8/23PM	0.5	70	43	
		7/20PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	40	9	
	看護の質向上促進研修フォローアップ研修 「生体モデルPhysiko（ﾌｨｼﾞｺ）で心音・肺音を確認してみよう」	11/13PM	0.5	30	25	
	看護の質向上促進研修「認定看護師等派遣型研修について（現場で活かそうｽｷﾝｹｱの実際）」	8回 (11月～R8/1月)			211	
	看護職員管理者の相互研修（A研修） -暮らしをつなげる看護職員のための研修-	7/20,7/22,実習, 10/21 or 10/28	4	60	65	
	看護職員管理者の相互研修（B研修） -看護管理者のための「看護施策」研修-	7/20ｵﾝﾗｲﾝ	1	60	39	
	看護職員管理者の相互研修（C研修） -修了者と上長のためのﾊﾞｰｼﾞｮﾝｱｯﾌﾟ研修-	7/20ｵﾝﾗｲﾝ 9/14ｵﾝﾗｲﾝ	2	60	54	
	静岡県看護職員認知症対応力向上研修 -認知症ケア推進者研修-	7/25,7/30,7/31	3	85	83	
	病院勤務の医療従事者向け 認知症対応力向上研修	7/12PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	108	
		8/6PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	85	
		8/21PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	92	
		8/29PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	91	
		9/7PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	91	
		9/11PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	97	
		9/26PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	92	
		10/4PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	88	
		10/19PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	63	
		10/30PMｵﾝﾗｲﾝ	0.5	100	99	
	特定行為研修修了者研修会	11/23	1	50	31	総務部
		12/22	1	50	17	
		10/12	1	50	11	
	特定行為研修修了者研修会 ＜訪問看護ステーション＞	12/11	0.5	30	23	
	特定行為研修修了者研修会 ＜交流会＞	R7/1/15	0.5	50	49	

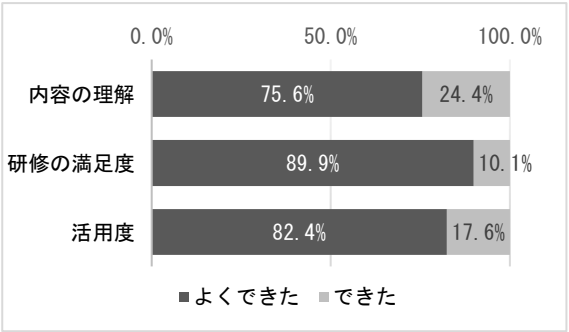
教育委員会担当研修

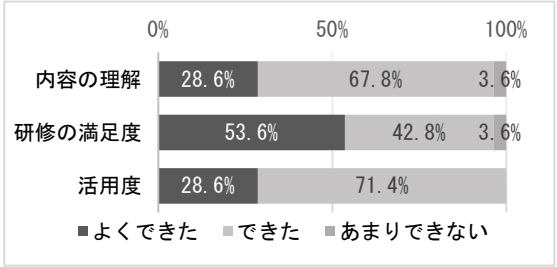
研修名	「ふたりにひとり」の時代に生きるを支えるがん看護	定員	応募者数	受講者数
		70 名	45 名	43 名
講師	静岡県立静岡がんセンター がん看護専門看護師　麻生咲子 がん看護専門看護師　生山笑	アンケート結果		
開催日	令和 6 年 11 月 7 日（木）			
目標	1 最新の抗がん治療と支持療法について知り、看護に求められている役割を考えることができる 2 患者の体験する苦痛を全人的に捉え、必要な看護ケアについて考えることができる 3 患者・家族の置かれている状況を理解し、がん患者の尊厳を支えるためのケアについて理解することができる 4 第 4 期がん対策推進基本計画の要点を理解する	アンケート記載事項 ・がん看護について考える機会となり、患者と関わる上で必要なことについて学ぶことができた ・グループワークや事例から他者の意見や考えを知ることができ、看護を振り返ることができた ・概論から最新の薬物療法、全人的苦痛など説明がわかりやく、今後の看護ケアに活かせる講義と資料であった ・薬物療法から緩和ケア、ACP と一日では足りないほどの素晴らしい内容にて満足した		
内容	1 がんの疫学・がんの診断と標準治療 2 主な薬物療法役の特徴と看護・支持療法 3 遺伝性腫瘍・サバイバーシップ 4 緩和ケア・意思決定支援・ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽｹｱﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ 5 家族ケア			
評価 まとめ	最新のデータや知見を踏まえた診断～治療期におけるがん看護の土台となる基礎的な知識や、進展する薬物療法による副作用と支持療法、がんとの共生を目指す緩和ケアの視点から、症状マネジメントを踏まえ、全人的なアセスメントとケアについて事例やワークを通して考えたほか、家族看護やACP、意思決定支援まで幅広く学んだ。受講者からは、「最新のがん治療から緩和ケアまで幅広い内容の講義でわかりやすく、理解が深まった」「事例から全人的苦痛をアセスメントすることや患者との関わりについて改めて考える機会になった」等前向きな反応が多くあり、受講者の属性からも、がん看護への関心の高さが評価された。			



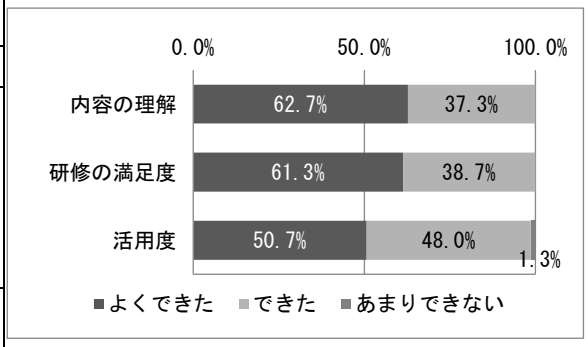
研修名	看護職の成長につなげる看護実践能力評価者育成研修	定員	応募者数	受講者数
		70 名	66 名	62 名
講師	蒲郡市民病院・蒲郡市立ソフィア看護専門学校　平岡翠	アンケート結果		
開催日	令和 6 年 12 月 16 日（月）			
目標	1 「看護職の生涯学習ガイドライン」「看護師のまなびサポートブック」「看護実践能力習熟段階(JNA ラダー改定)」について理解できる 2　評価者としての役割を理解し、看護実践能力を他者評価するための方法を学ぶ 3　自施設の評価体制を振り返り、看護職の成長につなげる評価に向け課題が明確になる	アンケート記載事項 ・評価は自己実現につなげるツールであることについてスタッフに説明し、理解を促進させることの必要性を感じた ・スタッフが自主的にラダーに取り組めるよう関わることに自分の役割があることに気づいた ・スタッフと個人目標を共有し、キャリアプランを一緒に考えていきたい		
内容	1　評価についての考え方(知識･態度、評価上の問題点) 2 「看護職のガイドライン」「看護師のまなびのサポートブック」作成、「JNA ラダー改訂」の経緯について 3　自施設の評価体制について考えるポイント 4　評価面接における陥りやすいエラーと面接のポイント 5　評価の後に取り組む課題(ｷｬﾘｱﾗﾀﾞｰ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄﾗﾀﾞｰ)			
評価 まとめ	キャリアオーナーシップを持って行動できる人材の育成に向け、実践の振り返りが経験を深い学習に繋げる鍵となることを理解しながら、支援者としての関わりについて学んだ。受講者各々が自施設における立場で看護実践能力の評価体制を検討することを通し、時代と共に変容する看護職の成長につながる評価の実践に向けて学びを得ることができた。			



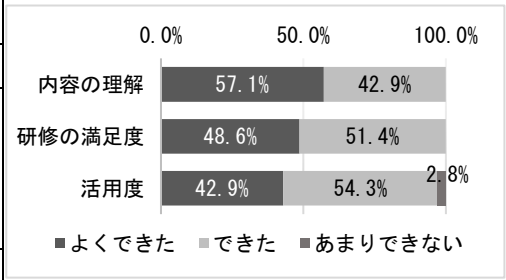
研修名	ぐんぐん伸びる教え方・育て方	定員	応募者数	受講者数
		100 名	162 名	121 名
講師	愛媛大学医学部附属病院　内藤知佐子	アンケート結果		
開催日	令和６年６月７日（金）			
目標	1 看護職者を「教える」「育てる」とはどういうことかを学び、教育的なかかわりの具体について説明できる 2 看護を「教える」「学ぶ」とはどういうことかを学び、自己の看護観・教育観を再考することができる 3 看護におけるリフレクションの基本的な考え方と方法を学び、ロールプレイのなかで実践することができる 4 看護職者がぐんぐん伸びる「教え方」「育て方」を通して、看護を教える人としての自己の成長につなぐ改善点をひとつ宣言できる			
内容	1 コロナによる実習への影響 2 ４つの世代の特徴と関わり方のコツ 3 自己理解（診断テスト） 4 「教える」と「学ぶ」の本質 5 指導者に求められる７つの心構え 6 指導の三要素 7 効果的なリフレクションのコツ	アンケート記載事項 ・現場に即した事例説明にて、とてもわかりやすかった ・今どきの新人看護師の感じ方、考え方、取り巻く環境などを知るとともに、指導者としての指導のポイントを知る事ができた ・教育面のモヤモヤが解消した ・日々のリフレクションや、新人指導で思考発話法を活用したい		
評価 まとめ	コロナによる実習への影響や新人のリアリティショックへの対処、世代ごとの特徴と関わり方のコツ、心理的安全性を高めるためのリーダーの行動や育て方など具体的な内容であった。2 会場開催であっても受講者の意見を共有できるようにコメントスクリーンを活用するなど講師の工夫により、双方向で共有できるように研修が組み立てられていた。「指導者が教える」「学習者が学ぶ」とはどういうことなのか考え、人に教え育てるといった教育的な関わりの本質を理解するとともに、聞き方伝え方の具体的な方法を学べる内容であった。			

研修名	対話からやる気を引き出すコーチングスキル	定員	応募者数	受講者数
		80 名	121 名	89 名
講師	常葉大学大学院　久米昭洋	アンケート結果		
開催日	令和６年 10 月６日（日）			
目標	1 コーチングにおける基本スキルを理解する 2 GROW モデルとメタポジショナルプロセスモデルを用いた面談手法を理解する 3 フィードバックスキルの具体的な展開事例を作成し、実践を模擬的に体験する 4 若手人材の育成手法を意識しチーム作りにつなげる			
内容	1 コーチングとは 2 コーチングにおける基本スキル 3 コーチングを活用したマネジメント 4 「GROW モデル」と「メタポジショナルモデル」 5 フィードバックスキル 6 組織風土を作るチームコーチング	アンケート記載事項 ・実践形式で指導や看護の幅が広がる研修だった ・コーチングスキルを習得する利点が理解出来た ・臨床場面や育成対象にあわせて学んだスキルを実践し、効果的な支援に繋げていきたい		
評価 まとめ	職場全体で人材育成に取り組み、より良い職場環境の醸成を目指すことは多くの施設での課題であり、研修ニーズの高さに繋がっていた。エンゲージメント力を備えた看護師の育成を目指し、育成対象者の目標達成や自己実現を支えるコーチングの基本スキルを理解した上で、受講者各自が自職場における役割に応じたコーチングスキルの習得に向け、より実践的な学びに深めることができた。			

研修名	最新の感染予防 ーリンクナースの役割と実践ー	定員	応募者数	受講者数
		80 名	109 名	83 名
講師	浜松医療センター・浜松市感染症対策調整監　矢野邦夫 浜松医療センター 感染管理認定看護師　　葛原健太	アンケート結果		
開催日	令和６年８月 23 日（金）・８月 24 日（土）			
目標	1 感染管理の重要性を理解する 2 感染予防リンクナースの役割を理解する 3 感染予防リンクナースとしての必要な知識・技術を学ぶ 4 職場での課題と対策について明らかにできる			
内容	1 With　コロナにおける感染対策 2 医療関連感染と感染管理担当者の役割 3 標準予防策と経路別感染対策 4 ハウスキーピング・器材の管理（洗浄、消毒、滅菌） 尿道カテーテル関連感染対策 5 血管内留置カテーテル関連感染対策 6 針刺しと血液・体液暴露対策について 7 前年度受講者の活動報告 8 グループワーク	アンケート記載事項 ・現場で実践していることの意味や根拠を理解できた ・感染リンクナースとしての具体的な活動方法を知れて良かった ・自部署での課題と対策を明らかにすることができた		
評価 まとめ	矢野先生の講義は、COVID―19 の現状や病原体の伝播経路の考え方、感染症のワクチン接種の必要性など最新のデータや情報を交えた情報量の多い講義内容であった。葛原先生の講義内容も多岐に渡り、手指衛生の５つのタイミングや水回りの管理、滅菌材料の管理、膀胱留置カテーテル管理やリンクナースの役割を学ぶ事が出来た。前年度の受講者３名による活動報告後のグループワークでは「私が取り組みたい感染対策」について活発な意見交換が行われ、グループワークを通して自施設での課題と解決策を見出すことができたと考える。			



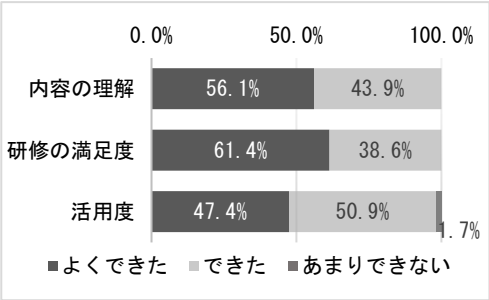
研修名	最新の感染予防 ー在宅・施設における感染予防対策の実際ー	定員	応募者数	受講者数
		40 名	47 名	44 名
講師	浜松医療センター・浜松市感染症対策調整監　矢野邦夫 浜松医科大学医学部附属病院 感染管理認定看護師　鈴木利史	アンケート結果		
開催日	令和６年９月２日（月）			
目標	1 施設・在宅における特徴的な感染症リスクについて理解する 2 標準感染予防策と感染経路別予防策を理解する 3 生活の場における具体的な感染予防策、感染対策、実践例を学ぶ			
内容	1　With コロナにおける感染対策 2 感染対策の基本～感染って何？感染症について知ろう～ 3 感染対策の基本～標準予防策～ 4 個人防護具使用時の注意点 5 感染対策の基本～感染経路別予防策～ 6 コロナ対策	アンケート記載事項 ・最新の情報が聞けた ・具体的でわかりやすかった ・施設内のマニュアル作りを改訂するのに参考になった		
評価 まとめ	新型コロナウイルスの現状、CDC ガイドラインの考え方、HCV や RS ウィルス、インフルエンザ、帯状疱疹、梅毒などの病態、さらにワクチンの根拠など最新知識の講義が行われた。続いて、施設・在宅での実践を具体的に学べた。演習では、個人防護具の装着の仕方を実施した。受講者は日々の実践で疑問や課題を抱えており、質疑応答が活発に行われた。アンケートでは「研修での学びをスタッフに伝えたい」「できる範囲から改善したい」との意見があった。高齢者施設や在宅における感染予防対策に対する学習ニーズは高く、今後も継続する必要性がある。			



研修名	その人らしい人生の実現に向けた意思決定支援	定員	応募者数	受講者数
		80 名	112 名	86 名

講師	聖隷浜松病院　老人看護専門看護師　宗像倫子 聖隷浜松病院　緩和ケア認定看護師　梅田靖子
開催日	令和 6 年 9 月 29 日（日）
目標	1 地域包括ケアシステムにおいて、あらゆる健康段階でのその人らしい人生の選択における意思決定支援、住まう場が変わっても継続した支援・連携の必要性について理解を深める 2 ACP における看護職の役割について各施設が担う機能の視点で課題を振り返り、それぞれの強みを活かした改善策を見出す 3 本人の価値観を尊重した看護について、アセスメント、評価方法についての知識を深める 4 その人らしい人生の選択に向けて、本人の尊厳を護る連携のあり方を看護の視点から考え、看護実践の向上にための方策について知識と理解を深める
内容	1 アドバンス・ケア・プランニング（ACP）、意思決定支援とは 2 自身が大切にしていることは何かを考える 3 自施設または自職場または自身の ACP を視野に入れた意思決定支援に関する現状・課題 4 意思決定を支えるためのコミュニケーション 5 ACP を視野に入れた意思決定支援に関する今後の取り組み

アンケート結果



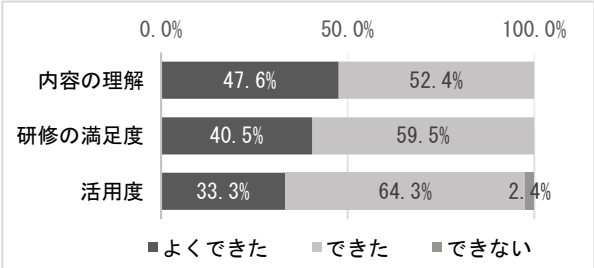
アンケート記載事項
- ACP の理解が深められ、具体的な留意点が学べたので、自施設で進めていきたい
- ロールプレイを実践し、意思決定の場でのコミュニケーションを学ぶことができた
- 患者の意思をくみ取り、意思決定に向けた支援の重要性を改めて感じ、考える機会になった

評価 まとめ	様々な分野・施設から多くの参加があり、講義の他、ワークやロールプレイを通して、意思決定の場でのコミュニケーションを学ぶことができた。事例をもとに患者と対話する看護職との場面を想起しながら、どのように対話したらよいかを考える機会となった。意思決定の場における看護職の役割を理解し、その人らしい人生の実現に向けた意思決定を支援するために「明日から取り組めること」を導き出すことができた。

研修名	組織づくりに活かす看護倫理	定員	応募者数	受講者数
		70 名	76 名	73 名

講師	浜松医科大学医学部附属病院　　佐々木菜名代
開催日	令和 6 年 12 月 17 日（火）
目標	1 実践の場で体験する倫理的課題を分析し、解決等の対処方法を学ぶ 2 看護管理を担う者として倫理的感受性を高める組織的対応方法について学ぶ
内容	1 医療の質と臨床倫理 2 看護職の責任と看護職の倫理綱領 3 日常的な看護実践に潜む倫理的諸問題への対応 4 倫理的問題検討ツールを用いた事例検討 5 倫理的な組織文化醸成における看護管理者の役割

アンケート結果



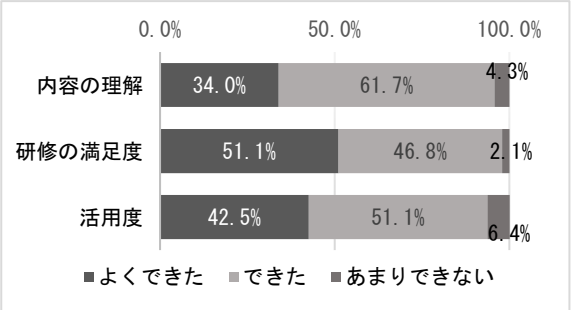
アンケート記載事項
- どのように考えたらいいのか、倫理の基礎からカンファレンスまで学ぶことができた
- 講義がわかりやすくグループワークが充実していた
- 明日から実践で活かせそう、活かそうと感じた

評価 まとめ	受講者は中堅から師長・副部長が参加。講義では倫理問題を検討する際に考え方の拠りどころになる、「倫理原則」「看護職の倫理綱領」「臨床倫理 4 分割法」を丁寧に説明がされ、倫理的ジレンマを「臨床倫理の 4 分割法」を用いてグループワークで検討することが出来た。倫理観や倫理的感受性を高めるために必要なスキルをはじめ、看護管理者が倫理的行動向上に対して視野を広げるための 4 つの必要な要素があり、今後に活かしていく必要があることを理解した。心理的安全性のある指摘し合える部署づくりが看護管理者に必要であり、管理者がまず行動して見せる事が大切であると学ぶことが出来た。管理者が倫理を学ぶ機会は必要であり継続していく。

研修名	みんなで考え、実践に活かそう看護倫理	定員	応募者数	受講者数
		60 名	54 名	51 名

講師	静岡県立総合病院 がん看護専門看護師 鈴木かおり 藤枝市立総合病院 急性重症患者看護専門看護師 増田喜昭
開催日	令和6年11月5日（火）・11月6日（水）
目標	1 看護職の倫理綱領の内容を理解する 2 臨床現場における倫理的問題を理解する 3 倫理的問題への対処方法を理解する 4 臨床現場で倫理的問題を検討できる
内容	1 看護倫理の基礎・倫理的問題の捉え方 2 医療現場における臨床倫理の考え方 3 Jonsen の臨床倫理4分割法を実際に活用して倫理的問題が何か考える 4 日常看護ケアで考える倫理 5 事前レポートの臨床倫理 6 効果的な倫理カンファレンスの進め方 7 模擬倫理カンファレンス

アンケート結果



アンケート記載事項

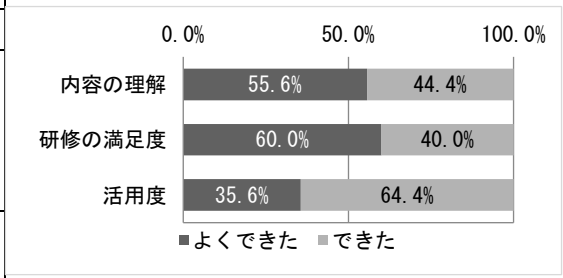
・倫理に対し苦手意識があったが、2日間の研修で学んだ知識を現場で活かしたいと思った
・他施設の看護職と倫理的視点で話し合うことで倫理についての理解が深まりとても有意義であった
・倫理的問題を整理し、解決する方法を学ぶことができた
・研修での学びを活かし、倫理の学習会や倫理カンファレンスを実践していきたい

評価 まとめ	日常における倫理的問題を共有し、他施設の倫理的問題への取り組みなどを知ることができた。事前課題レポートを使用した模擬倫理カンファレンスを体験することで、カンファレンスの効果的な進め方を学び解決方法を見出せていた。受講者一人ひとりがジレンマを声に出し、倫理的問題の解決に向けた一歩を踏み出していける研修となった。患者の権利擁護者として看護職が倫理的問題に気づくこと、ジレンマを表出し他者と話し合う場が必要であり、今後も研修を継続していきたい。

研修名	今、求められる外来看護 ー病棟・地域と共に取り組む在宅療養支援推進のための組織づくりー	定員	応募者数	受講者数
		70 名	51 名	49 名

講師	関西看護医療大学　箕浦洋子
開催日	令和6年8月17日(土)
目標	1 在宅療養支援に求められる外来看護師の役割を理解する 2 継続看護に目を向けた切れ目のない外来看護を提供するために、自施設の外来看護の課題を明確化し、改善につなげることができる
内容	1 医療の変化と外来看護の役割 2 外来看護におけるイノベーション ー外来看護の新たなシステム構築ー 3　連携に必要なシステムと組織づくり 4　グループワーク、まとめ

アンケート結果



アンケート記載事項

・外来看護の方向性が理解でき、外来看護師の役割や課題が明確になった
・外来を変革するための事前準備、改善点が見出せた
・外来として他部署と連携し、看護を繋いでいきたい

評価 まとめ	医療の動向、社会情勢の変化から「今、求められている外来の役割」を確認し合い、外来のイノベーションの重要性を共有できた。グループワークでは、事例をもとに討議し、外来の現状、課題、看護職の役割を共有した。「やってみたい外来看護を実施しようとする時に、立ちはだかる自施設での問題（課題）」についてディスカッションすることで、問題点を焦点化し、外来を変革するための具体策をチームで見出すことができた。仕組みを変えるための視点を学び、受講者からは、病棟・地域と共に在宅療養支援推進のため外来の組織変革にチャレンジしたいと高評価であった。

研修名	事例から学ぶ！生活者として捉えた糖尿病看護のポイント	定員	応募者数	受講者数
		60 名	44 名	42 名

講師

聖隷沼津病院
糖尿病看護認定看護師　水野信子
（コーディネーター）
共立蒲原総合病院
糖尿病看護認定看護師　見上恵亮

開催日

令和 6 年 11 月 2 日（土）

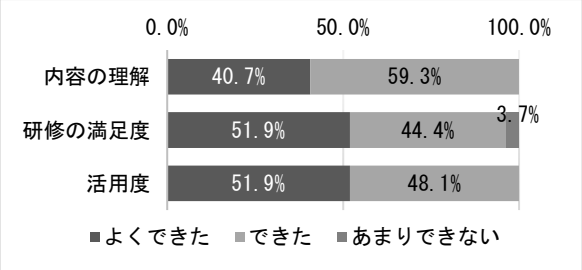
目標

1 糖尿病の基礎知識を理解する
2 糖尿病患者のセルフコントロール能力が向上するための支援を理解する
3 糖尿病患者の生活状況に応じた看護支援や重症化予防について理解する

内容

1 糖尿病の疫学・病態（分類）・診断（検査）・合併症
2 糖尿病の治療・コントロール目標
3 糖尿病患者の特徴
4 糖尿病患者に必要な看護支援
5 事例展開（グループワーク）

アンケート結果



アンケート記載事項
・糖尿病看護のポイントについて事例を用いてグループの方と考えることで講義内容の理解を深めることができた
・糖尿病の基礎を改めて勉強させていただき、事例を通して病気を持ちながら生活する患者さん一人ひとりに寄り添った支援を行いたい
・講義内容の復習をしながら事例検討ができた

評価まとめ

糖尿病の基本的知識・治療・合併症や重症化を防ぐ看護支援について事例を通して学ぶことができた。グループワークでは、講師が受講者の様子を見ながら病期やライフステージを考慮した看護支援について意見を引き出し、看護師として求められている役割を再確認する機会となった。糖尿病患者を生活者として捉え、よりよく生活できる看護支援を病院と在宅が連携して行う必要性を理解できる研修である。

研修名	地域と共に支える心不全患者の看護	定員	応募者数	受講者数
		70 名	110 名	76 名

講師

島田市立総合医療センター
慢性心不全看護認定看護師　河守悦子

開催日

令和 6 年 7 月 3 日（水）

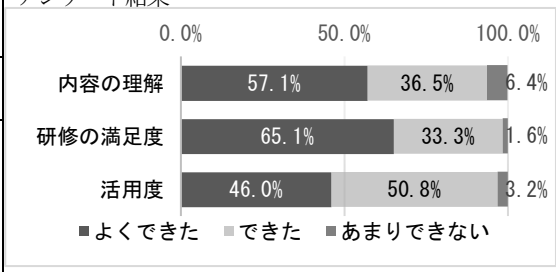
目標

1 心不全の基本的知識と現状・今後の傾向を理解する
2 急性憎悪予防や疾患管理について学ぶ
3 心不全患者への看護職の役割を理解する
4 病院や地域での取り組みの現状を理解する

内容

1 心不全の基礎知識
2 高齢心不全患者の特徴と看護ケア
3 高齢心不全患者の療養支援
4 事例検討

アンケート結果



アンケート記載事項
・心不全の看護が理解できた
・病態生理はやや難しかった
・再入院予防や退院指導に活かしたい
・病みの軌跡を踏まえて、意思決定支援を行いたい

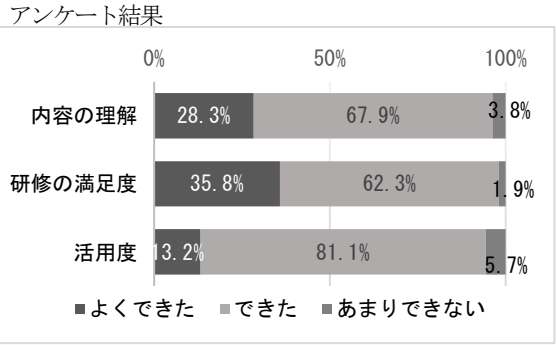
評価まとめ

講義前半は、人口動態に基づく心疾患による死亡率、心不全の病態と分類、診断と治療など、心不全の基礎知識に関する内容だった。高齢化に伴い、心不全患者が増加している現状を踏まえ、心不全は進行性かつ致死性の疾患であり、根治が困難であることから、病態生理の理解が重要である。後半では、高齢心不全患者の療養支援に焦点をあて、リハビリテーション、栄養指導、服薬指導など継続支援や地域との連携についての講義が行われた。事例検討では、自己判断で利尿薬を中断した患者への支援や、ACP の進め方など、具体的な実践について話し合いが行われた。

研修名	臨床判断を OJT で活かして組織の看護力を高めよう	定員	応募者数	受講者数
		60 名	64 名	55 名

講師	浜松医科大学　急性重症患者看護専門看護師　本家淳子 静岡県立こども病院　小児看護専門看護師　栗田直央子 聖隷クリストファー大学　診療看護師　橋積亜希子
開催日	令和６年７月９日（火）・10 月 20 日（日）
目標	1 臨床判断モデルを基に看護師が行う臨床推論、臨床判断について理解する 2 臨床判断能力を向上するために必要な CBL の知識とリフレクションの方法について学び、OJT につなげることができる
内容	1 臨床判断モデルとは 2 CBL の臨床活用 3 リフレクションとは 4 個人の取り組み（グループワーク・発表） 5 組織の取り組み（グループワーク・発表） 6 変革理論について

アンケート結果



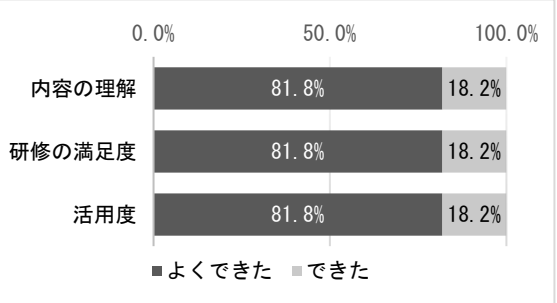
アンケート記載事項
・内容は難しかったがＧＷしたことで理解ができた。
・臨床判断モデルやＣＢＬについて知ることができた。今後も実践を通して理解を深めたい。
・自部署でのＯＪＴについて考えることができた。
・ＧＷを通して他施設の方の意見も聞くことができてよかった。

評価 まとめ	臨床現場における看護実践能力の強化・育成のため、現場で指導的立場にある者が臨床判断モデルと CBL を基にしたリフレクションを学んだ。受講者がそれぞれの現場で CBL を用いた OJT を実践し、GW で実践内容を共有することで、リフレクションの効果・課題を見出し、組織に浸透させるための具体策を導き出すことができた。これまでに馴染みのない新しい指導方法であることの難しさもアンケート結果から見受けられたが、組織で取り組むことで組織全体の看護力の向上を期待できる研修であった。

研修名	明日から私もできる！食べるを支える看護ケア	定員	応募者数	受講者数
		70 名	73 名	68 名

講師	浜松医療センター 摂食・嚥下障害看護認定看護師　山田悠紀子 浜松医科大学医学部附属病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師　清水翔太郎
開催日	令和６年 12 月 13 日（金）
目標	1 摂食嚥下に関する基礎的知識を知り、摂食嚥下障害を理解する 2 摂食嚥下の機能評価について学ぶ 3 摂食嚥下リハビリテーションの方法と看護職の果たす役割を理解する
内容	1 摂食嚥下に関する基礎的知識 2 摂食嚥下障害の評価 3 高齢者の摂食嚥下障害 4 食事介助のスキルと根拠 5 摂食嚥下障害ケアにおける看護職の役割

アンケート結果



アンケート記載事項
・摂食嚥下に看護師のかかわりが重要であることが分かり、今後の看護に活かしていきたい
・摂食嚥下看護の奥深さを実感できた
・患者さんの残された嚥下機能をどう回復させていったらよいかを今回の研修を活かして考えていきたい

評価 まとめ	解剖生理と合わせリアルな嚥下造影の動画を活用し嚥下機能メカニズムの理解を深めることができた。演習では受講者が互いにゼリーを用いて摂取介助を行うことで患者の気持ちに沿ったケアを考えることができた。グループワークでは事例のアセスメントから食事形態の選択や具体的な訓練方法を検討し意見交換することができた。看護師も専門的な知識・技術を活かし患者の「食べる」を支える役割は大きく、多領域で学びのニーズは高い研修である。

JNA 収録 DVD 研修・オンデマンド研修

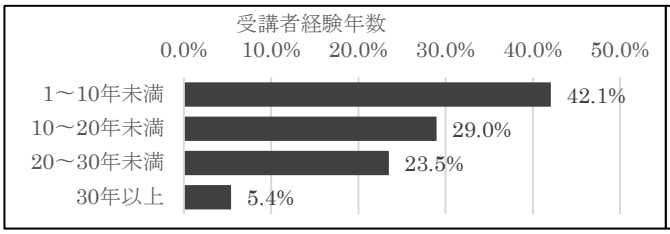
1　実施内容

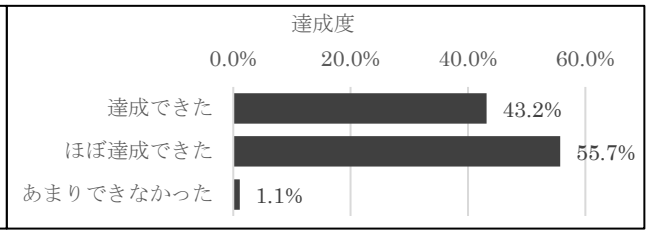
研修名	（DVD 研修）認知症高齢者の看護実践に必要な知識（定員：100 名×3 回）			
開催日	応募者	修了者数	内容	講師・演習支援者
11/13(水) 11/14(木)	102	95 会員 80 非会員 15	認知症高齢者に関する医療の現状と国の取組み／認知症に関連する疾患と病態・治療／組織で取り組む認知症高齢者ケア／認知症高齢者の看護に必要なアセスメント／認知症高齢者の看護に必要なコミュニケーションと援助技術／認知症高齢者ケアにおける多職種・看看連携のあり方／多職種・看看連携による認知症高齢者ケアの進め方／認知症高齢者に適した療養環境と調整方法／認知症高齢者に特有な倫理的課題／認知症高齢者の意思決定支援	小川朝生 （国立がん研究センター 東病院） 田中久美 （筑波メディカルセンター病院） 花房由美子 （神戸市立医療センター中央市民病院） 鶴屋邦江 （医療法人実風会 新生病院） 高梨早苗 （神戸女子大学大学院　看護学研究科博士後期課程） 演習支援者（計 3 名）
12/4(水) 12/5(木)	99	90 会員 82 非会員 8		
12/24(火) 12/25(水)	95	90 会員 84 非会員 6		

研修名	（講義：ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ）看護補助者の活用推進のための看護管理者研修（定員 計 120 名） オンライン講義半日と演習半日の 1 日研修（午前コース&午後コースの 2 パターン）			
開催日	応募者	修了者数		
7/30(火),8/2(金) ①半日午前ｺｰｽ ②半日午後ｺｰｽ	延べ 237	延べ　227 会員　205 非会員 22	看護補助者の活用推進の背景／看護補助者の位置づけ／看護補助者との協働に関する基本的な考え方／業務実施体制の整備／看護職への教育体制の整備／看護補助者の労働環境の整備及び確保等／看護補助者の育成・研修・評価／看護補助者と協働のための体制整備に関する課題に対する対策案の作成（演習）	日本看護協会役職員 演習支援者 10 名

2　認知症高齢者の看護実践に必要な知識　全 3 回合計

1）アンケート結果（回収率　66.1%）



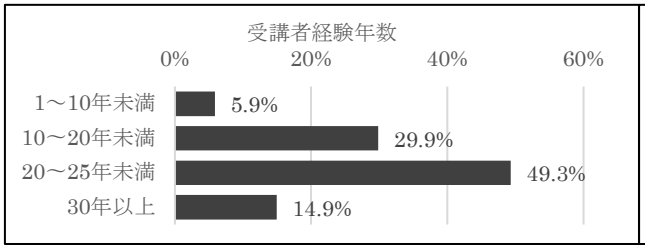


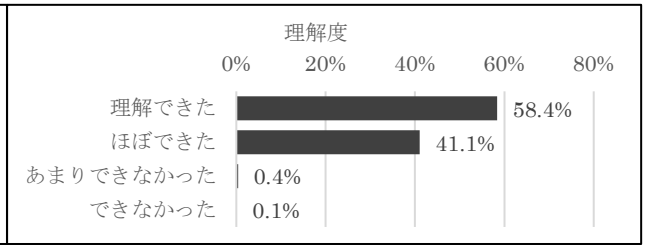
2）評価と課題

応募者が多く 3 回開催した。演習支援者への質問は、認知症の患者への具体的な対応に関するものが多く、悩みながら対応している様子が伺えた。また、グループワークでの意見交換は問題解決のヒントとなっていた。課題の達成度についてはほとんどが肯定評価であった。

3　看護補助者の活用推進のための看護管理者研修　全 2 回合計

1）アンケート結果（回収率　97.4%）





2）評価と課題

定員 120 名のところ約 2 倍の応募であった。オンデマンド視聴、集合演習は問題なく進めることができた。事前配付の個人ワークシートを活用して小ワーク（オンデマンド内）を行い、演習に臨むことでグループワークも活発であった。演習支援者の適切な助言やコメントがあり、グループワークも効果的に行われ、全グループが発表を行い他施設の状況を知り視野がひろがる機会となった。アンケートでは講義、演習、目標の達成度はすべて良い評価を得られて、研修の目標を達成できていた。

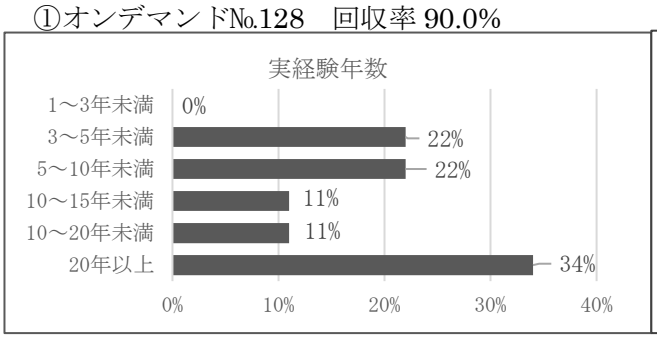
JNA オンデマンド活用研修

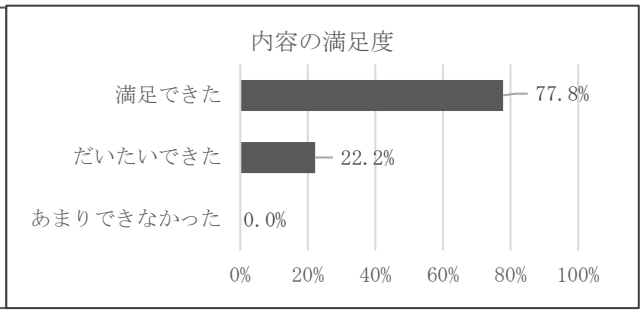
1　実施内容

開催日	研修名	定員 応募者数 受講者数	内容	講師
① R7/1/28 (火)	≪実技が学べる≫感染予防の基本と誤嚥を予防する食事介助の基本【JNA ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ研修 128】	定員 50 応募者 10 受講者 10 （会員 6 非会員 4）	感染予防対策の基本/新興感染症に対応するために必要な基礎知識/施設内で起こりやすい感染症とその対策/自分自身を守る職業感染対策	筒井俊博 (日本看護協会)
			現場でよく遭遇する食べにくい・飲み込みにくい高齢者の背景/食べにくい・飲み込みにくい高齢者への食事介助の根拠/高齢者の誤嚥を予防する食事介助の実際/チーム医療で取り組む安全な食事介助	伊藤美和 (特別養護老人ホーム平安の里)
② R7/2/4 (火) PM	地域で暮らす高齢者を支える看護職・多職種連携【JNA ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ研修 110】	定員 80 応募者 42 受講者 39 （会員 33 非会員 6）	複合的な問題を抱えた高齢者の暮らしを支える地域連携	藤沼康樹(医療福祉生協連家庭医療学開発センター)
			複合的な問題を抱えた高齢者の状況把握と予測的判断	(公益社団法人日本看護協会)
			複合的な問題を抱えた高齢者への看護職・多職種連携の必要性	岩本大希(ウィル訪問看護ステーション江戸川)
計	2 研修	定員 130　応募者 52　受講者 49 (会員 39 非会員 10)		

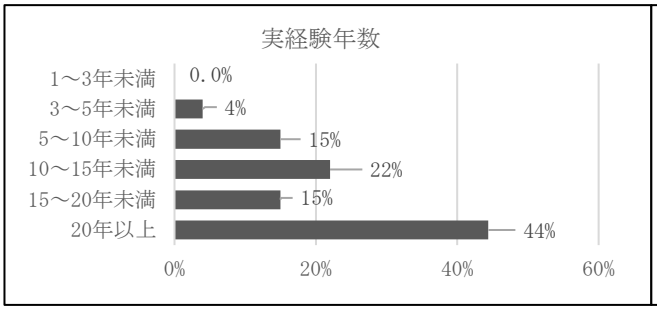
2　アンケート結果

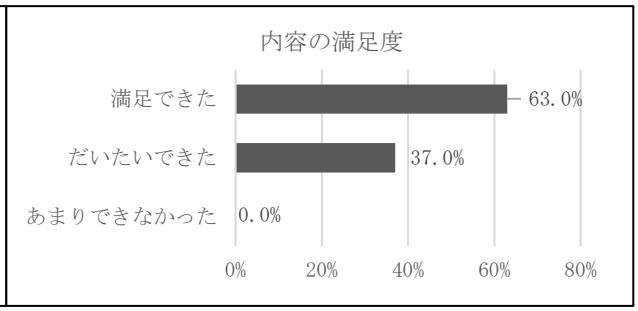
①オンデマンド№128　回収率 90.0%





②オンデマンド№110　回収率 69.2%





3　評価と課題

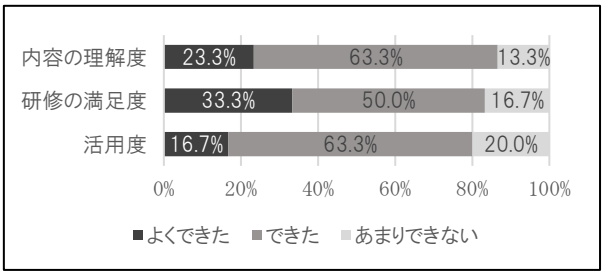
オンデマンド研修の視聴と視聴後にテーマに即したグループディスカッションや実技演習等のワークを組み込む構成で企画した。

アンケート結果からは、視聴での学びと視聴後のディスカッションや演習から、今後の実践に活かすための示唆を得る機会となったとの意見が多く聞かれた。また、日頃交流の少ない他施設・多領域同士でのディスカッションでは、様々な視点で意見交換ができ有意義なものとなったとの意見が聞かれた。さらに視聴後のワークでは、研修内容に合った専門領域の専門看護師や認定看護師による助言や実技演習での支援を受けられるように企画し、効果的な研修となったと考える。

准看護師を対象とした研修№128 ではここ数年応募者が低迷する傾向は課題であるが、研修参加者からの評価は高く、ニーズもある。多領域で活躍する准看護師を支援するためにも実践で役立つ内容を吟味しながら次年度は継続する方針とする。

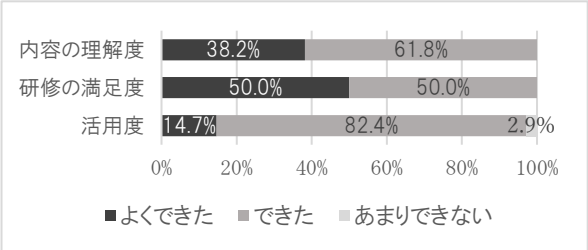
教育研修部　研修（自己教育の推進）

研修名	相手に伝わる文章の書き方を学ぼう	定員	応募数	受講者数
		80 名	35 名	34 名
講師	静岡新聞社編集局ニュースセンター 専任部長　市川雄一	アンケート結果		
開催日	令和 7 年 2 月 18 日(火) 13：30～16：30			
目標	1 文章のサマリーにもなる読み手の関心をひきつける表題・テーマについて学ぶ 2 論点に沿ったわかりやすい文章とはどのようなものか理解する 3 自分の考えや意見を相手に伝わる文章で表現する方法を学ぶ			
内容	1 わかりやすく相手に伝わる文章の書き方とは ・新聞記事見出しの書き方について ・文章の書きはじめ（リード部分）の表現方法 ・修飾・被修飾の関係とは ・句読点について ・体言止めについて 2 小説、新聞記事からの例文紹介	アンケート記載事項 ・シンプルな構成、修飾語被修飾語について理解できた ・実際の例文を出されており、補足されたお話も具体的で飽きなかった ・文章を書くポイントのヒントになった ・文章について流れなど意識することがなかったが、これからは意識しようと思った		
評価 まとめ	講師として新聞記事の執筆のプロである新聞記者から、わかりやすく相手に伝わる文章とはどのようなものか、さらに文章の構成について学ぶ機会を得た。多領域から様々な年代の看護職が参加し、修飾・被修飾語の関係性や句読点の使用方法、体言止めの注意点などを学ぶことができた。さらに参考となる文章として新聞記事に留まらず、フォークソングの詞や小説の一編を紹介された。受講者からは文章の書き方としての学びを得ると共に、日頃触れることの少ない文章の世界に浸ることは新鮮な経験となったとの評価を得た。			

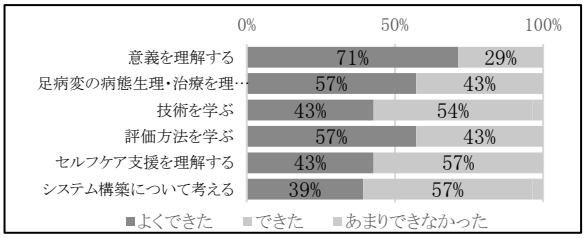


教育研修部　研修（特別研修）

研修名	これからの時代で活躍する看護職を支える生涯学習 ～組織で行う生涯学習支援～【JNA オンデマンド研修 132】	定員	応募数	受講者数
		80 名	38 名	35 名
講師	オンデマンド講師 演習支援者：静岡県看護協会常務理事 櫻井郁子	アンケート結果		
開催日	令和 6 年 12 月 12 日（木）			
目標	1 看護職への生涯学習に関する現状と課題が理解できる 2 成人教育に必要な基本的な知識が理解できる 3 組織における教育計画とその実際が理解できる 4 生涯学習支援に必要な知識と技能が理解できる			
内容	1 社会の変化を踏まえた看護職の生涯学習の考え方 ～看護職の生涯学習ガイドラインの理解～ 2 成人教育に必要な知識 3 組織における生涯学習支援 4 研修による支援の実際 5 多様な生涯学習支援の方法	アンケート記載事項 ・学習支援や動機付けについて学ぶことができ、現場でどうすり合わせていくか考えることができた。対話を大事にしたい ・グループワークで他施設の管理者と意見交換ができ学びが深まった ・生涯学習支援の必要性や支援方法のヒントを得ることができた		
評価 まとめ	前半は、日本看護協会のオンデマンドを聴講し、生涯学習ガイドラインをもとに生涯学習支援に必要な基礎知識と組織における生涯学習支援の実際を学習した。後半ではグループワークにて自組織における生涯学習支援の方法を具体的に検討し共有することができた。生涯学習ガイドラインは公表されてからまだ間もなく、組織や看護職への周知も十分に浸透していない現状にあるため、次年度も研修内容を再検討し継続することとする。			



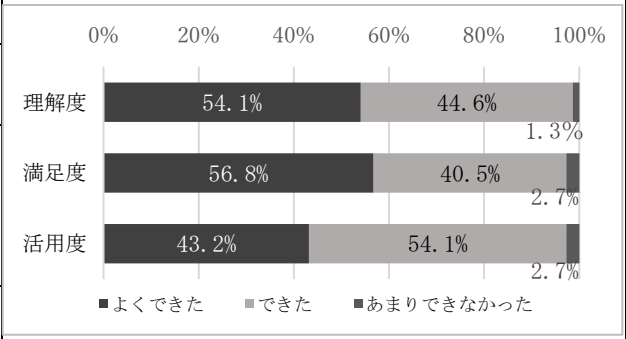
教育研修部　研修

研修名	〔日本糖尿病教育・看護学会共催〕糖尿病重症化予防フットケア研修 ＊糖尿病合併症管理料算定要件の一つである「適切な研修である」と認められた研修	定員	応募数	受講者数
		40 名	30 名	28 名
講師・演習支援者	1. 平原直子　静岡赤十字病院　糖尿病専門医 2. 数間恵子　日本糖尿病教育・看護学会　元監事 3. 柿宇土敦子　ナーシングホームあしたば 4. 増田誠一郎　シナジー静岡 MY 在宅ケアステーション 5. 山本真矢　総合病院聖隷浜松病院 6. 我妻ひと美　静岡済生会総合病院 7. 水野信子　聖隷沼津病院 8. 三村芙美江　島田市立総合医療センター 9. 今井憲二　静岡市立静岡病院 10. 高橋倫世　静岡赤十字病院 ＊4. 5；慢性疾患看護専門看護師 ＊3. 6. 7. 8. 9. 10. ；糖尿病看護認定看護師			
開催日	令和７年２月３(月)・6(木)・12(水)　＜16 時間＞	アンケート結果：数字は肯定群（よくできた・できた）		
目標	1. 糖尿病患者へのフットケアの意義を理解する 2. 糖尿病患者への足病変の病態生理、治療を理解する 3. 糖尿病患者へのフットケアのための評価方法を学ぶ 4. 糖尿病患者へのフットケアの技術を学ぶ 5. 糖尿病患者の事例検討を通して、フットケアにおけるセルフケア支援を理解する 6. 予防的フットケア実施するためのシステム構築について考えることができる			
内容	● 糖尿病患者の足病変～病態生理から治療まで ● 糖尿病患者の療養を支えるフットケア ● フットケアのためのアセスメント ● 糖尿病重症化予防におけるフットケアの評価と今後の課題 ● フットケアの実際～予防のためのセルフケア支援 ● 事例分析と評価 ● 今後の糖尿病重症化予防(フットケア)の活動に向けて	アンケート記載事項 • グループで活発に意見を交わすことができて勉強になった • 実技、講義ともに分かりやすく大変満足した • 患者さんがどう思っているか、ケアを継続できるかなどを忘れずに関わっていきたい • フットケアの技術だけでなく、患者さんの生活を踏まえた視点について細かく学ぶことができた • フットケアを通して患者を知る事、セルフケア支援の大切さを学ぶ事ができた • 私が実現させたい看護は何か、改めて考えることができた • 自分がわからない事など相談できた		
評価 まとめ	16 時間の研修で講義・技術演習だけでなく、事例をもとに患者のセルフケア支援の根拠を含めた計画の作成、また組織での役割や今後の取り組む目標の演習と幅広い内容で構成されていた。８名の支援者が丁寧に技術や助言を行った。アンケート結果より講義・演習ともに満足度が高い内容であった。臨床での質の高いフットケア定着に重要な研修である。			

教育研修部　研修（追加研修）

研修名	外来における在宅療養支援能力向上のための研修	定員	応募数	受講者数(修了者数)
		40 名	39 名	37 名（36 名）
講師	静岡県健康福祉部福祉長寿局 福祉長寿政策課 地域包括ケア推進室　大石園巳			
開催日	e ラン：令和 6 年 10 月 1 日（火）～10 月 31 日（木） 演習：令和 6 年 12 月 1 日（日）10：00～12：30			
目標・ねらい	所属施設の医療機関や地域の実情等から、地域で切れ目ない在宅療養支援を行う上での、自施設が担うべき役割を理解し、自身の役割や課題に対する認識を深め、実践力の強化につなげる			
内容	【e ラーニング 200 分】 1 外来看護を取り巻く現状と課題、国の政策動向等に基づく外来看護職の役割 2 外来における在宅療養支援 3 在宅療養を支える地域連携とネットワーク 4 在宅療養患者（外来患者）の意思決定支援 5 在宅療養患者（外来患者）を支える社会資源 【集合研修：講義】 1 静岡県における医療 看護を取り巻く状況等 2 グループディスカッションによる事例検討			
評価まとめ	e ラーニングで学習後、事前課題にて自施設における現状から外来看護師として自らが担う役割についてや自身が感じている課題を整理したうえで研修に参加したことで、演習のディスカッションが活発にできていた。半日の研修であったがもっと話をする時間があっても良いとの意見もあり、受講者同士の意見交換が効果的であった。			

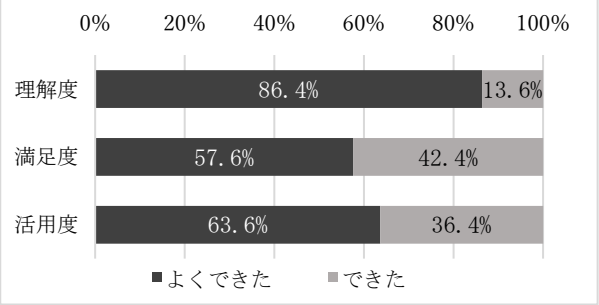
アンケート結果



アンケート記載事項
- 他施設、病院で外来勤務しているナースの現状、療養支援で感じている悩み、問題点がわかり良かった。
- 他施設の情報を聞き、必要な支援が明らかになった。
- 普段感じている療養支援に関する思いが明確化できて良かった。明日からの支援に活かせると思いました。
- 現場で役立つ情報共有ができた。
- 少ない情報からのアセスメントなのに色々な考え方、視点があり勉強になりました。

研修名	看護補助者標準研修 ー看護補助体制充実加算該当パッケージー	定員	応募数	受講者数
		50 名	34 名	33 名
支援者	藤枝市立総合病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師　神谷有香 静岡県看護協会　感染管理認定看護師　濱田真由美			
開催日	e ラン：令和 6 年 10 月 1 日（火）～11 月 30 日（土） 演習：令和 6 年 12 月 21 日（土）10：00～12：30			
目標・ねらい	e ラーニングで学んだ内容をふまえ、直接ケアに係る演習を実施し、患者の安全を考慮した食事に関する業務を遂行するための技術を習得する。			
内容	【e ラーニング 610 分】 1 医療機関で働く看護補助者の役割と業務 2 直接ケア総論　3 直接ケア各論 【講義：演習】 1 食事に関する業務 1)食事介助 2)配下膳 2 演習　1)食事に関する業務 2）食事に関連した感染予防			
評価まとめ	看護補助体制充実加算該当研修として、今年度初めて開催した研修である。対象者が看護補助者であったため、より実践的な内容が学べるよう講師に実技を含めた演習を依頼した。その結果、日頃聴く機会のない内容を聴けたことで学びになったとの評価があり大変効果的な研修であった			

アンケート結果



アンケート記載事項
- 実演もありとても分かりやすかった。
- 分かりやすく、自ら体験することで食事介助の気づかなかったことなど気づくことができた。
- 演習することにより、安全な介護が理解することができた
- 食事介助の不安が軽減されたから。
- 感染が多いので学んだ事をやっていきたいです。

認定看護管理者教育課程【ファーストレベル】

1　研修期間　2回開催

第1回：令和6年5月13日～令和6年7月23日（24日間）

第2回：令和6年10月1日～令和6年12月6日（24日間）

2　受講者状況

令和6年度応募定員100人　応募者125人（50施設）　　受講倍率：1.25倍

応募者多数のため、1割増の110人を受講決定とした　　受講倍率：1.14倍

令和6年度受講者110人　修了者110人

3　受講者の背景

1）職位　　副看護部長（1%）看護師長（24%）副看護師長・主任（71%）スタッフ（4%）

2）施設規模　病床数なし（2%）1～100床（6%）101～300床（35%）301～500床（25%）501以上（32%）

3）年代　　30歳代(13%) 40歳代(63%) 50歳代(24%)　　平均年齢　46.0歳

4　カリキュラム

6教科目111時間、特別講義21時間　総合計132時間

内訳:ヘルスケアシステム論Ⅰ(15時間) 組織管理論Ⅰ(15時間) 人材管理Ⅰ(30時間)　資源管理Ⅰ(15時間)
質管理Ⅰ(15時間) 統合演習Ⅰ(21時間) 特別講義(論理的思考技法21時間)

5　授業方法

原則対面で実施。講師の都合で遠隔授業を活用した。

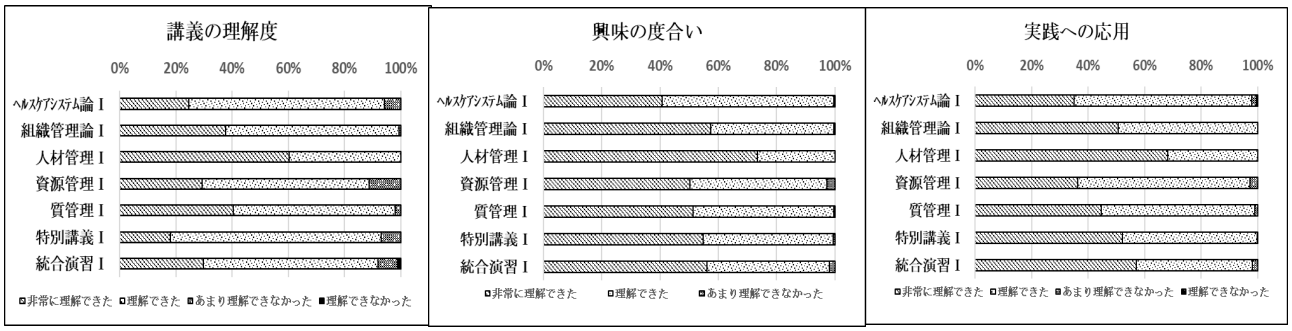
6　教育課程評価（アンケート結果）　2回合計　回収率80%　グーグルフォームを利用

1）　目標の達成度

目標	できた	ややできた	あまりできなかった	できなかった
ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。	25名（28%）	57名（65%）	6名（7%）	0名（0%）
組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。	35名（40%）	50名（57%）	3名（3%）	0名（0%）
看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。	37名（42%）	47名（53%）	4名（5%）	0名（0%）

3つの目標とも「できた」「ややできた」が93%以上であり、目標達成度は高かった。

2）　教科目評価



「講義の理解度」「興味の度合い」「実践への応用」は全教科目で高く評価された。ヘルスケアシステム論や資源管理の講義理解度では、社会保障制度、保健医療福祉制度、診療・介護報酬制度、経営指標の内容は、初めて聴く内容が多く、あまり理解できなかったと回答した受講者が若干名いた。また、特別講義や統合演習では問題解決技法が難しかったようで、もう少し時間数を増やしてほしいという声も聞かれた。

3）統合演習

特別講義（論理的思考技法）を受け、グループワークが効果的に行われた。施設や部署の問題から課題の抽出が行われ、あるべき姿、データの重要性が理解できた。今回の計画を実践してくれることを期待したい。

4）研修全体

受講者は、講義とともにグループワークを通して成長していき、特に、統合演習のグループワークでは、自己の課題だけでなくグループメンバーの課題も積極的に関わっていた。

7　教育課程の運営

各施設の管理者、受講者のご協力により無事に全過程を修了できた。来年度も安心、安全な運営に努めたい。

認定看護管理者教育課程【セカンドレベル】

1 研修期間　令和 6 年 7 月 4 日（木）～令和 6 年 10 月 29 日（火）(34 日間　実習 1 日含む)

2 受講状況　定員 30 人　応募 49 人(31 施設)　受講倍率 1.5 倍　受講 34 人(26 施設) 修了 34 人

3 教育内容　ヘルスケアシステム論Ⅱ　15 時間,組織管理論Ⅱ　30 時間,人材管理論Ⅱ　45 時間,　資源管理Ⅱ　15 時間,質管理Ⅱ　30 時間,　統合演習Ⅱ　54 時間(演習 45,実習 9) 合計 189（単位；時間）ZOOM 対応　9 時間（台風接近,講師の都合）

4 受講者背景(単位;人)

1) 職位；看護部長 1、副看護部長 2、看護師長 30、主任 1

2) 施設；101～300 床 11、301～400 床 3、401～500 床 6、501～600 床 7,601 床以上 7

3) 年齢；30 代　1、40 代　12、50 代　20、60 代　1　平均年齢　50.2 歳

5 研修後のアンケート評価（回収 34,回収率 100%）

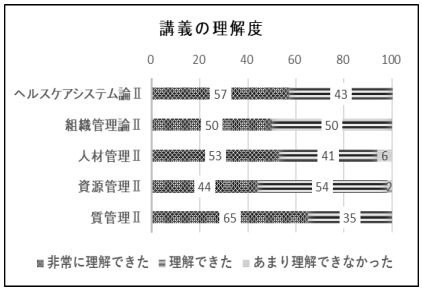
教育課程内容について

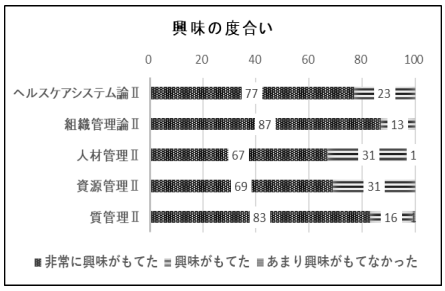
1)　到達目標の達成度

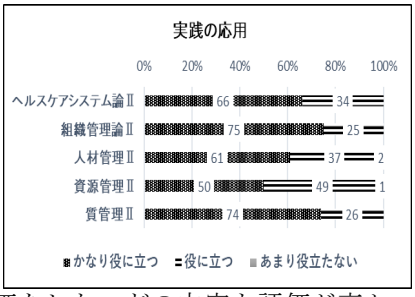
目標	目標内容	高い	やや高い	普通
1	組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。	5 人 (14.7%)	18 人 (52.9%)	11 人 (32.4%)
2	保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。	6 人 (17.7%)	20 人 (58.8%)	8 人 (23.5%)

・目標 1.2 とも「高い」「やや高い」が概ね 7 割を閉めた結果から達成度は高かった。総合的に教育課程内容の達成度から、教育目標の「看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する」は達成できたと評価する。事前課題、講義、課題レポート、統合演習と展開するなかで、自身の考えを言語化し、実践へのつながりを見出していた。

2)　教科目の講義について（講師単位に評価したもの科目単位ごとに集計







・24 名の講師の講義を「理解度」「興味の度合い」「実践の応用」で評価をした。どの内容も評価が高かった。多くの講師に対して熱いパワーを感じており、講義に引き込まれたという感想が多かった。

・アンケートでは自施設のデータの重要性、経営的視点への気づきや事前課題を活かしたワークで学びが深まり、実践への応用が高く評価されていた。

3) 統合演習Ⅱ　看護管理実践計画書作成

	十分できた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
看護実践計画書	11 人(32.4%)	15 人(44.1%)	8人(23.5%)	0
プレゼンテーション	9人(26.5%)	17人(50.0%)	8人(23.5%)	0

・今年度は、問題解決技法の講義を追加した。演習支援者やグループメンバーからの助言を得て実践計画の完成へと展開した。講義を追加したことにより、分析のもとになるデータ収集の重要性に気づいたという意見が多かった。

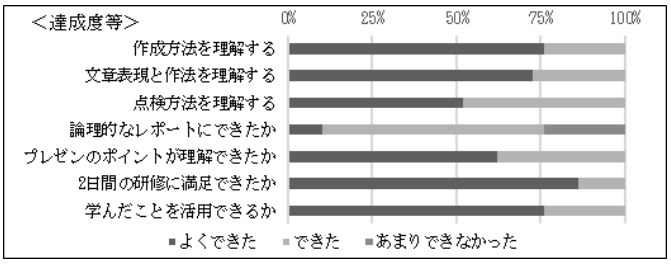
4) 統合演習Ⅱ　実習（ナーシングホーム気の里 1 日研修・実習後グループワーク）

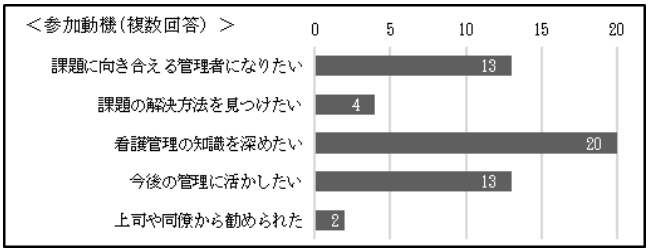
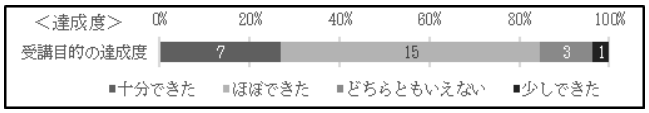
・地域包括ケアシステムの地域でのサービスの一端を見学し討議することで、地域との関わりや連携の必要性を知る良い機会になった。

6　全体のまとめ

受講者の講師や研修内容に対する満足度や達成感は高く、管理者としての動機づけがなされていた。すべて県内からの受講であったが、互いの施設等を知る機会となっていた。コロナが 5 類となり、協会としてもコロナ前の環境に戻りつつある。そのため、受講者間のコミュニケーションも円滑となり、グループダイナミックスを発揮できたことで、良い学びにつながりネットワークを拡大する機会となっていた。今後は、学びを活かした看護管理が日々実践できるように期待をする。

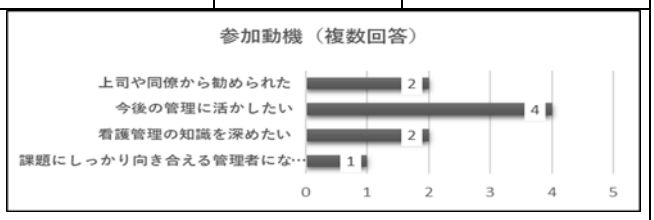
認定看護管理者教育課程【セカンドレベル】

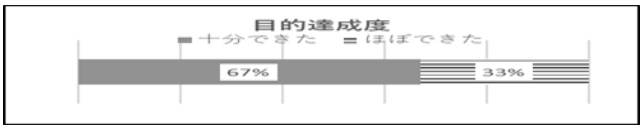
研修名	認定看護管理者教育課程 （セカンドレベル受講者対象） 小論文・レポートの書き方	定員	応募者数	受講者数
		34 名 セカンドレベル受講決定者	31 名	31 名
講師	静岡産業大学 経営学部 教授　　土居繭子			
開催日	令和６年 ６月 10 日（月）６月 24 日（月） 9：30～16：30			
目標	1. 自分の考えや意見を相手に伝えるために、論理的で説得力のあるまとまった文章を作成する 2. 小論文・レポート作成に関する基礎知識等を学ぶ			
内容	事前課題；　レポート作成 第１回； レポート・小論文の作成手順、構成・組み立て、文章表現と作法・リライト 中間課題；レポートのリライト完成 第２回； 自己点検、他者点検、批判的視点について、再リライト、フィードバック	【アンケート記載事項】 ・こんなに丁寧にレポートの書き方を教えてもらうことはなかったので、とても勉強になりました。 ・レポートやプレゼンテーションにおいて自分の傾向や苦手な部分が浮き彫りになり、今後の研修や部署での実践、教育に活かしていける内容であった。 ・楽しかったです。それから、何度でも復習しながら役立てる内容でした。また、他のスタッフにも勧めたいと思いました。 ・セカンドの研修前に、自分のレポートの書き方や癖、不足点を明確にできてよかった。 ・今後、レポートを書く機会が多いので、事前にこのような研修に参加できたことは良かった。必要な研修だと感じた。		
評価 まとめ	今回の受講者は、前回のファーストレベルからセカンドレベルを受講する期間が平均７年を超えているという背景がある。また、普段からレポートを書くことに慣れていないため、セカンドレベルの科目レポートに対して不安を持っている。本研修は、２回も添削するという丁寧な内容であり、自分の傾向を知ることができたことは、今後レポートを書くことに慣れることで自信につながると思われる。 また、セカンドレベル開講前に実施した本研修には効果があり、今後も必要な研修と考える。			

研修名	認定看護管理者教育課程セカンドレベル公開講座 人材管理Ⅱ	定員	応募者数	受講者数
		５名	７名	７名
講師	加藤看護師社労士事務所 所長　加藤　明子			
開催日	令和６年９月９日（月）9:30～16：30			
目標	労働に関連した社会のしくみの知識を習得する ・労働法規 ・就業規則などの事業所のルール ・労務管理の実際			
内容	セカンドレベルの公開講座 ・労働以外その対策 ・ハラスメント予防策と対応 ・労務管理関する今日的課題	【アンケート記載事項】 ・人事・労務管理に関して、スタッフとの関わり方に不安があり、対応の仕方を具体的な説明でこれからの対応に生かせそう。 ・労務管理について、昨年から自己課題としていた内容だったので、法律、対応など実践に活かせると思った。 ・ちゃんと管理の勉強ができた。また今の職場の課題が見えた。 ・ハラスメント対策、法律関係のことを看護部内で周知したい。		
評価 まとめ	達成度が、十分できた、ほぼできたが 86％であった結果から、受講者にとって有意義な研修であったと推測できる。また、グループワーク等もあったが、大きな問題はなかったが、公開講座の人数は、ワーク等を考えるとこの人数が妥当であった。			

研修名	認定看護管理者教育課程セカンドレベル公開講座 質管理Ⅱ	定員	応募者数	受講者数
		5名	7名	6名

講師	国際医療福祉大学大学院 教授　　石井美恵子
開催日	令和6年8月20日（火）9:30～16：30
目標	・災害に関連する法律や防災業計画の概要がわかる ・オールハザードアプローチの有用性がわかる ・メンタルシミュレーションによって災害発生状況を想起できる ・災害の対応原則を知り、さまざまな災害への対処法を考えることができる ・人材育成・リーダーシップの重要性がわかる ・災害対応の本質は人道援助であることがわかる
内容	災害対応に関連する知識 ・法律や防災業務計画 ・災害と医療 ・オールハザードアプローチ





【アンケート記載事項】
・災害対策に関して、自病院の見直しポイントや、スタッフへの意識付けポイントがみえた。
・災害対策マニュアルの見直しに役立てたい。
・院内での災害対策に活かすことができそう。
・今回何を一番にするべきか 教えていただいた。
特に「思いつくことはできること 思いつかないことはできないこと」という言葉が印象に残った。
・分かりやすく、興味深く聞けて、引き込まれる講義だった。

評価 まとめ	受講後の達成度は十分できた、ほぼできたで 100%であり、有意義が高い研修であったと推測できる。また、実際に災害が発生していたためタイムリーな内容であった。 運営に関しては、会場としての余裕はないが、ワークがないため運営に支障はなかった。

研修名	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル　フォローアップ 実践報告	定員	応募者数	受講者数
		34名（令和6年度受講者）	34名	33名

開催日	令和7年3月4日（火）9：30～16：30
目標	1.看護管理実践計画の進捗を報告する 2.研修者間で効果的に情報交換ができ、自身の看護管理および実践計画に活かせる
内容	1部：看護管理実践計画報告 講評；セカンドレベル演習支援者6名 2部 GWテーマ ：「看護管理者として看護管理実践計画書から学んだこと」

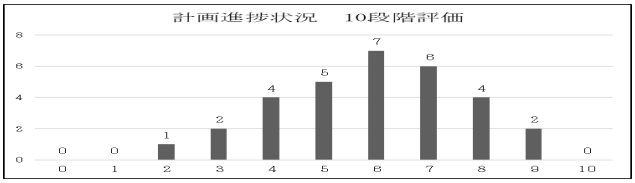
看護管理実践計画　報告テーマ

看護ケア体制	11
退院支援	3
教育体制	5
患者サービス	1
組織体制	11
訪問看護	1

①看護管理実践計画書の展開について

計画終了	修正進んでいる・できている	あまり、進んでいない・できていない
0名（0%）	26名（83.9%）	5名（16.1%）

②看護管理実践計画進捗状況



【アンケート記載事項】（一部抜粋）
・データを基にした分析ができ、部署でビジョンを共有できた。
・データ分析と緻密な計画、あるべき姿にむかったぶれない軸を構築する大切さやスタッフが楽しみを感じながら実施できていた。
・問題解決に向かう解決戦略を立案することができた。
・自部署だけどなく多職種にへの浸透方法を今後計画していく 必要があることがわかった。

評価 まとめ	目標1.2は達成できた。セカンドレベル閉講(10月29日)から2月までの約4ケ月間であったが、進捗の速度に違いはあるが、全員が計画を展開できていた。70%が5段階以上まで進めれていた。 取り組んでいるテーマとしては、看護ケア体制、組織体制にかかわる内容が多かったが、具体的計画では、マニュアルや研修の実践から取り組んでいた。計画を進めるのあたっての動機付けでは、看護職に対してはあるべき姿や現状などを説明し理解を得たが、多職種の理解を得るには困難を感じたという声も聞かれた。データを踏まえた説明、組織化を行う上でのコミュニケーションも重要であると実感していた。また、すでに計画を修正している人も多く、PDCAサイクルをしっかり回しながらすすめていた。これは、研修での問題解決技法を習得できていた結果と思われる。今回の実践報告の機会は、情報共有し相互に承認や助言を得る貴重な時間であり、振り返り学習により学びを深め、また、セカンドレベルを通じてのネットワークの強化につながっていた。

感染管理認定看護師教育 B 課程

1 研修期間　　令和 6 年 4 月 5 日～令和 7 年 3 月 6 日
2 受講者状況　募集定員 16 人 応募者 14 人(14 施設) 受講決定 11 人(11 施設) 修了者 11 人
3 受講者(11 人)の背景

年齢	30歳代	3人(27%)	40歳代	5人(46%)	50歳代	3人(27%)	平均	45歳
職位	看護師長	2人(18%)	副師長	7人(64%)	スタッフ	2人(18%)		
病床数	0～100床	1人(9%)	101～300床	5人(46%)	301～500床	2人(18%)	501床以上	3人(27%)
感染管理の役割	ICT	5人(46%)	リンクナース	3人(27%)	感染対策係	2人(18%)	無し	1人(9%)
施設地域	東部	4人(36%)	中部	5人(46%)	西部	2人(18%)		

4 教育内容　合計 725 時間の内訳

e-ラーニング	共通科目16科目:288時間	専門科目2科目:47時間
感染管理認分野	専門科目8科目:195時間	
演習・実習	統合演習・認定分野・特定行為区分:195時間	

5 研修後のアンケート評価　回収状況 回収数 11 枚 回収率 100%（回答は Google forms と用紙を利用）

1) 各教科目の平均評価(理解度・関心の度合い・実践への応用)

	講義の理解度				興味の度合				実践への応用			
	非常にできた	できた	あまりできない	できない	非常にもてた	もてた	あまり持てない	興味ない	かなり役に立つ	役に立つ	あまり役立たない	役立にたない
感染管理学（3単元）	4.6	5.6	0.8	0.0	7.0	3.6	0.4	0.0	8.0	3.0	0.0	0.0
疫学・統計学（2単元）	2.0	8.0	1.0	0.0	5.0	5.0	1.0	0.0	8.5	2.5	0.0	0.0
微生物学（3単元）	3.3	5.7	2.0	0.0	6.3	4.0	0.7	0.0	7.7	3.3	0.0	0.0
医療関連感染サーベイランス （3単元）	4.7	5.3	1.0	0.0	6.9	3.9	0.2	0.0	8.3	2.7	0.0	0.0
感染防止技術（9単元）	5.5	4.9	0.6	0.0	6.8	3.8	0.4	0.0	8.5	2.5	0.0	0.0
職業感染管理（2単元）	4.5	6.3	0.3	0.0	6.5	4.3	0.3	0.0	6.8	4.3	0.0	0.0
感染管理指導と相談（3単元）	5.3	5.8	0.0	0.0	5.3	5.8	0.0	0.0	7.3	3.8	0.0	0.0
洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント（2単元）	8.0	3.0	0.0	0.0	8.0	3.0	0.0	0.0	8.0	3.0	0.0	0.0

＊すべての教科目の理解はほぼできている。疫学・統計学、サーベイランス、微生物学に関しては、初めて本格的に学ぶものであり、当初は苦手意識があった。しかし、専門的知識をベースに活動することは重要であり、実践に役立つと回答している。

2)演習・実習について

	達成	ほぼ達成	不十分
目的	7	4	0
自施設の活用	3	6	2

＊実習において実践すべき項目として、特定行為では 15 症例の提出、認定看護分野の医療関連感染サーベイランスの実施、インサービスの実践が求められるが、実習指導医と指導者の指導により実践でき、合格評価をいただいた。

3)修了試験について

感染管理に必要な7つのプログラムを完成させた。また、修了試験は全科目において、全員合格を修めた。

6 まとめ

県内に感染管理認定教育B課程を開設し、2 期生 11 名の修了生が誕生した。感染管理特定認定看護師の役割は、専門的知識をベースに、施設に合った効果的な感染管理プログラムを構築し、患者や職員など病院に関わる人、地域の人々を感染から守ることである。

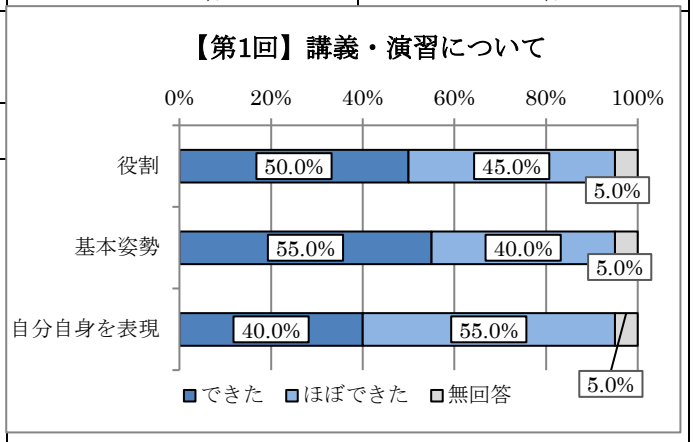
活動は、組織的に取り組むことが不可欠であり、すべての職員が徹底して行うための体制づくりが重要である。修了生は講義、グループワーク、実習、演習を通して、自施設を理解し、看護の専門性と質の追究、組織変革などの役割が明確になっている。また、チーム医療における役割は、自施設内だけでなく関連組織や地域におよぶ幅広い管理活動も含まれる。そのためには知識だけでなく、コミュニケーション能力が求められる。

自身の考えを伝え、役割と責任、変革に挑戦するために、今後も学び続けることの大切さに気づいている。11 名の修了生の今後の活躍に期待する。

静岡県受託研修

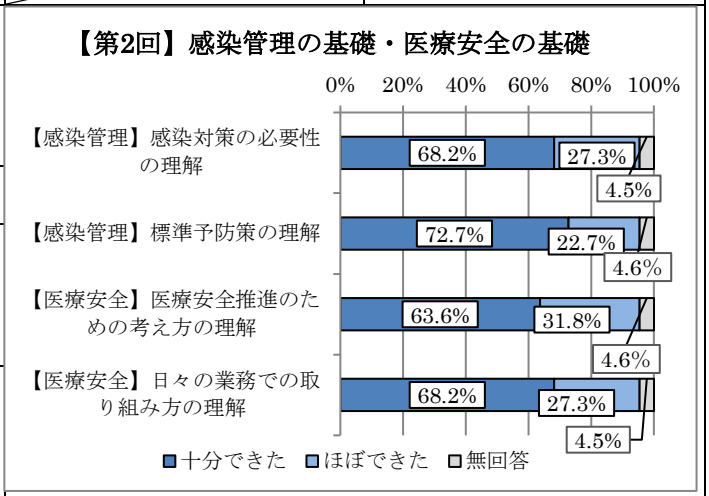
新人看護職員研修（多施設合同研修）

研修名	(1) 1. 看護職員としての自覚と責任 2. コミュニケーションの基礎	定員	受講者数
		40 名	22 名
講師	静岡県看護協会認定看護管理者　櫻井郁子 ヴォイス・セラピー実践研究家　上藤美紀代		
開催日	令和 6 年 5 月 23 日（木）静岡県看護協会		
目標	1. 看護職として、また組織の一員としての自覚と責任について確認し、仕事に向き合う姿勢の目標が持てる。 2. 職場の一員としての存在や立場を認識し、自分との向き合い方を知る・同期の絆を強め、互いに切磋琢磨できる仲間のいる心強さを知る。		
内容	・組織の一員として働くための心構え、看護職として果たすべき役割、看護実践能力を高めていく。 ・コミュニケーションの基礎 ・チーム医療に必要なコミュニケーション		
評価まとめ	「組織における自分の役割」「専門職業人としての基本姿勢」「自分自身を表現する」は、20 名中 19 名ができた・ほぼできたと回答している。この研修の満足度は高く、職場での活用度も高く、主体的に参加できていた。		



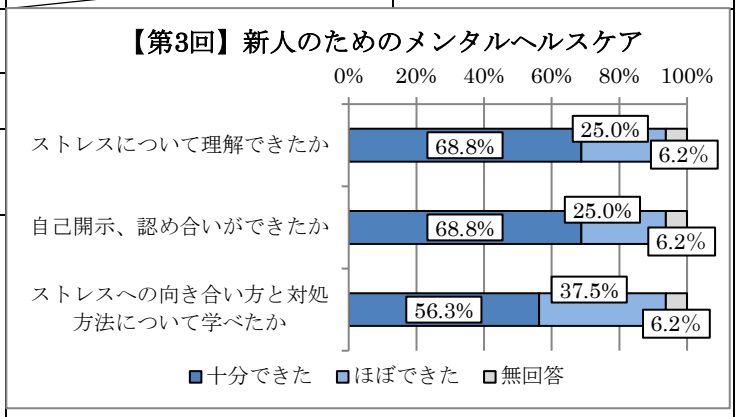
［グループワークでの意見　　～今、できること～］
・つらいと思ったら相談する
・ストレスをためないで、リフレッシュする
・先輩の動きをみて勉強する
・1 年後には信頼される看護師になりたい

研修名	(2)・感染管理の基礎 ～感染対策の基本を学びましょう～ ・医療安全の基礎	定員	受講者数
			22 名
講師	静岡県看護協会感染管理認定看護師 松井泰子　濱田真由美 静岡済生会総合病院 副看護部長　上田理恵子		
開催日	令和 6 年 6 月 17 日（月）静岡県看護協会		
目標	1. 感染対策の基本を理解して、標準予防策を実践する 2. 安全に看護を実践する方法を学ぶ		
内容	1-1. 感染対策の基本 1-2. 侵襲的処置に関連する感染対策 1-3. 日常の感染対策の実技 2-1. 医療安全管理の基礎知識 2-2. 医療安全体制の整備 2-3. 医療事故発生時の対応 2-4. 医療安全推進の取り組み		
評価まとめ	ほとんどの受講者がすでに院内で受講していたが、根拠のある感染管理について学び、標準予防策の徹底を再確認できていた。実践に繋げられることを期待したい。また、職場でのコミュニケーションが医療安全に繋がることを理解できた。		



［アンケート記載内容］
・標準予防策の徹底をしていきたい。
・清潔・不潔を理解し、自分を介して感染を広めることのないようにしたい。
・わからないことは相談し自信をもっていきたい。

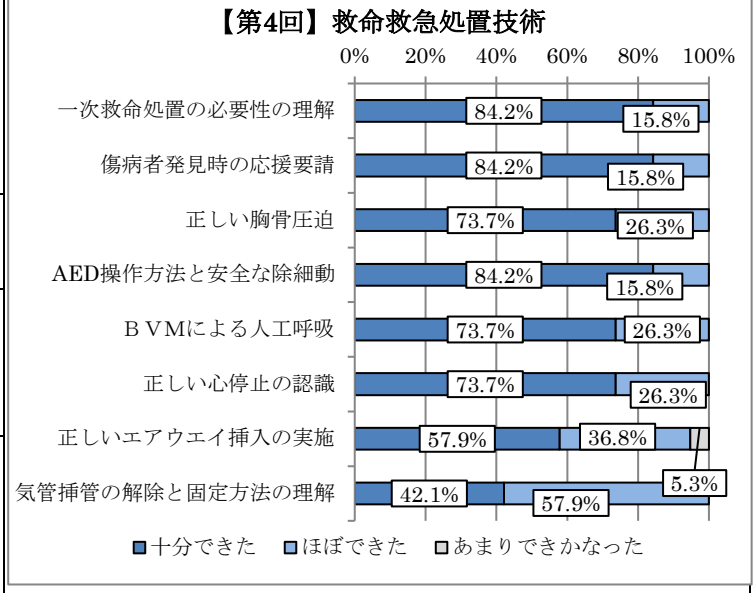
研修名	(3)新人のためのメンタルヘルスケア	定員	受講者数
			22 名
講師	聖隷浜松病院 精神看護専門看護師　　高橋淳子		
開催日	令和 6 年 6 月 26 日（水）静岡県看護協会		
目標	3 か月間を振り返り、自分を見つめることができる		
内容	1. ストレスとは何か 2. コミュニケーション（グループワーク） 3. 自己のストレスへの気付きと対処方法		



［アンケート記載内容］
・ネガティブに考えてしまう性格だが、メンバーから違う考え方も指摘され、新しい発見があった。
・書くことによって適応的思考ができる。（しなやかに考えることができる）

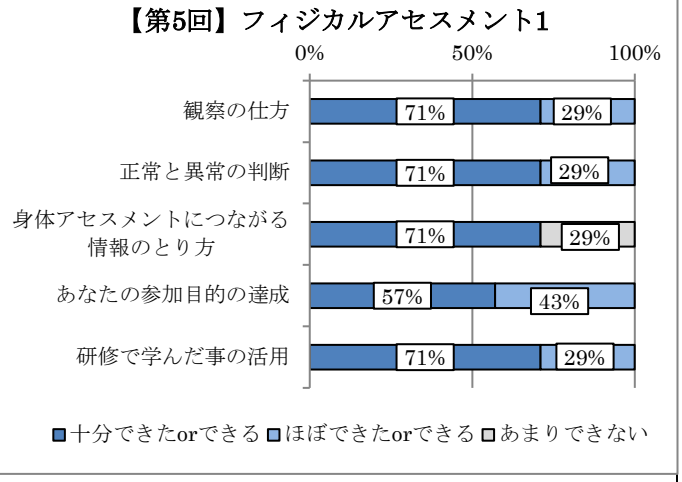
評価まとめ	「満足度」「主体的参加」「気分を見つめ直す」「職場への活用度」について、ほとんど肯定意見であった。コミュニケーションを図りながら意見をグループで共有することができた。

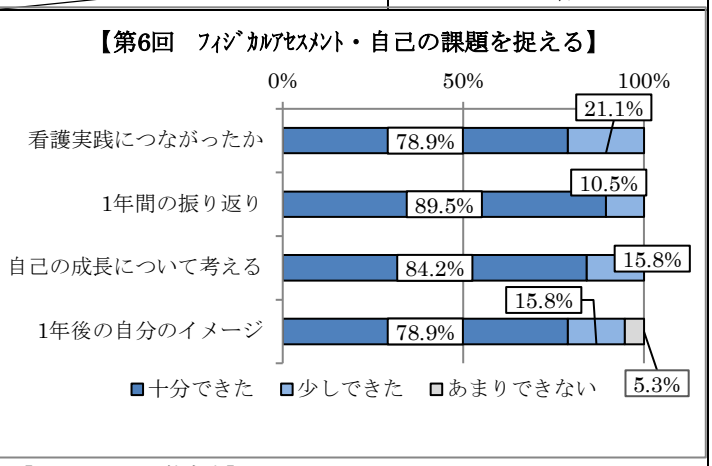
研修名	(4)救命救急処置技術	定員	受講者数
			20 名（浜松 6・沼津 14）
講師・コーディネーター	浜松医科大学医学部附属病院 講師：診療看護師　鈴木陽介 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：兼子紗耶 楠野貴哉 沼津市立病院 講師：救急看護認定看護師　尾﨑千鶴 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：渡邉知子　大杖明男		
開催日	令和 6 年 9 月 13 日(金)浜松医科大学医学部附属病院 令和 6 年 9 月 26 日(木)沼津市立病院		
目標	1. 一次救命処置（BLS）の流れを理解し、処置・技術を身につける 2. 急変場面シミュレーショントレーニングをとおして、看護実践能力を高める		
内容	1. 救命救急の基礎知識と観察 2. BLS トレーニング 3. 急変患者の発見から蘇生までの対処 4. 基本的な気管挿管介助・固定法		



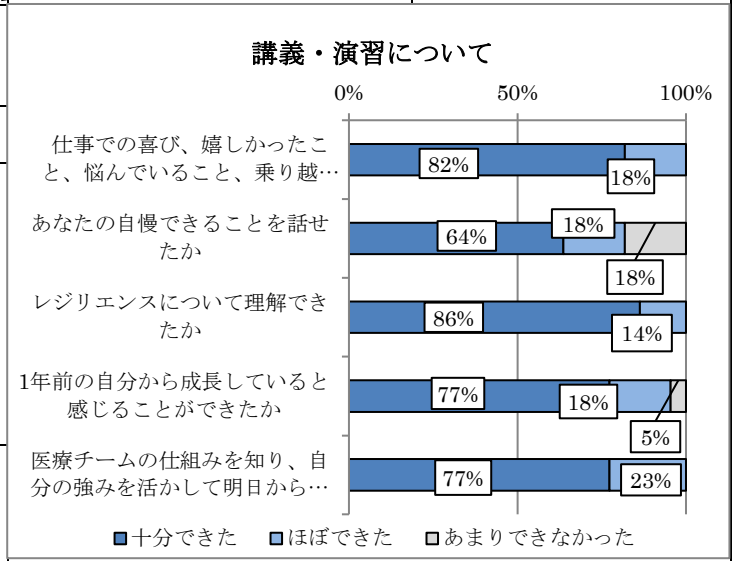
［アンケート記載内容］
・優しく褒めていただき、的確なアドバイスをもらえたので緊急時の対応について詳しく知ることができた。
・急変時でもコミュニケーションを図り、自分の役割を果たすことが重要。
・今回の研修で、更に学ばなければと思った。

評価まとめ	すでに施設内で研修を経験している受講者がほとんどであった。洗練されたシナリオやスムーズな進行で、メンバーで協力しながら楽しく学ぶことができ、振り返りながら有意義な研修となった。

研修名	(5) フィジカルアセスメント１	定員	受講者数
			21 名（12 日:11・13 日:10）
講師・コーディネーター	静岡県立総合病院 講師：集中ケア認定看護師　石橋幾久 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：看護師　佐藤雄太 看護師　興津美希		
開催日	令和６年 11 月 12 日（火）・13 日（水） 静岡県立総合病院		
目標	臨床で遭遇する頻度の高い症状を、病態生理の知識・実践を統合させアセスメントすることができる		
内容	1.　フィジカルアセスメントの基礎知識と観察方法、演習 2. 事例検討	［アンケート記載内容］ ・貴重な体験となった。	
評価まとめ	スキルアップセンターで具体的な演習を経験し、フィジカルアセスメントの重要性を感じていた。グループワークでは支援者のフォローにより意見交換することができた。研修も回を重ね、協力して進めることができた。		

研修名	(6)フィジカルアセスメント２ 自己の課題を捉えよう	定員	受講者数
			20 名
コーディネーター	静岡県立総合病院 集中ケア認定看護師　石橋幾久 看護師　佐藤雄太 静岡済生会総合病院 救急看護認定看護師　川井和枝 浜松医科大学医学部附属病院 看護師　鈴木麻希子、看護師　森下智世 浜松医療センター 集中ケア認定看護師　森里枝子		
開催日	令和７年１月 21 日（火）静岡県看護協会		
目標	・看護実践とフィジカルアセスメントをつなげる ・２年目の課題を考えることができる	［アンケート記載内容］ ・コーディネーターから良いアドバイスを受けることができた。 ・同期が少なく心細いが同じ思いを持つ人達と研修で会えるのが楽しみになった。	
内容	・観察・アセスメント・介入を振り返る ・社会人１年生を終えて成長した自分を見つめる		
評価まとめ	救命救急処置・フィジカルアセスメント研修が印象に残っているという意見が多かった。上司からのコメントがないまま課題を提出した受講者が数名いたが、臨床で丁寧に指導していただいていることが伝わった。「1 年間の振返り」では、多くの受講者が「前に踏み出す力」はできているが、チームの中で自分の意見を述べることはまだ十分ではないと評価している。2 年目に向けての目標をあげ、「1 年後のなりたい自分のイメージ」ができ、これを忘れずに 2 年目に臨むことを期待したい。		

令和6年度より新規研修

研修名	新任期フォローアップ研修 ※令和５年度新人看護職員研修（多施設合同）受講者	定員	受講者数
			22 名
講師	聖隷浜松病院 精神看護専門看護師　　高橋淳子		
開催日	令和６年８月７日（水）静岡県看護協会		
目標	1. 自分の成長過程を振り返り、2 年目の看護職員として自覚していること（または2 年目看護職員としての自分）を同期へ語ることができる 2. 次の成長に向け、自分の成長につながるレジリエンスを高めよう 3. チームの一員として、自分の強みを発揮する方法を考えることができる		
内容	講義・演習 1. 2 年目看護職員としての自分を振り返る 2. レジリエンスとは 3. レジリエンスを高める方法 4. 看護の仕事とは何か考えてみよう 5. チームの一員として自分の看護を振り返り自分の強みを知り語り合おう	・同期が少なくて不安だったが、また頑張ろうと思えた。 ・久しぶりに他病院の同期の顔を見ることや話しを聞くことができて嬉しい気持ちになった。	
評価 まとめ	昨年度の受講者を対象としたフォローアップ研修を初めて開催した。１年前の自分から成長していることを感じ、レジリエンスを高める方法を知ることができた。同期が少ない施設の新人にとって、他施設の同期と交流することは重要である。		

静岡県受託研修　新人看護職員指導者研修（研修責任者研修・教育担当者研修・実地指導者研修）

1「研修責任者研修」「教育担当者研修」「実地指導者研修」（合同 3 日間）

※ 1･2 日目は 3 役合同、3 日目は「教育担当者研修」「実地指導者研修」2 役合同

1）人 数　定員 100 名　応募者 131 名　受講者 11/19…104 名、11/20…104 名、11/24…85 名

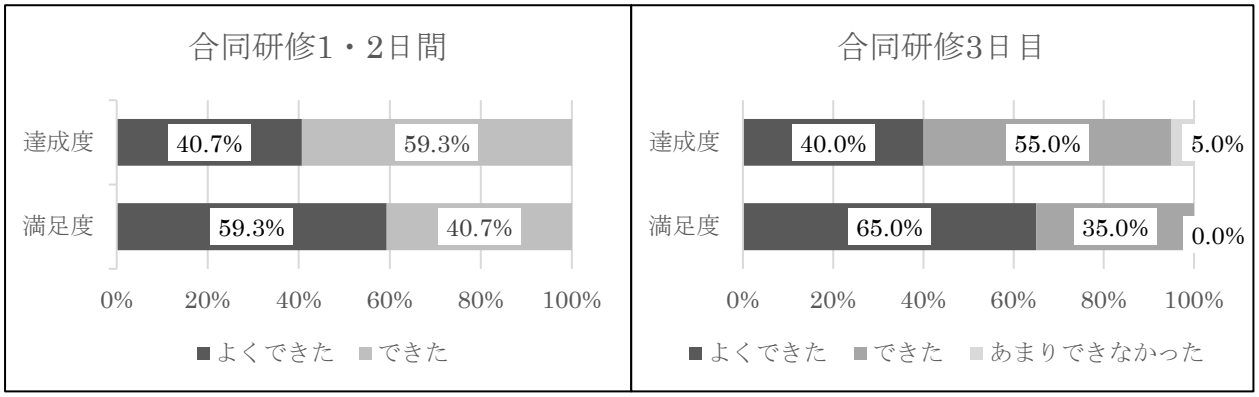
2）講 師　Ⅰ. 東京医療保健大学 医療保健学部 教授　末永由理　　Ⅱ. 元藤沢市教育文化センター　目黒悟

3）開催日　Ⅰ.令和 6 年 11 月 19 日(火)、11 月 20 日(水)　　Ⅱ.令和 6 年 11 月 24 日(日)

4）目 的　新人看護職員が臨床現場に順応し、臨床実践能力を獲得するために、それぞれの役割を認識し取り組む方策を学ぶ

5）内 容　Ⅰ.組織における人材育成と新人看護職員研修の概要　　Ⅱ.人を教えること、育てることとは

6）アンケート結果　1･2 日目:回答率 68.3%　3 日目:回答率 57.6%



7）評価 ･まとめ

合同研修Ⅰ: 研修をとおしてそれぞれの役割が明確となり、新人育成に対する自らの目標が再確認できた。また、3 役合同グループワークでは忌憚のない意見交換ができ、各役割に期待することや、それぞれの役割が担う新人へのサポート方法を具体的に話し合う機会となる有意義な研修となった。

合同研修Ⅱ:看護と(新人)教育の同形性、ともに学びともに育つ「共育」について講師から繰り返し教授を受け、新人時代を乗り越えてきた自身の経験を振り返りながら今後の指導の方向性を考える機会となった。今年度は 3 日目の合同研修を、新人に、より身近にかかわる担当者として 2 役に絞って実施したことで、講義やワークをとおして自身の行動を実践的に考える機会となった。

2「研修責任者研修」（各論 3 日間）　定員 20 名　応募者 20 名　受講者 19 名

1）講 師　藤枝市立総合病院　看護部長　十鳥依利子

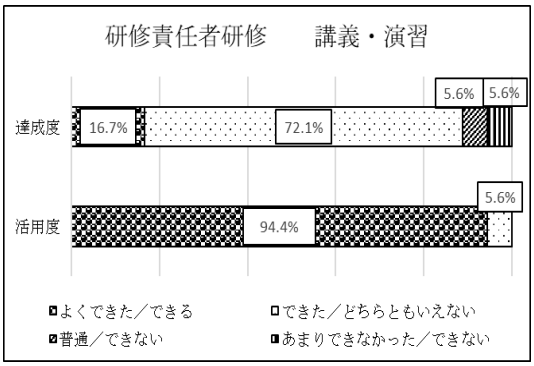
2）開催日　令和 6 年 12 月 3 日(火)、12 月 4 日(水)、12 月 10 日(火)

3）対 象　施設の新人看護職員研修企画を担う者(看護師長以上)

4）目 標　組織理念･方針に基づいた計画的な新人看護職員研修を行ない、組織全体で新人看護職員を育成する職場風土を醸成する方策を考える

5）内 容　・組織の新人看護職員育成の課題を共有する
・組織全体で新人看護職員を育成する方策を考える
・自施設の研修プログラムの作成

6）アンケート結果　回答 18　回答率 95%



7）評価･まとめ

今回受講者全員が、自施設の教育計画の見直しに取り組み発表することができた。これは、研修日程を 2 日から 3 日に増やしたことや講義とグループワークを交互に実施する研修方法がより学びを深める結果と考える。アンケート結果でも、達成度は(よくできた･できた)が 88.9%、活用度も 99.4%ができると回答している。コメントでも「今後に活かせる内容である」「自施設の教育を考え現場で活かしたいと思った」など前向きな意見が聞かれたことは、目標達成に概ね近づけた結果である。

3「教育担当者研修」（各論 2 日間）　定員 40 名　応募者 47 名　受講者 43 名

1）講　師　目黒悟(元藤沢市教育文化センター)

2）開催日　令和 6 年 11 月 25 日(月)、令和 7 年 2 月 25 日(火)

3）対　象　部署の新人看護職員研修を企画する者(リーダーから副師長)

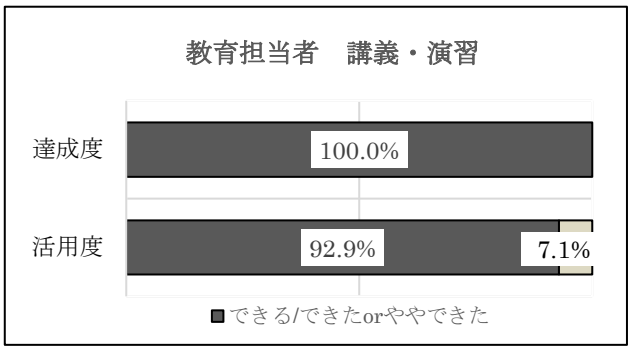
4）目　標　教育担当者が役割を理解し、部署全体で新人看護職員を支え合う職場風土を醸成する方策を考える

5）内　容　共に学び・共に育つ教育的なかかわりの場のデザイン、実践家の学びと成長を支えるリフレクション

6）アンケート結果　回答 28　回答率 65.1%

7）評価・まとめ

2 日間を通して、学びの本質は自らの経験の意味づけであること、教えるということは、学習者の経験の変容、成熟、発展の過程に具体的かつ援助的にかかわることであることを学んだ。1 日目には授業デザインについて学習し、2 日目には自らが作成した授業デザインに基づき、各々が臨床で実践したことをカード構造化法でリフレクションし、他者と共に振り返ることができた。目標達成度、活用度いずれも、できる/できたを含め90%以上の高評価が得られた。今後本研修が実践での指導に活かされることを期待したい。



4「実地指導者研修」（各論 2 日間）　定員 40 名　応募者 64 名　受講者 42 名

1）講　師　田中悦子（元静岡県中部看護専門学校 副校長）、演習支援者 6 名

2）開催日　令和 6 年 11 月 29 日(金)、12 月 18 日(水)

3）対　象　新人看護職員の直接の指導者（3 年～7 年程度）

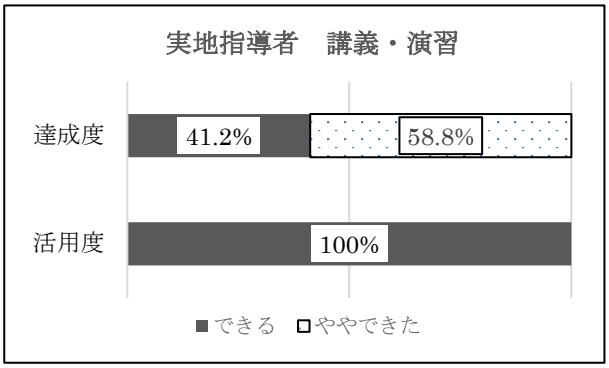
4）目　標　新人看護職員が看護専門職として当該部署で必要な臨床実践能力を獲得できるよう、新人個々に応じた教育を実践できる

5）内　容　・意図的な新人看護職指導(支援)の方法
・再構成を活用したリフレクションの実際

6）アンケート結果　回答 17　回答率 40.5%

7）評価 ・まとめ

目的の達成度は「できた・ややできた」と全員が答えており、活用度も受講者全員が「できる」と高評価であった。1 日目に授業デザイン、コーチングについ学び、2 日目は各自の指導場面を用いて再構成し、ロールプレイを行った。本年度のロールプレイは、グループの人数を減らし、演習支援者をひとりずつ配置したため、効果的に進めることができた。



5 研修全体評価・まとめ

3 日間の合同研修において、2 日間の 3 役合同では、Ⅰ「組織における人材育成、新人看護職員研修の概要」について学んだ。個人ワークやグループワークを通して自身の課題に向き合い、他者との意見交換を行うことで新人支援について具体的な方法を検討することができた。それぞれの役割を理解したうえで、3 役合同でグループワークを行うことで、各役割への期待や要望などの意見交換を行い新人支援の協働と相互のエンパワメントの必要性を理解することができた。3 日目のⅡ「人を教えること、育てることとは」では、今年度は「教育担当者」と「実地指導者」2 役合同で研修を行った。教育的なかかわりとはどのようなことか、新人支援者として基本となる心がまえを再確認し、今までの自身の指導を振り返るとともに、今後の実践につなげるための示唆を得ることができた。さらに役割別の研修では、それぞれの立場に沿った新人支援の具体策を検討する機会となり、実践的な学びを得ることができた。この 5 日間の研修で学んだことを活かし、新人指導を担う者として自施設で還元できることを期待したい。

今年度、合同研修の日程構成を変更し、効果が得られたため、次年度も同様の構成で研修を実施することとする。

静岡県受託研修　　看護職員実習指導者等講習会

1　研修期間　　令和6年7月19日(金)～9月30日(月)　(210時間：eラーニング60時間含む)

2　受講者状況　　募集定員80名　応募者79名　受講者79名（45施設）　修了者79名

年齢構成	20歳代　15名	30歳代　34名	40歳代　27名	50歳代　3名	平均年齢37歳
職　位	副看護部長2名	師長補佐1名	副看護師長2名	副師長補佐2名	副主任6名
	上席看護師1名	主任13名	係長1名	なし　51名	

3　教育目的・教育課程

教育目的:看護職員の臨床教育の充実に必要な知識・技術・態度を習得し、人間尊重の理念に基づき、主体的に行動できる看護指導者の育成をめざす。

区分（時間）	科目　（時間）	講習科目
教育及び看護に関する科目（90）	教育原理　(15)　★	教育原理
	教育心理　(15)　★	教育心理
	教育方法　(15)　★	教育方法
	教育評価　(15)　★	教育評価
	看護論　(15)	看護論、看護倫理
	看護教育課程（15）	看護教育課程、大学の教育課程、看護師3年課程、看護師2年課程
実習指導に関する科目（96）	看護教育方法･評価　(15)	実習指導の原理・方法、実習指導の評価
	領域別実習指導（21）	基礎/地域・在宅/成人/老年/小児/母性/精神
	実習指導方法・演習（60）	実習指導案作成方法、実習指導案の作成
その他（24）	特別講義　(24) ガイダンス・その他	論理的思考、コーチング・ティーチング、ガイダンス

★　eラーニング

4　評価

1）全体評価

定員80名で募集し、応募者79名（45施設）で全員を受講決定し79名が修了した。教育に関する4科目60時間はeラーニングを導入した。天候不順により日程変更があったが概ね計画通り実施した。講義、演習を通して自己の課題について考え、ロールモデルとして看護を伝えることで共に成長することが役割であると気づいていた。受講後アンケートでは、特にグループワークでの学びが多く、講習会全体、カリキュラムについてほぼ全員が高く評価しており、本講習会の目標は概ね達成できた。

2）科目評価

210時間の講習会とした。「教育についての学びを、実習指導に活かせる」「新人の教育背景を知り、実習指導に活かすことができる」「グループワークで、他者の考えを知る機会となった」等の意見があった。わかりやすい講義内容と学習進度を配慮したカリキュラム編成であったと考える。

eラーニングについては内容が難しいという意見もあるが、時間を有効に使えることから、64%が今後も導入を希望している。また、講義内容が演習にどう活かされるかわからなかった等の意見もあり、演習の中で教育課程の理解、実習の位置づけなどをおさえることができるよう、導入が必要であった。

3）指導案作成の演習評価

実習指導案作成演習は、成人5、地域・在宅1、老年5、基礎2、小児1、母性1、精神1の16グループで編成し、1グループ4～6人で実施した。グループワークは既習学習を十分活かし授業デザイン、週案、日案と関連して進めており、グループの個性を出し学びを発表できた。コーディネーターは16名に依頼し、事前・途中打合せで指導について意見交換し、受講者主体に丁寧で効果的なご指導をいただいた。

5　今後の課題

受講者は、講習会後、実習指導に関する知識を今後の指導へ活用することや、学生の個別性を理解している教員との連携、実習環境の調整などの必要性を、実践を通して改めて感じている。今後はモチベーションを維持し効果的な指導を行うために、フォローアップ研修の検討が必要だと考えられる。

静岡県受託研修　　静岡県実習指導者等養成講習会：特定分野

1　研修期間　　令和6年10月17日(木)～11月28日(木)のうち7日間（42時間）
2　会　　場　　静岡県看護協会
3　受講者状況　　募集定員30名　応募者10名　受講者10名

年齢構成	30歳代　2名	40歳代　6名	50歳代　2名	平均44.1　歳
職　　位	スタッフ　6名	主任・副主任　3名	師長　1名	
施　　設	訪問看護ステーション　3名	特別養護老人ホーム・介護保健施設　6名		
	地域包括支援センター　1名			

4　教育目的・教育課程

特定の分野（以下「特定分野」という）の実習を行う病院以外の実習施設について、実習指導の任にある者（以下「実習指導者」という）又は将来これらの施設で実習指導者となる予定の者が、実習の意義及び実習指導者としての役割を理解するとともに、特定分野の実習における効果的な指導のために必要な知識・技術を習得する。

＜特定分野＞ 看護師養成所における老年看護学実習、地域・在宅看護論実習、准看護師養成所における老年看護実習

科　　目		目　　標		時間数
教育の基盤	教育原理	教育の意義や基礎的概念について学ぶ		3時間
	教育心理	人間の発達と学習課程における青年時の心理的な特徴について人間の成長・発達段階に合わせて理解する		
	教育方法	教育の基本的な方法や技術、評価方法について理解する		3時間
実習指導の基盤	実習指導の実際Ⅰ（講義）	看護教育課程	看護基礎教育の課程とその概要について理解する	3時間
		実習指導の原理	実習指導の基本と実習指導者のあり方等について理解する	3時間
		実習指導の実際（老年看護、地域・在宅看護）	老年看護学、地域・在宅看護論における実習指導方法を理解する	3時間
	実習指導の実際Ⅱ（演習）	実習指導の展開について理解を深め、かつ、臨地実習の中で体験する指導場面別の役割や方法について演習を通して学ぶ		24時間
	開講式・ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ・閉講式			3時間
			計	42時間

5　評価及び今後の課題

老年看護学および地域・在宅看護論領域における病院以外の実習施設を対象にした研修である。定員30名に対し10名が修了した。講習会全体に対する評価は、全員が肯定評価であり、教育の原点・教育方法・実習指導の原理を学び、指導者としての責任と自覚を認識する機会となっていた。演習では、老年看護学、地域・在宅看護論に分かれて実習指導案を作成し、講師の丁寧な演習指導により満足度は高かった。受講前のレポートでは、人員の限られる職場環境と、多職種との連携の難しさで悩んでいたが、研修後レポートでは実習環境を変えていくこと（学生を名前で呼ぶ、話しかけやすい雰囲気作り、スタッフ間の共有）を具体的行動目標としてあげている受講者もおり、研修での学びが感じられた。受講者にとって、週1回での日程は職場への負担も少なく参加しやすかったという意見が多かった。病院以外の実習施設での実習が拡大するとともに、これからの地域包括ケア、老年看護を支える看護師を育成することは重要であり、本研修の受講者を確保することは課題である。

静岡県受託事業　　静岡県看護教員継続研修

1 成長段階別研修＜経験５年目以上＞　№1 研修１日間、№2 研修２日間

1）研修内容

№1「DX 時代の看護基礎教育について」聖隷クリストファー大学看護学部　小池武嗣

ねらい：DX について理解し、DX を活用した授業の実際を知る。

開催日：令和６年８月５日（月）

№2「看護倫理を教える・学ぶ」静岡県立大学看護学部　山下早苗、鈴木千智

ねらい：(1) 臨床における倫理的問題を理解する。

(2) 看護倫理教育に関する悩みを共有することができる。

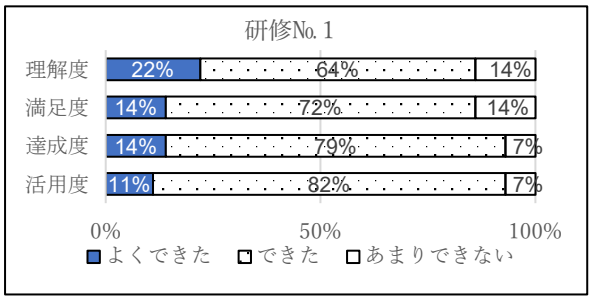
(3) 学生指導における倫理的問題を理解し、検討することができる。

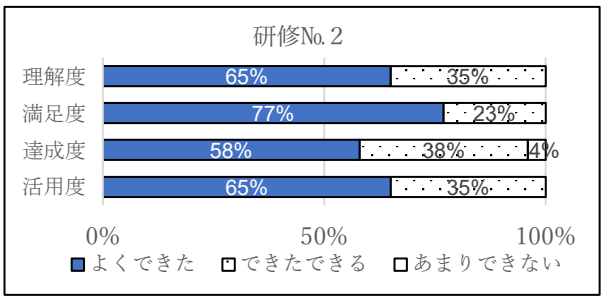
開催日：令和６年８月 19 日（月）・23 日（金）

2）受講状況

研修	定員	応募者	受講者	経験年数			役職		備考
				5-8	8-10	10-	有	無	
№1	40 人	29 人	28 人	32%	21%	47%	21%	79%	回収率 100% 11 校
№2	40 人	35 人	35 人	46%	19%	35%	23%	77%	回収率 74%　11 校

3）アンケート結果





4）研修の評価と今後の課題

研修№1：初心者にもわかりやすく DX の概要が理解できた。事前に質問を受けつけ、当日も多くの質問があり、受講者の関心が高い。予算や人材的に自施設への導入は困難と思った受講者もいたが、限界がある中でも低コストで工夫できることから着手したいという前向きな姿勢も見られた。協会での開催は、受講者が手に触れて体験するには学習環境に限界がある。今後は、講師の大学での開催やすぐに実践可能な HTML を利用した教材研究等の企画が検討できるとよい。

研修№2：看護倫理の基礎知識が明確になった。事例の解説を通して、倫理の知識を使い日頃の混沌としていたことが整理された。アンケートでは、「用語の定義を知っていれば頭や心に整理をつけながら次に進めることができるとわかった。」「自分の教師としてのありたい姿が明確になった。研修中に心が揺さぶられる体験が何度もあった。」「看護教師の魅力さえも見失いかけた日々であったが、看護教師っていいかも！と思った。」など看護教師としてのやりがいにつながる研修となっており期待以上であった。

2 成長段階別研修：新任期フォローアップ研修＜令和５年度専任教員養成講習会修了者＞ ２日間

1）研修内容

１日目「困難な状況やストレスにうまく向き合うレジリエンスについて学ぶ」武蔵野大学教授　秋山美紀

ねらい：(1) 新人看護教員が効果的に学び、キャリア形成できるように、困難な状況やストレスにうまく向き合う方法について学ぶ。

(2) 臨床勤務者は、教育的関わりへの新たな期待に応えるための向き合い方を学ぶ。

２日目「指導場面から自己の教育的関わりを再確認する～イメージマップを活用して教育実践へのてがかりをつかむ～」看護協会教育研修部　大關和子、運営委員 森上美知子、瀧　泉、赤堀夏海、近藤由美

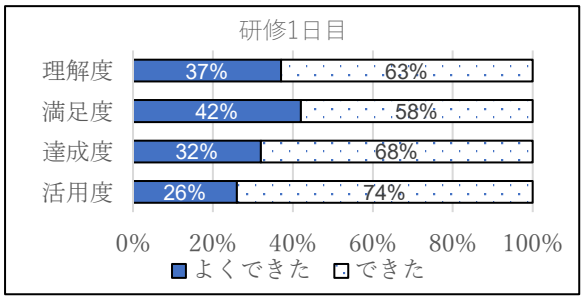
ねらい：(1) 新人看護教員が実践での喜び、戸惑い、迷いを振り返り教育的な関わりや看護職を育成するとはどういうことかを再確認して、教育実践の手がかりをつかめる。

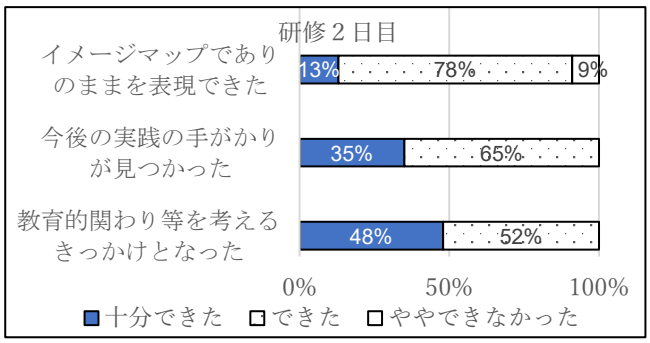
(2) 臨床勤務者は現在の役割遂行における手がかりをつかめる。

2）受講状況

研修	定員	応募者	受講者	備考
1 日目	30 人	26 人	25 人	回収率 76% 12 校　臨床 2
2 日目			24 人	回収率 96% 12 校　臨床 1

3）アンケート結果





4）研修の評価と今後の課題

1 日目：スピリチュアルな内容に抵抗感がある人もいたが、専門用語について明確な説明で理解できていた。アンケートでは、「看護教員も自分自身を大切にマインドフルネスやセルフコンパッションを意識することで学生にも良い影響を及ぼすことができる。」また、「教員になって今、学びたいテーマに出会えた。」と述べている。時期的に新しい仕事に困難感を抱えている人が多く、タイムリーな内容であった。

2 日目：アンケート結果から高評価であり、イメージマップ作成は、「次々に思いがあふれてきた。」が多かった。若干「思いを文字にするのに時間がかかった。」人もいたが、ありのままに表現することは概ねできていた。参加者各々が自身の実践への手がかりを見つけ、教育的関わりについても自分の言葉で表現できた研修であった。受講者は仲間との共感をとても求めていることがわかり、教員を継続するためにこの時期のフォローアップ研修の価値は大きい。

3　トピックス研修：看護教員と実習指導者の合同研修　1 日間

1）研修内容

「学生指導に活かすファシリテーション」愛媛大学医学部付属病院総合研修センター　内藤知佐子

ねらい：1）学生実習における課題を共有し、よりよい実習指導につなげる。

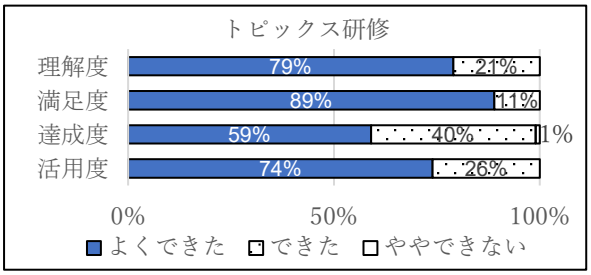
2）指導者と教員が学生や新人教育に役立つファシリテーションンについて学ぶ。

開催日：令和 6 年 7 月 28 日（日）

2）受講状況

定員	応募者	受講者	職種	経験年数					役職		備考
				無	−1	1−5	5−10	10−	有	無	
80 人	100 人	95 人	実習指導者	22%	3%	37%	23%	15%	28%	72%	回収率 97%
			看護教員	0%	24%	43%	7%	26%			

3）アンケート結果



4）研修の評価と今後の課題

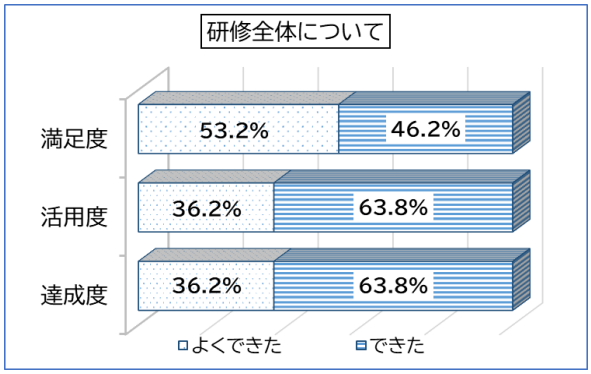
アンケート結果は高評価であった。講師の研修展開は受講者全員が取り残されることなく笑顔で楽しく具体的に学べていた。学習目標が①ファシリテーションを実践する際のコツを説明できる。②自身の教育活動を振り返り良い点と改善点を一つずつとらえることができる。と具体的であり、受講者は明日から一つ変わっていけると感じていた。昨年同様に教員と実習指導者がバディを組み共に学びあうことで、互いの理解と共通認識をもちながら学生指導の核となる看護観・教育観と共に具体的方略がつかめる機会となっていた。講師からは、「受講者の参加度が高くとても助けられた。ワークの時に盛り上がれる集団は変われる集団です。」と、今後の人材育成への期待をいただいた。

次年度から研修の名称を「看護教員と実習指導者の合同研修」と改定し、共に学びあうことで共に育つ研修風土を醸成し、看護基礎教育へ活かしていきたい。

静岡県受託研修

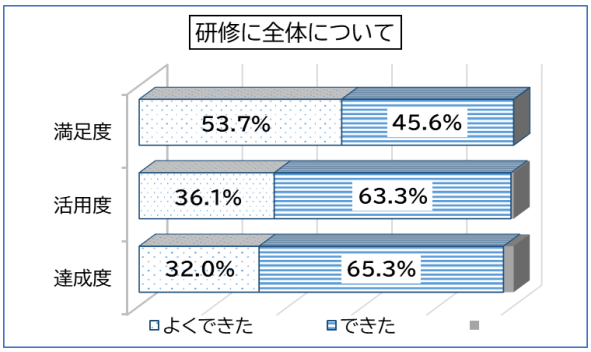
高齢者権利擁護等推進事業

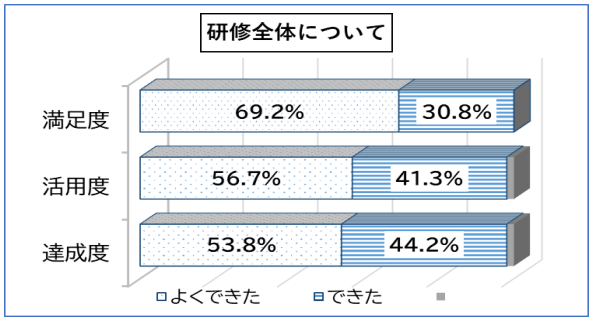
「看護実務者研修」

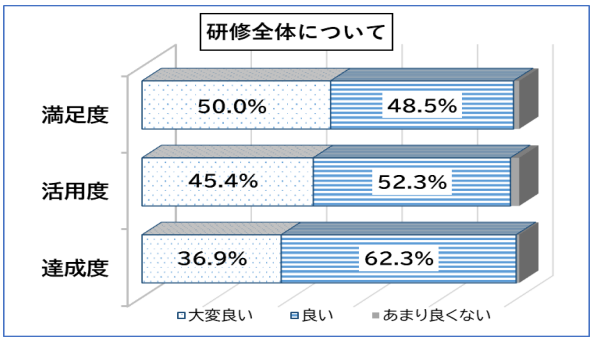
研修名	高齢者権利擁護等推進事業『看護実務者研修』	定員	応募者数	受講者数
		45 名	60 名	50 名
講師	老人看護専門看護師、急性・重症集中専門看護師、医師、医療安全管理者、認定看護師、主任ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ等	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	令和 6 年 11 月 29 日～30 日			
目標	介護現場で直接高齢者に関わる方にその尊厳を保持し個々の能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来る様に支援、援助を行う実践的な知識・技術を修得する			
内容	1．介護保険制度と看護職員の役割　（概論） 2．介護保険制度と看護職員の役割　（実践） 3．利用者の尊厳ある生活を支えるケアと看護 －介護の現場での安全管理対策－ 4．利用者の尊厳ある生活を支えるケアと看護 －感染管理体制－ 5．高齢者と認知症高齢者の心身の理解 6．認知症高齢者の看護 7．利用者の尊厳ある生活を支えるケアと看護 －急変時対応－ 8．利用者の尊厳ある生活を支えるケアと看護 －看取りの推進－	 アンケート記載事項 ・認知症の症状や対応の仕方が理解できた。 診療報酬、介護報酬の改訂内容についてなどがわかりやすかった ・手指衛生、PPE の着脱について施設でﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸしていく ・聴性打診が為になった。 内容が身近で親近感があった ・今後の看取りケアの振り返りの指針に活かしていきたい ・一歩手前の状態変化に気づける、観察の大切さを学んだ		
評価 まとめ	安全管理対策は GW を取り入れることで他施設との交流もでき満足度も高く、次年度も実施する。 看取りの推進は高齢者施設では喫緊の課題でもあるが、施設の規模や種類によって対応も異なってくるため、次年度は GW の時間を多く配分し、自施設の問題を明らかにし課題・改善点を持ち帰るように組み立てていく。			

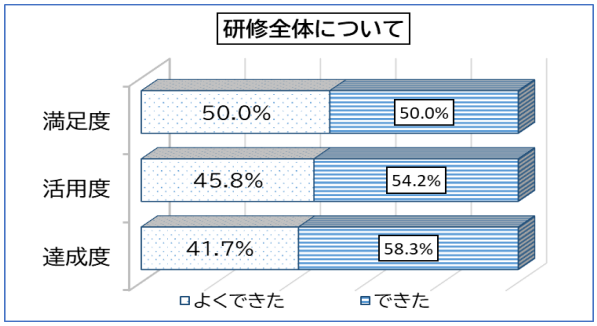
静岡県受託研修

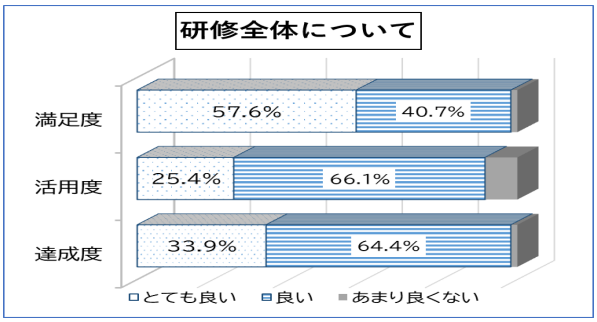
看護の質向上促進研修

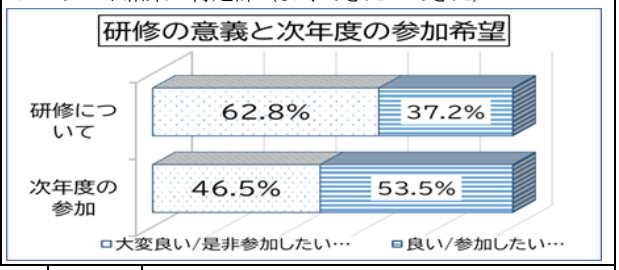
研修名	看護の質向上促進研修（1 日コース）	定員	応募者数	受講者数
		各会場 70 名	3 会場 合計　188 名	3 会場 合計　164 名
講師	医療安全管理者、診療看護師	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	西部：8 月 13 日、中部：10 月 17 日、東部：7 月 25 日			
目標	1. 医療現場・介護現場での安全を確保するために、各々の役割に応じ安全対策に積極的に取り組む 2. 臨床推論概論と事例を通してフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントを学ぶ バイタルサインから急変の予兆を読み取る			
内容	1．医療安全管理 ・ヒューマンエラーと起こしやすい場面、防止策 ・実際に起きやすい（起きた）医療事故と防止策 ・医療現場のリスクマネジメントの考え方・重要性 ・医療現場のリスクマネジメントの 4 つのステップ 2．フィジカルエグザミネーションをアセスメントにつなげよう ・問診の重要性と聴取の仕方 OPQRST 問診 ・フィジカルアセスメントのバイアス ・高齢者に多い症状と関係する疾患 ・I-SBARC などによる報告方法活用	 アンケート記載事項 ・任される業務が増える中で小さなミスからアクシデントへとならないように、普段から思い込みを無くすことや自ら気をつけていきたい ・症状別で、臨床の場面とつなげることができよかった ・判断ツールが役にたつ ・高齢者は、判断が難しいため知識がふえた		
評価 まとめ	療養型病院の講師はより受講者に沿った内容になり、満足度も高かった。より現場に近い内容で行えたため次年度も同様の講師で行う予定である。フィジカルエグザミネーションは臨床推論という名称を外したが、主な受講者が学生時代に学習していなかった内容であり、難しいという先入観もあり意見にも反映されていた。次年度はシラバスを再度組み立て、より分かりやすい内容で行っていく。			

研修名	看護の質向上促進研修(褥瘡予防対策とケアのコツ)	定員	応募者数	受講者数
		2 会場合計 110 名	2 会場合計 126 名	2 会場合計 113 名
講師	皮膚・排泄ケア特定認定看護師	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	東部：8 月 1 日、中部：9 月 28 日、出前：11～1 月（8 施設）			
目標	1. 褥瘡予防対策を多職種でアプローチする手法を学ぶ 2. 褥瘡の評価ツールと創の観察方法について学ぶ 3. 褥瘡の清浄化方法について学ぶ 4. 褥瘡発生を助長させる、皮膚障害について学ぶ			
内容	1．褥瘡予防対策の基本 2．褥瘡に関連する皮膚障害について 3．褥瘡の評価スケール（DESIGN-R®2020）と実際の創の見方 4．演習を通して実践を学び、現場で使えるスキルを磨く 5．現場で使用できる資源で、継続可能な褥瘡予防対策を計画立案する	アンケート記載事項 ・実務の中で行っていることと研修で学んだことが重なっていて理解しやすかった ・褥瘡の状態に対して軟膏の選択説明がわかりやすかった ・正しい体位交換の方法や、徐圧方法についても学びたい		
評価 まとめ	今年度は 1 日研修の講師を一部変更して実施した。認定看護師派遣型研修は 8 か所の応募があった。それぞれミニレクチャーを行い、修了後入所者や利用者のケアについての質問に答える形を取った。参加者は総じて熱心で、質問も多く、現場で活用するために軟膏やドレッシング材の代替えを考えるなど積極的に質問をしていた。特に出前研修では実際の症例を考え、対策を他職種の参加者で考えることで現状に即した解決策を見出すことができ有意義であった。			

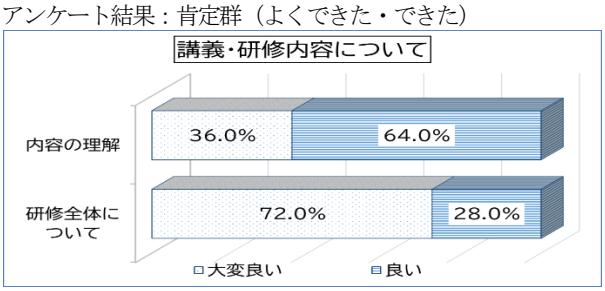
研修名	看護の質向上促進研修（感染予防対策）	定員	応募者数	受講者数
		各会場 70 名	3 会場合計 172 名	3 会場合計 142 名
講師	感染管理認定看護師	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	東部:令和 6 年 8 月 23 日　中部：令和 6 年 8 月 28 日			
目標	生活の場において最新の感染対策情報に基づく、基本的知識を習得し、自身のフィールドにあった対策を考える			
内容	1．標準予防策と感染経路別予防策、感染症対策 2．感染症対策、器材の管理、カテーテル由来の感染対策 3．保健所への感染症の届出と他医療機関との連携 4．演習：PPE 着脱　個人ワーク	アンケート記載事項 ・資料が分かりやすく、実技も確認できて良かった。隔離についても自分の中で不安に思っていた事が確認できた ・コロナ以降感染対策が病院内で混乱していたので、最新の内容の研修でやるべきことが整理でき、とてもよかった ・今年は病院の感染対策委員として活動しているので、感染対策の重要性について今まで以上に理解することができた		
評価 まとめ	感染予防対策は感染症の拡大の影響もあり、多くの応募がある。しかしながら施設によって感染予防対策に対応する人員や経済的な問題は多い。 毎回講義終了後個々の施設での問題解決のため講師に質問する受講生も多くいる。 次年度はこういった状況を踏まえて、1 日研修を企画し、講義を半日行った後、自部署の BCP の作成、マニュアルの見直しの時間を設け GW を行う研修を企画する予定である。			

研修名	看護の質向上促進研修（クリニック向け）	定員	応募者数	受講者数
		各会場　40 名	2 会場合計 27 名	2 会場合計 24 名
講師	診療看護師	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	On-line：令和 6 年 7 月 20 日　中部：令和 6 年 9 月 7 日			
目標	日頃何気なく計測しているバイタルサインから見えてくる患者・利用者の状態を把握し、フィジカルアセスメントに役立てる			
内容	1．バイタルサインとフィジカルアセスメント（言葉の定義と意義について） 2．バイタルサインの種類と基本的な測定方法 3．問診の重要性、医師への報告方法 4．注意すべきバイアス	アンケート記載事項 ・今までよりも広い目で観察判断できるかと感じた ・デルタ心拍 20 ルールや qSOFA スコアや肺炎の重症度がいつも測定しているバイタルからわかることがわかったので、症状を訴える患者さんに呼吸数の測定も今後してサインを見逃さないようにしていきたい ・事例があり引っ掛かりやすいバイアスもわかりやすかった ・すぐに実践しやすい内容だった		
評価 まとめ	本事業にクリニック向けの内容が不足していたことや、開催時間などにクリニックへの配慮を行って受講を促す目的で、今年度より当該研修項目を新設した。開催時間はクリニックの開院時間などを考慮し土曜日の午後とした。参加者数が定員を下回った要因として、開催時間、周知方法などが考えられる。次年度の課題として高齢者の看護やクリニック看護師に求められる資質などが挙げられたので、内容を考慮し、参加しやすい環境で行っていく。			

研修名	看護の質向上促進研修 （倫理的視点から考える意思決定支援）	定員	応募者数	受講者数
		60 名	68 名	62 名
講師	精神看護専門看護師	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	令和 6 年 11 月 1 日			
目標	患者中心の意思決定支援を進めていくために倫理的問題が必ず存在することを知り、その問題を解決することで意思決定支援の実践に結びつくことを学ぶ			
内容	1．臨床倫理概論、医療に活かす臨床倫理（JONSEN の４分割法）について 2．ACP 概論（SDM、JONSEN の４分割法の考え方） 3．グループワーク（模擬患者の ACP、臨床倫理を踏まえて）討議を行い考えをまとめる 4．様々な疾患における ACP の在り方について学ぶ 5．個人ワーク：心に残った ACP の場面	アンケート記載事項 ・講義内容がわかりやすく、日々の看護を振り返ることができた ・医療は患者主体であり、その思いや考えに重点を置く事の大切さを改めて学び、日頃の患者さんへの関わり方の見直しや、今後意識して行こうという気持ちになれた		
評価 まとめ	小さな単位での話し合いを多く取り入れたので、GW で発言が苦手な方も含め多くの意見が聞かれた。他者の倫理観を学ぶこともこの研修で大きな収穫だったと考える。難しくとらえがちな倫理であるが意思決定支援には欠かせない視点であることも学べた。			

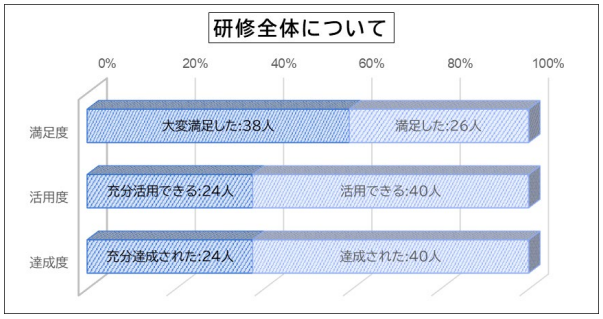
研修名	看護の質向上促進研修（フォローアップ研修） 認定看護師派遣型研修（出前研修）	募集施設	応募施設数	訪問施設数
		3 施設	8 施設	8 施設
講師	皮膚･排泄ケア認定看護師	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	令和 6 年 11 月～令和 7 年 1 月			
目標	各施設で活用する資源で、継続可能な褥瘡予防対策を計画立案する			
内容	施設に認定看護師が訪問し、ミニレクチャーを行い、実際の事例の対策を考える			

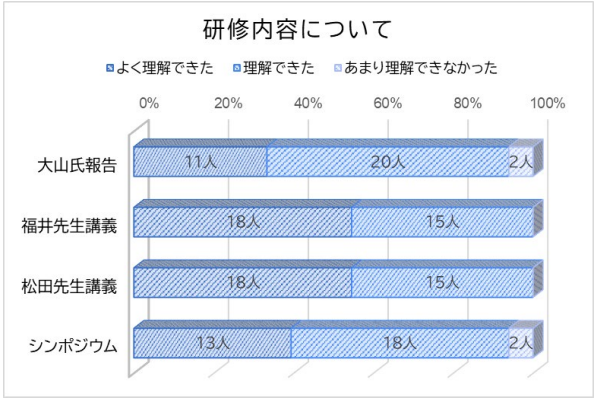
アンケート記載事項	評価まとめ
・現場に適した内容だった ・正しい体位交換の方法や、徐圧方法についても学びたい ・施設なので使える資材に制限がある。テープや被覆材など安価で代用できるものがあれば知りたい ・実際の褥瘡の画像をみながら、Design-R や治癒過程、処置を学びたい	講義や入所者や、利用者のケアについての質問に答える形を取った。参加施設は取り組みに積極的で、質問内容も具体的であった。また終了後にも質問があり、つながりができたと感じる。

研修名	看護の質向上促進研修（フォローアップ研修） 生体モデルで心音・肺音を確認してみよう	定員	応募者数	受講者数
		30 名	42 名	25 名
講師	診療看護師	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	令和 6 年 11 月 13 日			
目標	机上で学んだフィジカルアセスメントの手法を実際に使用して臨床で役立てる			
内容	生体モデルを使用して模擬疾患の心音・肺音などを聴診し考えられる疾患をグループで討議する			

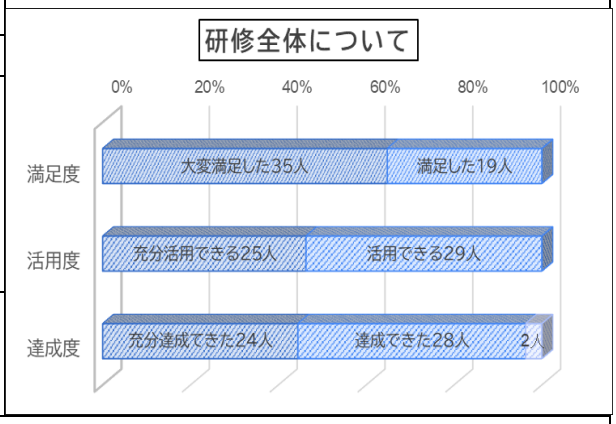
アンケート記載事項	評価まとめ
・肺音、心音の聴取が楽しかった ・実際に聴診をできたので音の違いを理解できた ・なぜこうなるのかを説明してくれて分かりやすかった ・実技が入っていたのが良かった	生体モデルを使用した研修は受講者の満足度も高い。講義だけではなく演習を取り入れた内容が受講者のモチベーション向上にもつながっていると考えられるので、次年度も引き続き行っていく。

静岡県受託研修　　暮らしをつなげる看護職員のための研修

研修名	看護職員管理者の相互研修 暮らしをつなげる看護職員のための研修（A 研修）	定員	応募者数	受講者数
		60 名	81 名	65 名
講師	東京科学大学（旧東京医科歯科大学）福井小紀子氏 静岡県立大学　山下早苗氏 聖隷浜松病院　宗像倫子氏 菊川市家庭医療センター　松田真和氏 シンポジスト５名　コーディネーター６名	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）  		
開催日	令和６年７月 20 日（土）・７月 22 日（月） 実習１日：10 月 21 日（月）or 10 月 28 日（月）			
目標	１地域包括ケアシステムの学習と看護職の役割を理解する ２「その人の暮らし」を意識したアセスメントと連携の在り方を明確にする ３自施設の役割を理解し、自身の立場で地域連携に向けた具体的な取り組みを考えることができる	アンケート記載事項 ・県の施策や長期的な計画について学ぶことが出来た ・国の施策動向とこれからの看護について学ぶことが出来た。意識を変えて時代の流れに柔軟に対応できないといけないと改めて感じた ・色々な立場の方の考えを聞かせて頂き、参考になりました。支援を受ける方のことを第一に歩み寄り協力出来るようなりたいと思いました ・倫理の根底には本人の選択があると知ることができた ・医療 DX や近年の訪問看護が抱える問題がわかった		
内容	１地域包括ケアシステムの理解 ２異なる領域の看護職の役割の理解(相互研修) ３「その人の暮らし」に寄り添うためのマネジメント １日目：講義・シンポジウム ２日目：講義（倫理他） ３日目：実習１日（８月～９月） ４日目：演習（２地域に分けて実施）			
評価 まとめ	令和６年度のシンポジウムは、シンポジストの活動地域をを意識して企画した。看護職以外の職種（社会福祉士と薬剤師）の方からの発表もあり、多職連携の実際を知ることができた。実習は受講生の職場から近く、連携がとりやすい場所を選択した。４日目の演習はコーディネーターの示唆で、受講生の思考の整理ができたため、満足度が高かったと考える。			

研修名	看護職員管理者の相互研修 看護管理者のための「看護施策」研修（B 研修）	定員	応募者数	受講者数
		60 名	43 名	39 名
講師	東京科学大学（旧東京医科歯科大学）福井小紀子氏 菊川市家庭医療センター　松田真和氏 訪問看護ステーションよこすか　太田優子氏 藤枝市立総合病院　大沼都氏 一般社団法人藤枝薬剤師会　原川研美氏 藤枝市地域包括支援センター　村越真輔氏	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）  		
開催日	令和６年７月 20 日（土）（オンライン研修）			
目標	１看護の代表として、病院と地域を繋ぐ地域包括ケア体制構築の為に、看護職が担う役割について課題と看護施策を学ぶ ２地域における自施設の役割を理解し、看護管理者として地域連携に向けた具体的な取り組みを考える	アンケート記載事項 ・在宅側から講義を拝聴していました。これからの課題もみえました。地域のステーションの役割として質の高い看護実践を在宅特定看護師として考え、管理者として多職種連携をDX を活用しながら考える重要性を学びました。		
内容	１地域包括ケアシステムの理解 ２地域包括ケア時代に地域連携と看護職の役割 ３住み慣れた地域で暮らすための取り組み			
評価 まとめ	令和６年度は、診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の改正、静岡県の社会福祉計画も新しくなり、多くの受講生の参加を期待したが、実際は 39 名と少なかった。			

研修名	看護職員管理者の相互研修 修了者と上長のためのバージョンアップ研修(C 研修)	定員	応募者数	受講者数
		60 名	62 名	54 名
講師 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	在宅ケア移行支援研究所　宇都宮宏子氏 ファシリテーター　6 名	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	令和 6 年 7 月 20 日（土）・9 月 14 日（土）			
目標	1 病院や地域で、連携に取り組む看護職が抱える悩みや課題を共有し、講義・GW を通じて解決の糸口を見出す 2 自施設の取り組みを見直す機会とし、次なる行動指針を明らかにし、地域貢献に役立てる 3 最新の情報を講義から学び、県内で活躍する医療従事者の活動を知る			
内容	1 入院から在宅療養への円滑な移行の取り組み 2 地域包括ケアシステムの理解 3 地域包括ケア時代の地域連携と看護職の役割 4 住み慣れた地域で暮らすための取り組み			
アンケート記載事項	・GW での発表後のフィードバックがわかりやすかったです ・一歩先の道案内が看護という事に感銘を受けました ・退院後カンファレンスを実施したのが間違いではなかったことがわかり感動しました。今後も継続します ・利用者・家族の思いを病院に伝達していくことで継続的支援のスタートになることが分かった ・所属病院の地域での役割を認識し、生活を中心においた医療のありかた、地域との連携を考えることができた			
評価 まとめ	令和 6 年度は地域包括ケアシステムの効果的な体制づくりを推進するため、A 研修修了者と上長のペア参加を取り入れた。半数以上の 17 組 38 人がペアでの参加。アンケート結果より効果的であったと回答が得られた。単独参加者も圏域・職域を考慮した GW としたため、効果的だったと考える。			

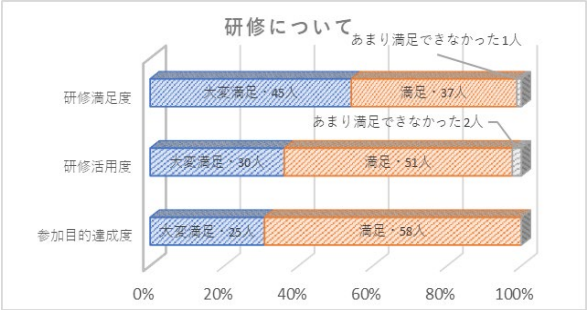


静岡県受託研修

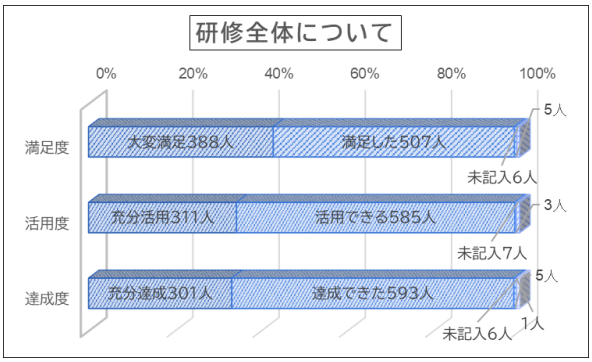
静岡県看護職員認知症対応力向上研修

―認知症ケア体制構築推進者研修―

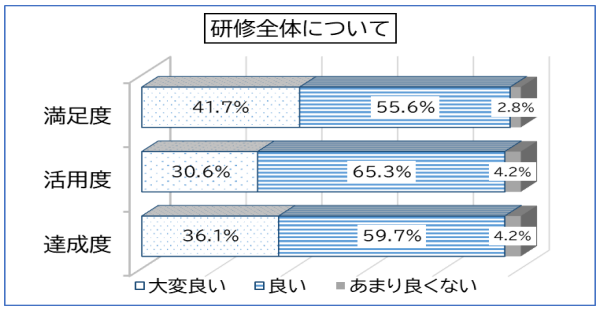
研修名	看護職員認知症対応力向上研修	定員	応募者数	受講者数
		85 名	135 名	83 名
講師	小川 朝生　　国立がん研究センター東病院 医師 鈴木みずえ 浜松医科大学医学部看護学科　教授 村山　由子　横浜ほうゆう病院老人看護専門看護師	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）		
開催日	令和 6 年 7 月 25 日（木）　7 月 30 日（火） 7 月 31 日（水）			
目標	認知症の人と接する機会が多い看護職員に対し、医療機関等に入院から退院までのプロセスに沿った必要な基本知識や、個々の認知症の特徴等に対する実践的な対応力を習得し、同じ医療機関等の看護職員に対し伝達をすることで、医療機関内等での認知症ケアの適切な実施とマネジメント体制の構築を図る。	・研修修了 3 か月後、職場でのアクションプラン進捗状況では、「プラン準備中：30 名 36.1%」、「実施：31 名 37.4%」、「実施後評価：16 名 19.3%」実施と評価で 47 名、プランを立てない層が 6 名 7.2%であった。 ・職場でプランを立てない層の理由を見ると、業務多忙、外来勤務で実施できる環境にない、産科等該当患者いない等であった。		
内容	Ⅰ　認知症に関する知識　編 講義（180 分） Ⅱ　認知症看護の実践対応力　編 講義（330 分）　演習（120 分） Ⅲ　体制構築・人材育成　編 講義（90 分） 演習（300 分）　アクションプラン立案			
アンケート記載事項	・真の困りごとは、個々の認知症を持つ患者のニードを捉え個別のケアができていない、身体拘束に係る対応が困難、スタッフ間の知識不足、アセスメント不足等。 ・今後病棟スタッフとの協力の必要性が大切である。			
評価 まとめ	アンケート結果を踏まえると、更なるアクションプラン実施率を高める支援では、病棟内スタッフや上司への報告と共有が必須で、今回ペア参加や受講者と上司の意図を育む推薦シートはアクションプラン実施を進める一助となる。そのことにより、プラン実施へのモチベーションが上がるという仕組みが再確認された。			



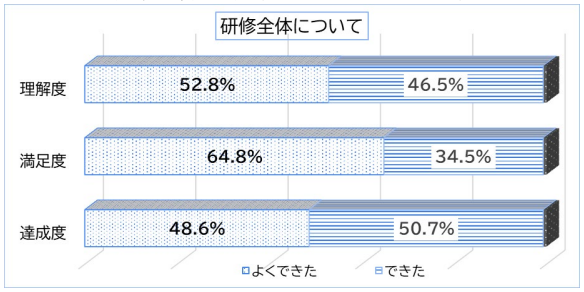
静岡県受託研修　　病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修

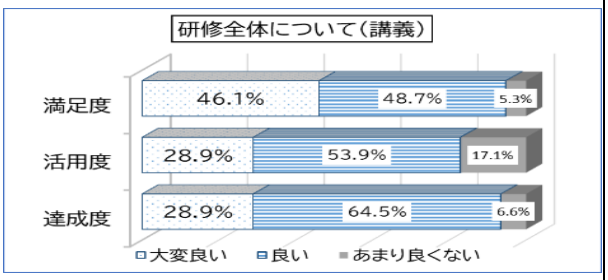
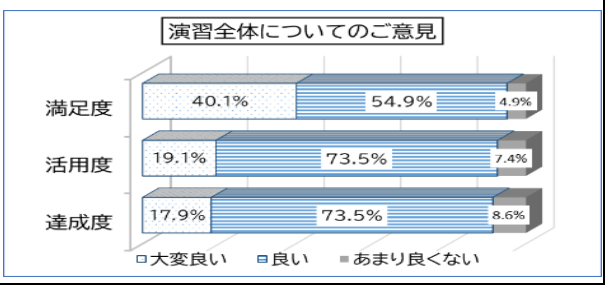
研修名	病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修	定員	応募者数	受講者数
		各研修日 100 名	996 名	906 名
講師	聖隷三方原病院　磯貝聡氏 浜松医科大学　鈴木みずえ氏 聖隷三方原病院　佐藤晶子氏 聖隷三方原病院　認知症サポートチーム WAC 清水さわやかディサービス　松本利枝氏他 若年性認知症支援コーディネーター　杉浦綾乃氏	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）  		
開催日	令和６年 7/12　8/6･21･29　9/7･11･26　10/4･19･30 （オンライン研修）			
目標	病院勤務の医療従事者に対し、認知症の人や家族を支えるために必要な基本知識や、医療と介護の連携に重要性、認知症ケアの原則、ACP 等の知識について修得する。病院での認知症の人の手術や処置などの適切な実施の確保を図る			
内容	１認知症の人の視点でのケアを求められていることを理解する ２認知症を理解し、入院中の対応の基本を習得する ３院内・院外の多職種連携の意義を理解する	アンケート記載事項 ・パーソンセンタードケアを念頭に置いて関わりを持つようにする ・多職種の方々の意見を参考に、認知症の人の思いを１番に考えたケアを実践していきたい ・認知症患者の生活リズムを整え夜間の不穏を減らす取り組みをする ・患者のニーズを見つけケア実践をする		
評価 まとめ	講義は理解しやすく、模擬カンファレンスはリアリティがあり、受講生の満足度などが高かった。質疑応答では、コーディネーターや多職種の方から意見は参考になり、実践で活用できる内容であったと考える。			

静岡県受託研修　　医療従事者向け障害福祉事業研修

研修名	医療従事者向け障害福祉事業研修	定員	応募者数	受講者数
		80 名	84 名	74 名
講師	医師、ＭＳＷ 主任相談支援専門員、圏域スーパーバイザー	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）  		
開催日	令和６年 10 月 14 日			
目標	医療的ケア児等への支援に携わる医療職（医師、看護師、リハビリ職等）が障害分野との円滑な連携を取り障害福祉サービスの利用に必要な手続き等を習得する			
内容	１．障害者総合支援法の概要と障害者を対象としたサービスの概要、相談支援体系、新設のサービス等 ２．障害児者が在宅復帰するときの障害福祉サービスについて、環境調整 ３．在宅で暮らす障害児者への支援 ライフステージに合わせた意思決定支援、サービスの利用、地域の円滑な連携 ４．グループワーク（～災害支援～について）	アンケート記載事項 ・情報量が多く難しかったが概要を学べたので良かった ・薬局では中々見えないので部分で、とても勉強になった ・地域と繋がることについて、学び考える事ができた ・災害について他施設の考えを知る事が出来て良かった ・研修内容から災害の GW をする流れが難しかった		
評価 まとめ	応募人数が多く GW も活気があった。講義内容と GW の議題に関連性がなかったため、次年度はリンクできるような内容で考えていく必要があると感じた。講義内容もボリュームを少し減らす工夫も必要である。日程は医師の参加を見込んで祝日を設定したが、医師の参加はほとんどなく、次年度は開催日程についても考えていく。			

静岡県受託研修　　重症心身障害児（者）対応看護従事者養成研修

研修名	重症心身障害児（者）対応看護従事者養成研修	定員	応募者数	受講者数
		80 名	79 名	72 名
講師	社福）小羊学園つばさ静岡 施設長 医師 山倉慎二 聖隷おおぞら療育センター小児看護専門看護師　真木希 実習施設研修指導者 11 名	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）  		
開催日	令和６年８月３日（土）講義・演習 令和６年８月～10 月中の１日　実習			
目標	重症心身障害（児）者の基本的知識及び医学的病態・医学的支援の必要性を理解し、重症心身障害（児）者の特性を踏まえた看護を理解する。看護に従事しているもの同士の仲間づくりができる			
内容	1. 講義・演習 1）重症心身障害児（者）の医療について 2）重症心身障害児（者）の看護の基本 ①事例をとおして看護の実際を学ぶ ②看護師が知っておきたい重症心身障害児（者）を取り巻く社会情勢と家族支援について 3）グループワーク（ケアに活用できること、家族支援） 2. 実習（見学・体験）病院、重症心身障害児施設等	アンケート記載事項 ・講義内容が分かりやすく重症心身障害の基本が学べた ・重症心身障害児（者）の気持ち、家族の気持ちを知り関わっていく必要性が学べた ・家族への関り方について具体例をあげた講義内容だったので理解しやすかった ・研修で学んだことを退院指導に生かすことができそう ・色々な職場で働いている看護師の話が聞けて良かった		
評価 まとめ	重症心身障害児（者）の看護に必要な医学的知識や特性を踏まえた看護の実際、さらに重症心身障害児（者）を取り巻く社会情勢と家族支援について、講義・グループワーク・実習の一連のプロセスで研修を進める事ができた。実習は重症心身障害児（者）の看護を学ぶ貴重な機会となった。アンケートからも満足度・達成度・理解度は高評価であり研修目的は達成されたと考える。			

研修名	医療的ケア児等コーディネーター養成研修	定員	応募者数	受講者数
		80 名	92 名	85 名
講師	福祉大学教員、相談支援専門員、圏域ｽｰﾊﾟｰﾊﾞｲｻﾞｰ等	アンケート結果：肯定群（よくできた・できた）  		
開催日	令和６年 11 月 27 日、12 月９日 令和７年１月 14 日、１月 29 日			
目標	医療的ケアを必要としている障害児（者）等が地域で安心して生活ができるように、行政、福祉、保育、教育、医療などの連携を図り、個々の医療的ケア児等の支援をするとともに様々な問題を解決するための総合調整をするコーディネーターを養成する			
内容	１総論　１時間 ２医療 、保健　３時間 ３本人・家族の思いの理解　２時間 ４福祉 、保育、教育、労働　３時間 ５ライフステージにおける支援　２時間 ６地域 支援体制整備　３時間 ７演習（計画作成）　７時間×２日	 		
アンケート記載事項	・福祉の視点で医ケア児とその家族を理解することについて理解が深まった ・虐待から子どもを守るために、家族支援が重要であることを学んだ ・事例が口頭で、参考資料もスライドの文字が小さく、医ケア支援の経験が無いので聞き取るだけで必死だった ・他職種の方との研修は立場の異なる方が、その職種ごとの思いや考え方を聞く事ができとても勉強になりました			
評価 まとめ	今年度取り入れたシート類は受講者の反応も良く使用しやすいので次年度も使用していきたい。事例の紹介やシートの活用に関してはFTの意見を参考に組み立てていく必要があると考える。 次年度は計画的に事例を検討し、当日FTの負担軽減に努める。			

静岡県受託研修　　訪問看護出向研修等支援事業

【訪問看護出向研修支援事業】

1. 事業目的

病院の看護師が訪問看護ステーションに出向し、訪問看護に従事する事で、医療介護の連携強化及び早期退院支援・在宅療養支援の実践能力の向上を図るとともに、病院の入退院調整機能の強化につなげる

2. 実施件数・参加者数：訪問看護出向研修支援事業（以後出向研修とする）：７病院・出向者８名

3. 新たな取組み内容

1）出向研修における有効性の評価

DiNQL と診療報酬項目を用いた評価

出向研修が参加病院の入退院調整機能及び地域との連携強化にどの程度効果があるかデータを用い有効性を評価。評価項目は、日本看護協会が行っている「労働と看護の質向上のためのデータベース（DiNQL)」と診療報酬項目からデータを活用し実施

対象施設：令和 6 年度出向研修参加病院のうち、DiNQL のデータ提出に承諾が得られた 5 病院、診療報酬項目データ提出に承諾が得られた 7 病院

2）訪問看護師の病棟カンファレンス参加への取組み

出向先訪問看護ステーションの訪問看護師が病院の病棟カンファレンスへ定期的（1 回/週程度）に出向き、地域の情報を提供し退院の方向性を検討する『一歩前カンファレンス』の取組みを開始した。この取組みは出向先の訪問看護ステーションだけにとどまらず、地域の訪問看護ステーションへと拡大している。さらに病棟看護師の退院に向けての意識の変化もみられた

3）事業終了後の参加病院の課題への取組み評価

令和 5 年度出向研修終了病院について、事業終了後確認シート（3 か月後、6 か月後、12 か月後）を用い課題の取組み評価を実施

各病院目標達成に取組み、1 年後に 19 項目（68%）が B 評価以上となった。これは、出向終了後に看護管理者の効果的な支援のもと出向者が役割行動を発揮した事により病院の入退院調整システムの強化が図られた※結果は表 1 を参照

表 1

12 か月後の課題到達度	項目数
A：90%以上達成	9
B：80～89%達成	10
C：70～79%達成	5
D：60～69%達成	1
E：60%未満	3
合計	28

【訪問看護ステーションから病院への交流研修】

1. 事業目的：訪問看護師が病院における最新の治療や医療・専門的な処置の方法を学び自己のスキルアップを図ると共に、医療機関での入退院調整システムの現状を理解し病院との連携を深める

2. 実施件数・参加者数：13 訪問看護ステーション　訪問看護師 15 名
2 日間～5 日間の病院研修を実施

3. 研修成果：病院の入退院支援や各部署の役割や業務内容について理解でき、外来や病棟での退院支援の仕組みが学べた。在宅での情報をいかに病院側に伝えていくが必要であり、切れ目のない連携の大切さを実感している。短期間の研修ではあるが効果的な研修ができていた

【訪問看護出向研修等支援事業実践報告開催】

1.開催日：令和 7 年 2 月 15 日（土）13：00～16：00

2.開催内容：実践報告（7 病院）とグループディスカッションを実施　参加者数：47 名

【全体評価】事業に参加された関係者の目標達成に向けた根気強い活動により病院の入退院調整システムが向上し、病院と地域との看看連携が進み、切れ目のない入退院支援が構築されてきている。

今後は、本事業の評価を見える化（データー化）し、発信すると共に更なる事業発展に繋げていく

静岡県受託事業　　特定行為研修普及事業

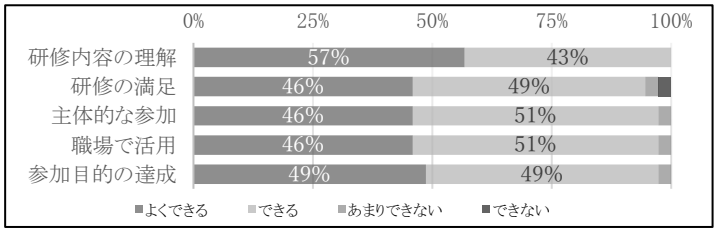
<table>
<tr><td>研修名</td><td colspan="4">特定行為研修修了者研修会</td></tr>
<tr><td rowspan="8">事業概要</td><td>研修等</td><td>開催日</td><td>開催場所</td><td>出席者</td></tr>
<tr><td>東部地区</td><td>令和 6 年 11 月 23 日（土･祝）</td><td>日本大学国際関係学部三島校舎</td><td>31 名</td></tr>
<tr><td>中部地区</td><td>令和 6 年 12 月 22 日（日）</td><td>静岡県看護協会</td><td>17 名</td></tr>
<tr><td>西部地区</td><td>令和 6 年 10 月 12 日（土）</td><td>アクトシティ浜松</td><td>11 名</td></tr>
<tr><td>訪問看護 ST</td><td>令和 6 年 12 月 11 日（水）</td><td>静岡県看護協会</td><td>23 名</td></tr>
<tr><td>交流会</td><td>令和 7 年　1 月 15 日（水）</td><td>静岡県看護協会</td><td>49 名</td></tr>
<tr><td>事例集</td><td>令和 7 年 1 月 10 日～2 月 14 日</td><td>訪問先 7 施設</td><td>インタビュー25 名</td></tr>
<tr><td colspan="4">静岡県看護協会事業　ポータルサイト運営（静岡県内の特定行為研修修了者の名簿管理）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">目標</td><td>各地区</td><td colspan="3">特定行為研修修了者が組織ビジョンを踏まえた上で自らの活動を考える
～研修修了者がより効果的な活動ができるためのアクションプランの作成～</td></tr>
<tr><td>訪問看護 ST</td><td colspan="3">特定行為研修修了者を増やし育成しよう</td></tr>
<tr><td>交流会</td><td colspan="3">ひとりで考えず、みんなで考えよう～特定行為研修修了者の増加と育成に向けて～</td></tr>
<tr><td rowspan="4">内容</td><td>各地区</td><td colspan="3">1. 情報提供：特定行為研修に係る県の取り組み
2. 実践報告：特定行為研修修了者が昨年度作成したアクションプラン実践の報告
看護管理者より特定行為研修修了者を組織で活用するための体制づくり
3. グループワーク：①交流　参加者による意見交換会
②アクションプランの作成</td></tr>
<tr><td>訪問看護 ST</td><td colspan="3">1. 講義：地域差に対応した医療提供体制特定行為研修修了看護師との連携上のメリット
～在宅・地域のニーズ、医療資源・医療依存度に対応するために～
2. 報告：特定行為研修に係る県の取り組み
特定行為研修修了者の育成のために
3. グループワーク：意見交換　①特定行為研修修了者を増やすための施設の課題
②特定行為研修修了者が在宅で活動するための課題</td></tr>
<tr><td>交流会</td><td colspan="3">1. 講義：病院と在宅の特定行為研修修了者の連携について
2. 実践報告：病院と在宅で特定行為研修修了者が連携するための活動
3. ワールドカフェ：①活動の実際②特定看護師と地域連携のつながり③組織の中で特定看護師がどう活躍するか（タスクシフト・タスクシェア）④特定看護師が増えるために何が必要か
4. 意見交換：地域に向けた夢を語ろう</td></tr>
<tr><td>事例集</td><td colspan="3">特定行為研修修了者の活動先に訪問し本人、看護管理者などにインタビュー形式で聴取
県内の施設・訪問看護ステーション等に配布</td></tr>
<tr><td colspan="5">アンケート結果＜各地区：回収率 88%＞＜訪問看護 ST：回収率 47.8%＞参加動機の上位は、今後の活動の参考にしたい、他施設の取り組みを知りたい、実践報告に興味があった。研修テーマに興味があったの回答は各地区 19 件、訪問看護 ST は 1 件であった。参加目的の達成度はいずれも 63%であった。アクションプランの作成は 96%が満足・どちらかといえば満足と回答。研修内容の満足度は高い。どちらかといえば満足の回答記載例からはビジョンが見えたと思う・すべてを作成できなかった（2 件）・言語化するのが難しく時間が少なかった。一人ではなく、仲間を増やすことも大切（訪看 ST）＜交流会：回収率 94.7%＞管理者として行うべきことが理解できた。交流会の意見交換は参加者の 90%以上が活動のヒントとなったと回答。</td></tr>
<tr><td>評価まとめ</td><td colspan="4">研修会内容の活動報告の発表として、アクションプランの作成は特定行為研修修了者の活動支援を継続する。施設によって特定行為研修修了者の育成の進み方が異なることから進捗状況に対応した発表内容や、アクションプラン作成などを検討する。特定行為研修修了者が専門性の高い特定行為のケアを提供できることは、患者・家族の希望に沿う医療が受けられ暮らしを守る役割を担うことができる。地域で活躍する特定行為研修修了者を増やすためには、訪問看護 ST 対象の研修には看護管理者の参加率を上げ、看護管理者が特定行為研修修了者の必要性を理解し育成のための課題を共有しそれぞれが増やしていきたいと思う研修内容を検討する。</td></tr>
</table>

学術研究推進員会

1　研修

研修名	効果的なプレゼンテーション技法	定員	応募者数	受講者数
		60	45	38
講師	静岡県立大学看護学部教授 山田紋子			
開催日	令和6年7月20日（土） 9：30～16：30			
目標	プレゼンテーションの基礎知識と技術を学び、研究成果を効果的に示すグラフや図表等を作成する方法を学ぶ			
内容	(1) プレゼンテーションとは (2) 口演発表のポイント (3) 見てわかってもらうためのコツ-効果的なスライドの作成方法ー (4) 聞いてわかってもらうためのコツ-効果的な話し方ー (5) 演習ースライド作成- (PPTを利用し学会の口演資料を作成、グループ共有 (6) 発表(3名)、全体共有			
評価 まとめ	学会の口演のPPTを作り方がメインの内容であった。データをもっている参加者やPPTが初めての参加者にはよかった。学会で発表することを目指した研修であるため、図の見せ方やPPTの使い方を学べるようにすることが必要である。今回の参加者のレベルは様々であった。グラフなどの作り方についてのニーズもあった。アンケート結果より満足度、活用度、目標の達成度の評価も高かった。今後は、示説発表のための講義を含めて内容を検討する。			

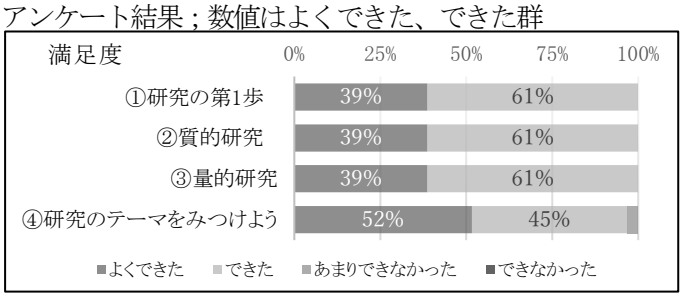
アンケート結果；数値はよくできる、できる群



＜アンケート記載事項（一部抜粋）＞
効果的に PowerPoint(以下PPT)を作れるように学べた
PPTの作成を実際に行うことが出来て良かった
伝えるためにどのような内容にしたらよいのか理解できた
相手に伝える発表の仕方を学べた
看護研究発表会でのPPT作成に役立つ内容が多くあった
高度な技術を用いなくても、見やすく理解しやすいプレゼンテーションが出来ることがわかった
改めてプレゼンには資料設計が重要であると学べた

研修名	はじめての看護研究 ～研究テーマを見つけよう！～	定員	応募者数	受講者数
		50	31	30
講師	浜松医科大学医学部教授　永谷幸子 静岡県立大学看護学部准教授　中川有加			
開催日	8月4日(日)、17日(土)、10月19日(土) 3日間　9:30～16:30			
目標	研究に取り組むための基本的な知識と研究テーマを見つけるために必要な基本的スキルを学ぶ			
内容	1日目；看護研究の第一歩 永谷幸子先生 看護研究の第一歩　看護研究、文献検討等を理解しテーマの絞り込みにつなげる 2日目；研究方法の概要 量的研究(永谷) 質的研究（中川） 3日目；看護研究のテーマをみつけよう グループワーク・テーマ発表 助言（永谷・中川）			
評価 まとめ	受講者は研究の初心者が多数であったが指導者も参加していた。研究計画書を作成して臨む受講者もみえた。アンケート結果から理解度、満足度ともに良好であり、研修目的は達成できていた。講義は研究の基礎、研究方法を具体的な例を踏まえての実践的な内容であり、アンケート結果からは理解度が高かった。講師からの個別のフィードバックが丁寧だった。今年度、変更後の研修のためしばらく継続する。アンケートより研究の相談先のニーズが高かった。委員会の事業である「看護研究個別支援事業」もPRすることでニーズに応える体制を強化する。			

アンケート結果；数値はよくできた、できた群



＜アンケート記載事項（一部抜粋）＞
後輩指導する際に知識を持って指導にあたることができる
基礎から教えてくださったため分かることが出来た
講義も資料もわかりやすかった
看護研究がすすめられそうだと思った
グループワークや先生の助言で、内容が絞れて良かった
研究を気軽に相談する場所がほしい

２　第13回静岡県看護学会

1)開催報告

(1)開催日程　　令和7年1月11日(土)　9:50～16：30

(2)開催場所　　静岡県コンベンションアーツセンター　グランシップ10階

(3)学会テーマ　いのちと健康　　暮らしを支える看護

(4)一般演題　42題

口演発表；研究報告8題、実践報告 9題、　4群にわけて発表。発表6分、質疑応答3分

示説発表；研究報告6題、実践報告19題、　2会場で掲示。口述発表なし。質疑応答30分間

(5)基調講演　石井美恵子（国際医療福祉大学大学院　保健医療学専攻　災害医療分野　教授）

「平時にできないことは災害時にもできない～被災者のいのちと健康、暮らしを支え人権や尊厳をまもる～」

座長　加藤智子　（社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院 家族支援専門看護師）

(6)教育講演　福井小紀子（東京科学大学大学院保健衛生学研究科 研究科長）

「いのちと暮らしを支える看護展開への期待～人口減少社会において DX を活用して看看連携・多職種連携を強化する視点～」

座長　加藤京里　　（静岡県立大学看護学部　准教授）

(7)協会活動報告　総務部、事業部、教育研修部

(8)参加費　　会員　事前申込3850円、当日参加6050円、今年度から学生は無料

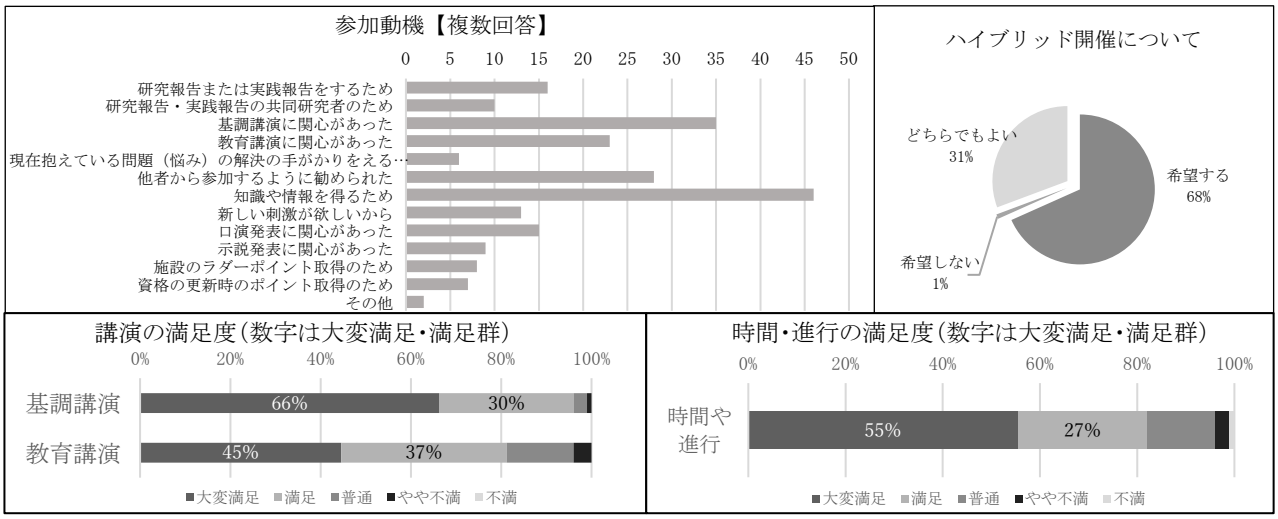
(9)参加者総数　　359名（ハイブリッド開催）

【参加内訳】　一般参加；会場参加280名、ウェビナー38名、＊学生49名含む、関係者は除く

2)アンケート結果

アンケート　参加者（学会関係者除く）回答101名　回答率28.0%

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
	1名(1.1%)	36名(35.6%)	7名(6.9%)	16名(15.8%)	30名(29.7%)	11名(10.9%)	
職種	看護師	助産師	保健師	看護教員	准看護師	学生、大学院生	
	80名(79.2%)	3名(3.0%)	2名(1.9%)	1名(1.1%)	0名(0%)	15名(14.8%)	
役職	看護部長相当職	副看護部長相当職	看護師長相当職	副看護師長相当職	なし	その他	
	8名(7.9%)	7名(6.9%)	19名(18.8%)	9名(8.9%)	55名(54.5%)	3名(3.0%)	
経験年数	なし（学生含む）	1年未満	1～5年	6～10年	11～15年	16～20年	20年以上
	15名(14.9%)	5名(5.0%)	17名(16.8%)	7名(6.9%)	3名(3.0%)	4名(4.0%)	50名(49.4%)



自由記載(一部抜粋)：基調講演、教育講演共に、看護の本質をあらためて考える良い機会となった。このような機会を今後も身近で開催していただきたい。看護師の研究発表をきいて学ぶことが多かった。示説の質疑応答時間をもう少し長くとっていただきたかった。若手の新鮮な発表がよかった。示説会場が狭かった。研究から得た幅広い知識を吸収することで今後の看護に生かされる考え方や思考が多くあると感じ、参加してよかったと感じた。今回の基調講演のようにタイムリーな話題や関心ごとを取り上げてくれると入ってきやすいと思う。

貴重なお話が聞けてとても興味深かった。実践報告は、自施設での取り組みのヒントになった。

3) 学会まとめ

昨年より研究報告と実践報告に変更したことで演題数が増加した。参加者の８割以上は満足度が高く肯定的に評価する声が多かった。看護研究に関する意識の高まりに寄与できていると考える。基調講演は災害時の対応と、テーマが参加者のニーズに即していたと考える。現地開催で参加者、発表者が交流できるメリットは大きいと感じた。一方で、様々なニーズに応じたハイブリッド開催を継続することも必要だと考える。学生の参加もよかった。学生が看護実践の場を知る機会として、また、将来の看護協会の発展のために有意義であったと考える。

新入会員研修

1　研修のねらい

1）看護専門職能団体の組織・活動を理解し、加入（会員であること）の意義がわかる。
2）仲間とともに、看護職能人としてキャリア発達をめざす自分作りの機会とする。
3）同世代の新人看護職と交流を深め、ネットワークをつくる。

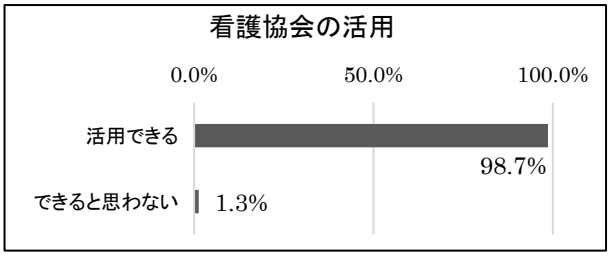
2　プログラム等

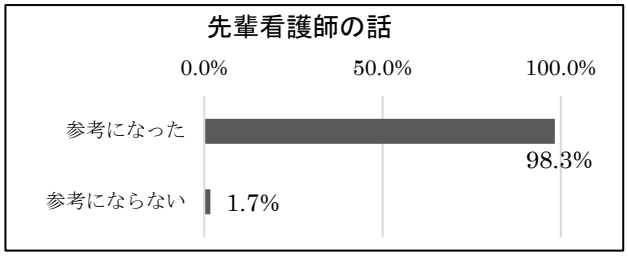
プログラム		内　　容	講　　師
1	日本看護協会および静岡県看護協会の組織と活動	職能団体である看護協会を知り、加入の意義を考える	静岡県看護協会 常務理事
2	静岡県看護連盟について	看護問題解決のための看護連盟の活動を理解する	静岡県看護連盟　会長他
3	ナースセンターについて	あなたの今と未来を応援します	ナースセンター所長
4	先輩看護師からのメッセージ	私の看護、新人看護職に伝えたいこと	富士市立中央病院/富士いきいき病院/静岡市立清水病院/JA 静岡厚生連静岡厚生病院/藤枝市立総合病院/島田市立総合医療センター/菊川市立総合病院/中東遠総合医療センター/すずかけヘルスケアホスピタル/浜松医科大学医学部附属病院/浜松医療センター/浜松赤十字病院
5	オンデマンド視聴	日常生活場面で理解する看護職の倫理綱領と看護業務基準 2021 改定版［オンデマンド 101］	静岡県看護協会 常務理事
6	グループワーク・発表		
7	まとめ		

3　実施状況　（受講者総数 553 名）

実　施　月　日		会　　場	受講数	実　施　月　日		会　　場	受講数
1 回	6 月 12 日(水)	アクトシティ浜松	96 名	4 回	7 月 10 日(水)	アクトシティ浜松	93 名
2 回	6 月 20 日(木)	静岡県看護協会	110 名	5 回	7 月 26 日(金)	静岡県看護協会	113 名
3 回	6 月 27 日(木)	三島市民文化会館	42 名	6 回	7 月 31 日(水)	アクトシティ浜松	99 名

4　アンケート結果および評価（回答数 529／回答率 95.7%）





参加者同士のネットワーク作りのため、同じ施設の看護職が同じテーブルにならないようにグループメンバーや座席を工夫した。アンケートでは違う施設の方と交流できてたのしかったとの意見もあり、ネットワーク作りはできていた。

また、先輩看護師からのメッセージやグループワークがこれからの仕事をしていくうえで参考になったとの意見が多く、アンケートの結果からも看護協会・ナースセンター・看護連盟のオリエンテーションとしてのねらいは達成できた。

保健師職能委員会報告

<table>
<tr><td>活動名</td><td>保健師職能交流会</td><td>受講者　：　13 名</td></tr>
<tr><td>シンポジスト</td><td>Violas（ヴィオラズ）　久保田千紘
静岡市清水区港北地域包括支援ｾﾝﾀｰ　柏木さつき
ﾚｾ・ｽﾀｯﾌ株式会社静岡営業所　東 佳美
静岡県立吉原林間学園　小林加奈</td><td rowspan="4">〈アンケート結果〉13 件(回収率 76.9%)
・所属：行政(50%)、健診機関（40%)、健保組合（各 10%）
・内容の満足度：　満足（80%）
どちらかというと満足（10%）
〔意見・感想〕
・保健師の仕事も多岐にわたることが理解できました。今後の視野を広げていくうえで参考になります。
・フリートークではとても楽しみながらお話を進めることができました。
・意見交換の場は中々ないのでありがたいです。</td></tr>
<tr><td>開催日</td><td>令和６年７月 27 日（土）</td></tr>
<tr><td>目標</td><td>行政、産業、健診等実施機関、大学等で働く保健師の活動を理解し、連携・協働につなげる</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>１)シンポジウム：「視野を広げよう！様々な場でのリアルな保健師の活動～ここでしか聞けない保健師のシゴト～ Part.3」
２)お楽しみトークタイム</td></tr>
<tr><td>評価
まとめ</td><td colspan="2">シンポジウムと参加者同士の交流を図るためのトークタイムの２部構成で実施した。
行政や医療機関以外、交様々な場で働く保健師を知り、情報交換と交流の機会ができたとの声が聞かれた。同様のニーズが 高いことが確認できた。継続的な開催を企画する予定である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>活動名</td><td>保健師研修会</td><td>受講者　：　15　名</td></tr>
<tr><td>講師</td><td>静岡県健康福祉部 障害福祉課 山本 愛
助言者：公益財団法人復康会 澤野文彦</td><td rowspan="4">〈アンケート結果〉10 件(回収率 67%)
・所属：健診等機関(40%)、病院等（40%）行政(10%)、他（10%）
・内容の満足度
<table><tr><td></td><td>満足</td><td>どちらかというと満足</td><td>どちらかというと不満足</td></tr><tr><td>講演</td><td>40%</td><td>60%</td><td>0%</td></tr><tr><td>事例検討</td><td>50%</td><td>40%</td><td>10%</td></tr></table>〈意見・感想〉
・事例を読み込む時間と各自で考える時間がもう少しあればと思いましたが勉強になりました。</td></tr>
<tr><td>開催日</td><td>令和７年１月 18 日（土）</td></tr>
<tr><td>目標</td><td>改正された精神保健福祉法を理解し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに向けて、事例検討をとおしてアセスメントの視点を身につける</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>テーマ：「苦手を乗り越えよう ～メンタルヘルスの相談と援助～ 」
講演「精神保健福祉法改正のポイントについて」
【事例検討】２事例(幼児と産業保健)</td></tr>
<tr><td>評価
まとめ</td><td colspan="2">当日は、行政主催の研修会と重なったため、行政保健師の参加者数が少なかった。
メンタルケアに関心があって参加する人が多く、事例検討の時間がもう少し欲しかったとの声があった。また、定期的なメンタルヘルスの研修の他、効果的な保健指導の研修をして欲しいとの要望が聞かれたので、次年度の企画に反映していきたい。</td></tr>
</table>

助産師職能委員会報告

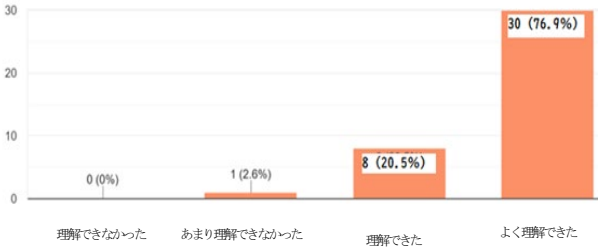
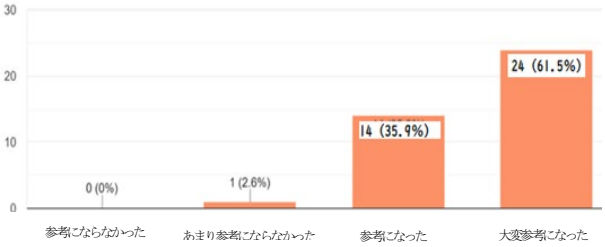
<table>
<tr><td rowspan="2">研修名</td><td rowspan="2">助産師実践能力強化研修会</td><td>申込</td><td>受講</td></tr>
<tr><td>48 名</td><td>47 名</td></tr>
<tr><td>講師</td><td>順天堂大学医学部付属静岡病院　田中利隆</td><td colspan="2" rowspan="4">＜アンケート結果＞　40 件　回収率 85.1%
・参加者の助産師経験年数は 1～5 年目が 6 割、6 年から 20 年が 3 割、21 年以上が 1 割の参加。
・受講の理由で昨年度は助産師ラダーⅢの取得のための参加が 3 割程度であったが、本年度は 7 割が取得予定または更新のための受講であった。
・講義の内容は理解できた・概ね理解できたで 100%であった</td></tr>
<tr><td>開催日</td><td>令和 6 年 7 月 13 日（土）</td></tr>
<tr><td>目的</td><td>・CTG モニタリング波形の発生機序と臨床的意義について理解できる
・5 段階分類に基づく判読と対応ができる
・ハイリスクの要因について予測的判断をもち、優先度を考慮して行動できる</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>・事前テスト（10 分）
・講義
「分娩期の胎児心拍数陣痛図（CTG）について」
・グループワーク
「分娩期の胎児心拍数陣痛図（CTG）の事例から看護を考える」
・事後テスト（10 分）
・テスト解説</td></tr>
<tr><td>評価
まとめ</td><td colspan="3">昨年より日本助産評価機構助産師ラダーⅢ取得強化のため、研修に力を入れている。広報活動も助産師会やクリニックなどにも伝達をして研修参加を促した。結果受講者増えているため次年度も継続して力を注いでいく。</td></tr>
</table>

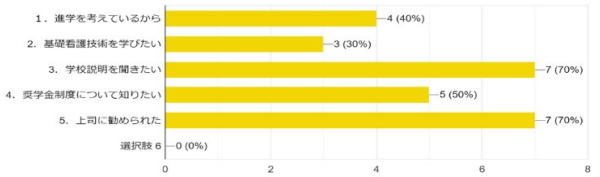
<table>
<tr><td rowspan="2">研修名</td><td rowspan="2">助産師交流会</td><td>申込</td><td>受講</td></tr>
<tr><td>12 名</td><td>12 名</td></tr>
<tr><td>講師</td><td>静岡県立こども病院　　宇佐美ゆか
いなば助産院　　稲葉由子</td><td colspan="2" rowspan="4">＜アンケート結果＞回収率 100%
・研修会参加助産師経験年数
1～5 年まで 15%　6～10 年目 35%　11 年目以上 50%の参加状況
・受講の理由　（複数回答可）
防災に興味があった 75%（昨年度 48%）、施設からの勧め 58.3%（昨年度 33%）自己研鑽 50%（昨年度 19%）
・リエゾンの存在を知っていた 41.7%　知らなかった 58.3%
＜アンケート記載事項＞
・事前の知識が不足していたので、今後学びを深めたいと思います。
・病院での活動をもう少し具体的に説明していただけると今後に繋げていけるなと思いました。
・退院指導の際に防災の話を含ませる。</td></tr>
<tr><td>開催日</td><td>令和 6 年 9 月 26 日（木）</td></tr>
<tr><td>目的</td><td>近年、地震以外に様々な災害が頻発している。いざ、災害が発生した時自分たちはどんなことが出来るか、常に考えていくことが防災の一つだと考える。私たちが日頃見ている妊娠中や産後のママ、乳幼児は、災害時に特別な支援が必要とされる層です。必ずやってくる災害に対して、助産師として出来ることを考える。</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>講義：「災害時小児周産期リエゾンの役割」
「災害に備える～知・技・動～」
グループワーク・シミュレーション</td></tr>
<tr><td>評価
まとめ</td><td colspan="3">能登の震災後さらに防災に関する意識が高まっているのか、参加者は中堅層が多かった。昨年は現場の状況や現状の把握を中心に行い、本年度は現場で動く小に周産期リエゾンの活動も報告してもらいながらの研修となった。参加者のリエゾンナースに関する関心が高まったことは良かった。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">研修名</td><td rowspan="2">産科看護管理者交流会</td><td>申込</td><td>受講</td></tr>
<tr><td>12 名</td><td>12 名</td></tr>
<tr><td>講師</td><td>公益社団法人日本看護協会 常任理事 井本寛子</td><td colspan="2" rowspan="5">＜アンケート結果＞　回収率 91.6%
①　研修で印象に残ったこと（自由記載）
・病棟でも分娩が無くとも出来ることがある
・助産師の活躍推進
・まだまだ助産師にはやれる事があるということ
・助産師の仕事は全ての女性のライフケアに携ること
・国の施策に注目すること
・母子のための地域包括ケアについて
②　病棟運営に役立てられること（自由記載）
・女性の健康教育について　・院内助産をうたう
・助産師の活躍の場を広げるために女性外来の開設も検討していきたい。
・新人助産師の教育や看護部への働きかけについてスタッフのモチベーション維持のために看護の日と助産の日を作ることなど
・分娩件数減少や混合病棟化していく中で、安全でモチベーションが保てる助産師の活躍の場を整えていきたい</td></tr>
<tr><td>開催日</td><td>令和 6 年 12 月 14 日（土）</td></tr>
<tr><td>テーマ</td><td>1. 周産期医療を担う医療機関の産科病棟管理者が参集し、助産師に求められている役割・業務について知る。
2. 求められている助産師を育成するため助産師ラダーの活用について産科管理者が知り、活かせる
3. 現場の現状と照らし合わせ、今ある問題点の解決の方法などの意見交換をする</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>講義：
「社会が求める助産師の育成」
グループワーク：
「助産師教育・業務における問題点への改善方法の検討～助産師ラダーの活用について～</td></tr>
<tr><td>評価
まとめ</td><td colspan="3">産科病棟の管理者として、自部署の助産師をどのように活用していくかヒントを得て考えることが出来る研修となったと考える。病棟の混合化で助産師が自分たちの役割を見失いモチベーションが上がらない現状がうかがえるが、管理者として助産師ができる事の支援を考えるきっかけとなる研修となった。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">研修名</td><td rowspan="2">新人助産師交流会</td><td>申込</td><td>受講</td></tr>
<tr><td>19 名</td><td>19 名</td></tr>
<tr><td>講師</td><td>とみおか母乳ケア house　冨岡ほなみ</td><td colspan="2" rowspan="5">＜アンケート結果＞　回収率 100%
・参加者の割合 1 年目 42.1%、2 年目 47.4%、3 年目 5.3%、4 年目 5.3%であった。
①　今回の研修で印象に残ったこと（自由記載）
・乳房の状態をしっかりアセスメントすることが大切だと学んだ。保護器を何気なく使ってしまうことがあったので、もっと考えて授乳支援したいと思った
・乳房支援の手技
・授乳のポジショニングについて、母が前屈みになっても後で姿勢を正せば良いこと
・授乳の姿勢やタオルを挟んだりする
②　母乳育児支援について（自由記載）
・お母さんの気持ち、本音や意向を確認することの大切さ、後悔のないような支援が必要であること
・患者さんへの対応の具体例がたくさん聞けて学びになりました</td></tr>
<tr><td>開催日</td><td>令和 7 年 1 月 30 日（木）</td></tr>
<tr><td>目的</td><td>母乳育児を支援することが出来る</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>講義：
【母乳育児支援】　思いっきり聞いてみよう！話してみよう！
グループワーク：
「母乳指導で困っていること」
「仕事で困っていること」</td></tr>
<tr><td>評価
まとめ</td><td colspan="3">昨年の新人研修で希望が多かった母乳育児に関する研修を行った。開業して地域の母と子に援助を行っている助産師に指導や講義を受け実践に繋げていける研修となった。自分の現状も見つめ直すことが出来た研修となった。</td></tr>
</table>

看護師職能委員会Ⅰ報告

研修名	「輝こう　外来看護師」 ～今後求められる外来看護師の役割を理解する～	令和６年７月６日 受講者　42 名	令和７年１月 25 日 受講者　41 名
講師	医療法人社団真養会法人本部　看護・介護統括局長 経営企画部人材育成部長　　塩田美佐代	＜アンケート結果＞ ●講義内容は理解できたか  	
開催日	令和６年７月６日（土） 令和７年１月 25 日（土）		
目的 目標	〈目的〉外来看護師に求められる看護の専門性と役割を認識し、患者のニーズに応じた地域での生活を支えるための外来看護の専門性と役割について学ぶ 〈目標〉 「変化する外来看護師に求められる役割を理解する」 ７月：社会情勢の変化と外来看護師の役割を理解する １月：患者のセルフマネジメント力を高める支援方法を理解する		
内容	講義　７月：「変化する外来看護師に求められる役割」 １月：「患者のセルフマネジメントを高める支援方法」 グループワーク 実践報告：島田市立総合医療センター　井上美奈子 市立御前崎総合病院　　内藤真結子	●実践報告は参考になったか  	
評価 まとめ	講義は、具体的な外来での取り組みを紹介するとともに、外来看護師の実践を承認する内容であり、外来看護の重要性を再認識するとともに、参加者のモチベーションを高める機会となった。グループワークおよび実践報告では、他施設の取り組みを知ることができ、自施設での実践の参考になるとの意見が多かった。本交流会では、学びが外来実践の変化につながったという成果が数多く報告されているが、次年度は管理者を参加対象者に含めることで、成果の拡大を図っていく。		

研修名	准看護師進学支援交流会	令和６年６月 29 日 受講者　10 名
講師	医療法人社団喜生会　新富士病院　GRM　田中稔	＜アンケート結果＞ ●参加者が所属する施設種別
開催日	令和６年６月 29 日（土）	
目標	准看護師の進学支援と受験対策、医療安全の基礎について学ぶ、奨学金制度を知る	
内容	講義「医療安全とコミュニケーションの基礎を学ぼう」 働きながら看護師資格を取得した先輩の体験談 ・静岡済生会総合病院　　松下直美 ・静岡市立清水病院　　藤井明美 学校説明　静岡県立看護専門学校 東京衛生学園専門学校 学校法人愛西学園　弥冨看護学校 専門学校高崎福祉医療カレッジ 各学校担当者と企画者の意見交換、情報共有	●交流会への参加動機 
評価 まとめ	実際に進学した経験者を交えたグループワークを初めて実施した。少人数で話し合ったことで、お互いの悩みを共有でき、進学について前向きに考えることができていた。経験者が体験から具体的な解決策を導き出してくれたため、自分のことに置き換えて考えることにつながっていたのではないかと考える。	

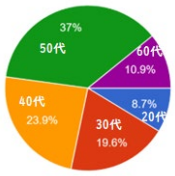
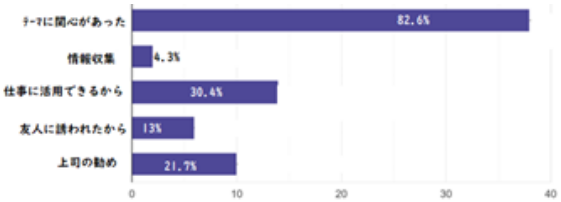
看護師職能委員会Ⅱ報告

<table>
<tr><td>研修名</td><td>看護職員研修会　第１回</td><td>受講者　：　69 名</td></tr>
<tr><td>講師</td><td>浜松医療センター　小梢雅野
菊川市立総合病院　村山陽子
小早川整形リウマチクリニック　永井薫</td><td rowspan="4">＜アンケート結果＞
・参加理由：テーマに関心があったから　74%
仕事に活用できるから　66%　情報収集　57%
・内容について：満足　62.9%　やや満足　31.2%
・今後の役に立つ：はい　97.1%

＜アンケート記載事項＞
・会員で良かったこと
定期的に研修案内が届くこと
研修の情報が分かる　研修時、他の病院、施設の方と話しができること
今回のような勉強会に参加でき、新しい情報を知ることが出来ること
最新の情報と知識が得られる
学びのきっかけを作ることが出来る</td></tr>
<tr><td>開催日</td><td>令和６年６月８日（土）</td></tr>
<tr><td>目標</td><td>1. 地域包括ケアシステムの中でその人らしく“生きることを支える”看護職の育成（役割を理解し実践力の強化）
2. 施設・在宅（訪問看護・クリニック等）における看護師同志の更なる情報交換・連携を推進していく</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>「最新の医療的処置・ケアを学ぼう」
今の知識・技術大丈夫ですか</td></tr>
<tr><td>評価
まとめ</td><td colspan="2">研修の機会が少ない看護師職能Ⅱ領域の方のニーズを把握した上での今回の研修でした。今の知識に自信が持てずに日々業務についている方には、今回のような研修は今後も継続する必要を感じた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>研修名</td><td>看護職員研修会　第２回</td><td>受講者　：29 名</td></tr>
<tr><td>講師</td><td>ユークロニア株式会社代表
作業療法士　菅原洋平</td><td rowspan="4">＜アンケート結果＞
・参加理由：テーマに関心があったから　100%
・内容について：満足　77%　　やや満足　23%
・今後の役に立つ：大変活かせる 47%　活かせる 53%
・受講生の年齢：50 歳以上　65%
・経験年数：20 年以上 70.6%
・会員：非会員比率　8：2
＜アンケート記載事項＞
・会員で良かったこと
色々な研修に参加できる
自分の知識向上になっている
タイムリーに様々な情報を得られる
業務に役立つ研修や情報提供があり有難い</td></tr>
<tr><td>開催日</td><td>令和６年 12 月７日（土）</td></tr>
<tr><td>目標</td><td>1. 地域包括ケアシステムの中でその人らしく“生きることを支える”看護職の育成（役割を理解し実践力の強化）
2. 施設・在宅（訪問看護・クリニック等）における看護師同志の更なる情報交換・連携を推進していく</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>オンライン研修
「あなたの人生を変える睡眠の法則」
質の良い睡眠で毎日が充実！</td></tr>
<tr><td>評価
まとめ</td><td colspan="2">今回の講師が遠方におられる方だったので、オンライン研修にさせて頂きました。気楽に研修参加できるとの思惑ではありましたが、それに反して参加者が少なかったのが残念です。講義は現在注目されている「良質な睡眠をとるには」でしたが、いままでの睡眠の常識を見事に覆された内容でした。受講生の年齢からオンライン研修より集合研修が良いのかもしれないことが分かった</td></tr>
</table>

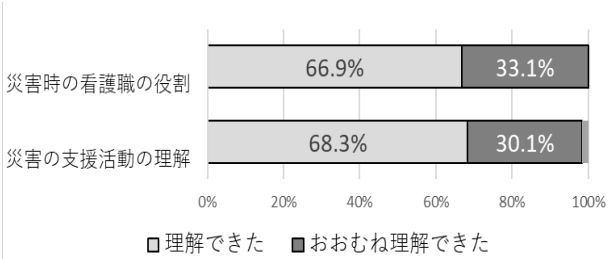
看護師職能Ⅰ・Ⅱ合同交流会

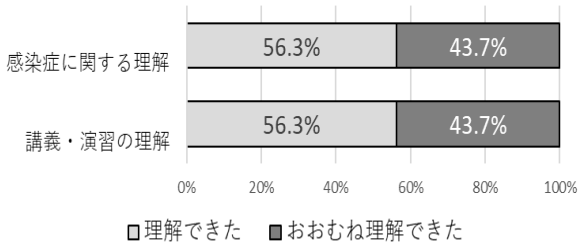
研修名	看護師職能Ⅰ・Ⅱ合同交流会	令和６年９月８日　　受講者　44 名
講師	山梨県立大学看護学部教授　　前澤美代子	＜アンケート結果＞ 【参加者の所属先】　　【参加者の年代】 病院　　76.1% 介護施設　　8.7% 訪問看護ステーション　6.5% 診療所・市町・学校　8.7%  【参加動機】  【満足度】大変満足 93.5%　満足 2.2% 【今後活かすことができますか】 大変活かすことができる　　50% 活かすことができる　　47.8%
開催日	令和６年９月８日（日）	
目標	その人に適切な看護を切れ目なく提供するための情報を共有し、協働できる関係を構築できる	
内容	講演 「看護を切れ目なく提供するための知識と役割 ～本人の生ききるを支えるために～」 演習：アロマテラピー リンパドレナージセラピストによる アロママッサージ	
評価 まとめ	病院・地域との連携についての課題や訪問看護からの視点でのお話があった。また参加者全員から現場で抱えている悩みを書き取り、後日個々に対して丁寧な回答を頂けたこと等が対象者の観る感性を豊かにさせてくれた。	

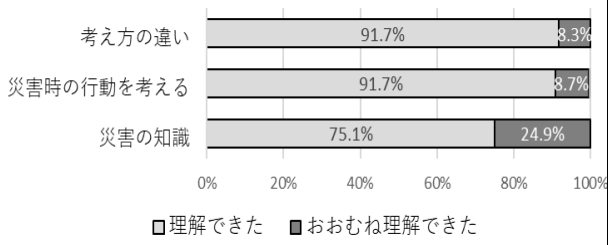
三職能合同交流会報告

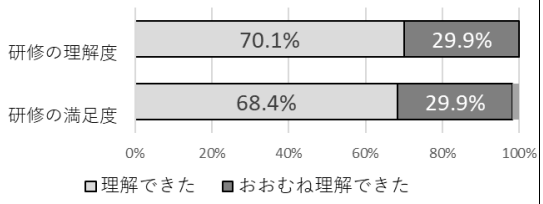
研修名	三職能合同交流会	受講者　：　46 名
講師	講師：静岡大学防災総合センター特任教授 岩田孝仁 実践報告： 静岡県中部健康福祉センター　松島明子 中東遠総合医療センター　田浦郁子 藤枝市立総合病院　浅野太志 アクアホーム浜松入野　坂井方美	＜アンケート結果＞　46 件　回収率 100% ・参加理由（複数回答可） テーマに関心があったから（78.7%） 情報収集のため（31.9%） 仕事に活用できるから（29.8%） ・研修内容 満足（72.3%） どちらかといえば満足（23.4%） ・実践報告 満足（57.4%） どちらかといえば満足（38.3%） ＜アンケート記載事項＞ ・それぞれの立場や活動の違いを知ることができた。 ・自施設での研修や対策に活かしていきたい
開催日	令和６年 10 月５日（土）13：00～16：00	
テーマ	「災害に備えて互いの役割を理解し、つなぐ看護を考える」	
内容	講演「想像力の欠如におちいらない防災」 岩田　孝仁 教授 実践報告 ４名の報告者（DHEAT：保健師） （DMAT：助産師、看護師） （災害支援ナース） 質疑応答・意見交換	
まとめ	実践報告では、職能の活動の違いを知り、理解して連携することの重要性を学ぶことができたとの声が多かった。また、講師からの講演では、最新の震災の特徴や今後の課題についての講義があり「受援」について考える機会になった。防災対策は、組織の一員としての役割と地域住民としての役割があり、平常時からのシミュレーション研修や訓練が重要だと再認識する機会となった。年始めに起こった能登半島地震への支援をキーワードとした、三職能合同交流会はタイムリーな企画であったと考える。	

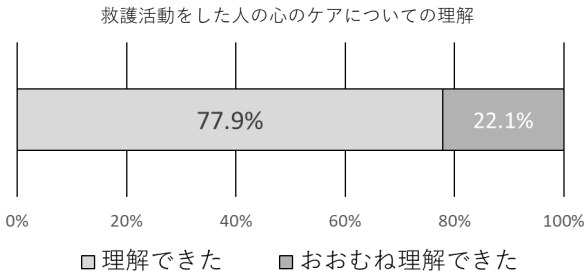
災害看護対策委員会

研修名	災害支援ナース養成研修（災害）	受講者 第１回　74 名　　第２回 68 名
講師	静岡県健康福祉部地域医療課 医療人材室室長　村松哲也 磐田市立総合病院 副看護部長　DMAT 指導者　高橋美千子 静岡県看護協会　専務理事　青木春美	第１回:回答 74 名(100%)　第２回:回答 68 名(100%) 
開催日	第１回　令和６年 11 月 25 日（月） 第２回　令和７年２月 20 日（木）	
目標	1. 災害・感染症等に関する基礎知識・技術を習得 2. 応援派遣の概要を理解し、研修修了者として実際の派遣時に対応できる技能を修得する	アンケート記載事項 ・数時間のうちに発災から支援終了までの流れが詰め込まれていて、時系列でわかりやすかった。 ・災害支援ナースとしての活動を考えることで、漠然とした不安が減って次回、要請があった際は参加したい。 ・実際の体験を踏まえた講義は大変分かりやすく伝わりました。
内容	・災害・感染症発生時の応援派遣の仕組み、登録 ・県看護協会の災害・感染症発生時の応援派遣時の看護支援活動、災害支援ナースの心構えと活動の実際（演習）　＊同一内容で２回開催	
評価 まとめ	令和６年４月から災害支援ナースの制度が変更になり、定員以上の研修申込者があり、受講者は各施設のバランスをみて選定をした。講義演習では、地震発生後の派遣決定から自院に帰って来るまでを、場面ごとに設問を設けて、グループで検討した。時間経過に沿って考えることで、イメージがしやすくなり、実践的な意見交換ができた。今年発生した能登半島地震に派遣されたときの話や写真などもあり、自分が派遣された場合を具体的に考えることができた。	

研修名	災害支援ナース養成研修（感染症演習）	受講者 第１回　74 名　　第２回 72 名
講師	静岡県立総合病院　感染管理認定看護師　鈴木清美 静岡県立総合病院　集中ケア認定看護師　石橋幾久	第１回:回答 74 名(100%)　第２回:回答 70 名(98%) 
開催日	第１回　令和６年 11 月 26 日（火） 第２回　令和７年２月 21 日　(金)	
内容	・災害時の感染症対応、施設内のゾーニング ・災害時の呼吸管理、呼吸の解剖生理、呼吸のフィジカルアセスメントとイグザミネーション、呼吸管理の看護ケア（酸素療法、人工呼吸器管理、口腔ケア体位変換/ドレナージ ・多職種連携による　患者・家族のへのケア・看取り ・演習：手指衛生、PPE の取り扱い、呼吸のフィジカルイグザミネーション、体位ドレナージ ＊同一内容で２回開催	アンケート記載事項 ・感染に関することは、その場によって正解というか最適な支援が変わると思います。臨床で感度をあげていきたい。 ・演習で実際に PPE を装着して実践したため、装着時の注意点や工夫なども含めて理解を深めることができた。 ・感染に関する対応やゾーニング、４分割法を利用したアクションについて理解できた
内容	1. 災害・感染症等に関する基礎知識・技術を習得 2. 応援派遣の概要を理解し、研修修了者として実際の派遣時に対応できる技能を習得する	
評価 まとめ	感染に対する基礎知識を講義と演習から、個人防護具の着脱や、装着した状態で呼吸理学療法など実際の場面を想像しやすい演習ができた。今回は看護協会の２部屋を使用して演習を行ったが、部屋移動も含めて問題はなかった。机上訓練で、ゾーニングについて学んだ。感染管理の視点で事例を用いて倫理的課題の検討など家族支援について具体的な検討ができた。災害や感染症支援では、看護職として災害現場に行った時にどのように思考して行動すればよいか学ぶ機会となる研修が開催できた。	

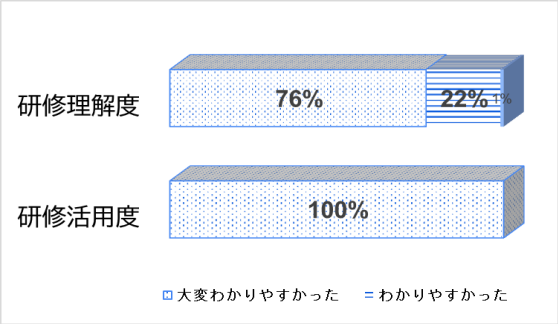
研修名	災害看護一般研修Ⅰ	受講者 第1回　75名　　第2回95名
講師	静岡県中部地域局危機管理課　主査　柴田聖子 救急看護認定看護師　望月俊明	第1回:回答75名(100%)　第2回:回答94名(97%)  アンケート記載事項 ・静穏期である際に実際の災害に備える重要性が理解できた ・災害発生時の初動は知っているが、実際行動できるように訓練が大事だと学んだ。 ・病院の役割や病院や自宅周辺のハザードマップの確認をする ・クロスロードは、他の意見も聞けて参考になった。災害時は、とっさの判断が必要になる為、イメージをして備える
開催日	第1回　令和6年 6月19日(水) 第2回　令和6年10月23日(水)	
目標	1 各種災害について学び、災害のリスクや被害想定から必要な備えをイメージできる 2 災害被災時の対応や行動を自らの問題として考えることが出来る	
内容	1災害の基礎知識 (静岡県の地震のリスクと被害想定、日頃からの備え) 2 災害看護とは 3 過去の様々な災害から学ぶこと 4 被災時の状況から自己の行動をイメージしグループで話し合う(クロスロード)　　＊同一内容で2回開催	
評価 まとめ	今年発生した能登半島地震の影響もあり、災害対応への関心が高まっている。各研修に対し定員以上の応募があり受講者が増加した。多様な災害(予測できる災害、予測できない災害)について、直近の災害支援(能登半島地震)の実際の活動を踏まえての災害看護の講義があった。自然災害に対して、自らの災害に対す対応と準備を具体化し、日ごろからの備えが、災害時の命を守る行動につながることを思考する機会となった。クロスロード演習から個人の価値観を理解し災害時に正解のない中で看護師として行動レベルで災害を考えるきっかけとなる研修であった。	

研修名	災害看護一般研修Ⅱ	受講者 第1回　63名　　第2回　55名
講師	順天堂大学医学部附属静岡病院 救急救命センター　主任　勝間田敏宏 (DMAT) コーディネーター　災害看護対策委員会委員	第1回:回答63名(100%)　第2回:回答54名(98%)  アンケート記載事項 ・初期対応がどれだけ大切なのか理解することができた ・演習を通してどういった問題点があがるか具体的に分かった。 ・自施設、自部署の災害対策について見直していきたい。 ・初動体制の見直し、院内の現状の対策を知る必要があると改めて感じた。 ・平時から、防災訓練に参加し、病院のトリアージの様子をきちんと理解し、有事の際に役に立てるようにしたい。
開催日	第1回　令和6年 7月29日(月) 第2回　令和7年 1月30日(木)	
目標	災害時の看護に必要なロジスティックスの知識を習得できる	
内容	ロジスティックを意識した看護 1 災害とロジスティック 2 情報整理、クロノロジー(講義・演習) 3 情報伝達(講義・演習) 4 シミュレーションマネジメント ＊同一内容で2回開催	
評価 まとめ	2024年1月に発生した度能登半島地震後のため、病院だけでなく老人福祉施設、在宅療養および介護施設、産業医療での災害対策が求められ、参加者の研修に対する知識の習得だけでなく、施設内の防災対策の具体化を目指したマニュアルの見直すことを目的としていることが伺えた。机上であっても災害時の具体的行動を示すアクションカードを使用したことで研修生の自施設での活用や見直しのきっかけにつながる研修が開催できた。	

<table>
<tr><td>研修名</td><td>令和６年度　災害支援ナース登録者研修</td><td>受講者
102 名</td></tr>
<tr><td>講師</td><td>四天王寺大学看護学科　准教授　山崎達枝
＜実践報告者＞
富士宮市立病院　　石川志子
フジ虎の門整形外科病院　高村充</td><td rowspan="4">アンケート結果　　回答 95 名（98%）
 

<u>アンケート記載事項</u>
・能登の災害活動に参加して、自分とは違う時期や違う避難所の方の話が聞けて、改めて時期や場所で現場状況に合わせた看護があることを確認できた
・様々なストレス反応を知ることで、自分もストレスを感じていることを理解することが大事である
・ストレスに対する自分の傾向を知っておくことで自分自身を守ることにつながることを学んだ</td></tr>
<tr><td>開催日</td><td>令和７年１月 10 日（金）13：00　～　16：30</td></tr>
<tr><td>目標</td><td>災害支援研修修了者として、知識・技術の確認
目的：災害支援ナースの災害支援活動の実際を学ぶ
目標：能登半島地震における災害支援ナースの実践活動を学ぶ
救援活動をした看護職の心のケアについて知識を深めることができる</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>「能登半島地震における災害支援ナースの活動」
実践報告者２名より報告
「災害支援ナースへの心のケア」</td></tr>
<tr><td>評価
まとめ</td><td colspan="2">令和６年度「能登半島地震」に静岡県看護協会から災害支援ナースとして派遣された 43 名のうち、災害発生初期の活動と約１ヶ月後に派遣活動をした２名が活動報告をした。災害派遣までの過程や準備、活動の実際と困難や調整などを振り返り災害支援ナース登録者に向けて報告した。講演会では、災害看護は、看護の原点であること、行政や関係者との連携や支援活動の中でストレスを抱えやすいこと、被災地や避難所における倫理的問題を学ぶ機会となった。</td></tr>
</table>

働き続けられる職場づくり推進委員会報告

研修名	第１回　労働環境に関する講演会	受講者：　65 名（PM63 名）
講師	国際医療福祉大学　大学院　副大学院長 （前日本看護協会会長）　福井トシ子	＜アンケート結果＞ 
開催日	令和６年 12 月８日（日）	
目標	女性のライフステージにおける体の変化や心の不安を緩和するため、最近注目を浴びているフェムケアについて学び、心身共に健康で働くことができる職場づくりに役立てる	
内容	「健康でいきいき働きつづけられるために」 ～フェムケアについて理解を深めよう～ 1.　講義 2.　【事例報告】聖隷健康サポートセンター　鳥羽山睦子 3.　グループワーク	＜アンケート記事事項＞ ・フェムケアについてわかった ・早期退職を考えていたが、今後も看護職から離れずにいこうと思う ・明日からポジティブ思考でいこうと思う
評価まとめ	「幸せだから成功する」ことが、ポジティブ心理学で科学的に証明されている。「自分が幸せと感じるのはどんな時か」という問いから始まり、健康でいきいき働き続けられるためには、自分の幸せを維持することが必要であり、そのためにはどうすればよいのかということを考えさせられる講義であった。午後は、レディスクリニックにおける事例報告があり、問診やカウンセリングの実際の紹介があった。その後のグループワークでは「働き続けられる職場をつくるための看護師の健康支援についての行動目標」として「女性のライフステージを理解し、フェムケアについて話しやすい職場にする」「ポジティブシンキング、自分の身体を大切にした働き方をする」などがあがった。いきいきと働きつづけるために、well-being と自分自身の幸せについて考える楽しい研修となった。	

事業名	広報活動	活動内容	看護しずおか４回掲載/研修会報告１回/特集１回
目的	日本看護協会が作成した「医療安全推進のための標準テキスト」を啓蒙し、静岡県内の医療や看護の安全と質の向上につなげる		
掲載内容	第１弾	「離床センサーの電源入れ忘れ」　（医療安全情報 NO.197）	
	第２弾	「医療関連機器による圧迫創傷」　（医療安全情報 NO.192）	
	Vol.2	（特集）静岡県内看護師（介護施設・訪問看護ステーション）の労働環境に関する実態調査（概要版）	
	第３弾	【認知症ケアの質向上】　Twiddle Muff（認知症マフ）活用のご紹介	
	Vol.4	（研修会報告）「健康でいきいき働きつづけられるために」～フェムケアについて～	
	第４弾	「照合の未実施による誤った患者への検査・処置」（医療安全情報 NO.195）	

全体の評価まとめ	令和６年度は、令和５年度に実施した静岡県看護協会に加入している訪問看護ステーション、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院に対し実態調査結果をまとめ看護しずおかに掲載した。また、今年度は離職率の低い施設の看護部長と看護職員に「看護職員の離職防止・定着に向けた取り組み」をインタビューさせていただき動画を作成した。静岡県内の多くの施設で働き続けられる職場づくりに活用できることを期待する。 医療安全の記事については、身近に起こりうる具体的事例について注意喚起と認知症ケアの向上を目的に Twiddle Muff（認知症マフ）活用の紹介を掲載した。